

平成 21 年度
「インドの包装機械市場調査」

平成 22 年 3 月
日本貿易振興機構（ジェトロ）

本報告書に関する問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
海外市場開拓課

〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32
TEL：03-3582-5313
FAX：03-5572-7044

【免責条項】

ジェトロは、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、あるいは懲罰的損害および利益の喪失については、一切の責任を負いません。これは、たとえジェトロがかかる損害の可能性を知らされていても同様とします。

© JETRO 2010

本報告書の無断転載を禁ずる

アンケート返送先 FAX 03-5572-7044

日本貿易振興機構 海外市場開拓課宛

● ジェトロアンケート ●
「インドの包装機械市場調査」

ジェトロでは将来の市場として、潜在的需要が高い可能性のある国や地域のマーケット情報を日本の中堅中小企業の方々に紹介することを目的に本調査を実施いたしました。報告書をお読みいただいた後、是非アンケートにご協力をお願い致します。

■ 質問1：今回、本報告書で提供させていただきました「インドの包装機械市場調査」について、どのように思われましたでしょうか？（○をひとつ）

4：役に立った 3：まあ役に立った 2：あまり役に立たなかった 1：役に立たなかった

■ 質問2：上記のように判断された理由、また、その他、本報告書に関するご感想をご記入下さい。

■ 質問3：その他、ジェトロへの今後のご希望等がございましたら、ご記入願います。

貴社・団体名：
部署名：

★ ご記入いただいたお客様の情報は適切に管理し、本報告書の成果把握に利用いたします。ご協力ありがとうございました。

はじめに

インドは、包装機械のユーザーである食品加工、化粧品、医薬品産業などの成長が目覚しく、近年包装機械の有力な市場としてクローズアップされている。

日本の包装機械産業は、中小企業が殆どの業界で、輸出比率は7%前後と国内市場が主体の業界である。2008年秋以降の世界同時不況の影響で国内需要の落ち込みは大きく、厳しい市場状況にある。中小・零細メーカーの安定的経営基盤を確立するため、欧米諸国と比べて極端に低い輸出比率の拡大が重要かつ急務の課題となっている。

このため、インドの包装機械市場に対する日本の包装機械企業や業界団体の関心は高い。しかし、わが国にはインドの包装機械産業に関するデータが殆どなく、インドに事務所を開設している企業あるいはビジネスを展開している企業からの情報提供に頼っているのが現状である。

こうした状況で、日本包装機械工業会からも今後のインド市場への対応策、進出のためのデータとして活用する目的でインドの包装機械市場についての調査実施の強い要望があった。

本調査は、インドにおける包装機械の現状、包装資材供給や流通包装事情、主要ユーザー産業の状況、主要包装機械メーカーの概要など調査したものである。調査はジェットロ・ムンバイ事務所が担当し、現地の Cygnus Business Consulting & Research Pvt. Ltd に調査委託を行う形で実施した。

本報告書がインドへ包装機械を輸出している企業、これから輸出に取り組もうとしている企業の方々および業界団体のご参考になれば幸いである。

2010年3月
日本貿易振興機構（ジェトロ）

目次

要旨.....	8
1. 包装機械の需給シナリオ.....	11
1.1 主な製品とそのサブセグメント.....	11
1.1.1 真空包装機械.....	11
1.1.2 ブリスター包装機械.....	11
1.1.3 パウチ包装機械.....	11
1.1.4 液体包装機械.....	12
1.1.5 フレキシブル包装機械.....	12
1.1.6 段ボール箱機械.....	13
1.1.7 包装機械のユーザー業界別セグメンテーション.....	14
1.2 生産統計.....	17
1.3 生産拡大の傾向.....	18
1.4 輸出入状況.....	18
1.4.1 輸出入統計.....	18
1.4.2 最新の国別輸出入の推移.....	19
1.4.3 地域別輸出入.....	24
1.5 販売のセグメントごとの構成.....	27
2. インドにおける主要包装原料及び主要包装原料製造業者.....	28
2.1 包装原料市場の概要.....	28
2.1.1 市場構造.....	28
2.1.2 市場規模.....	29
2.1.3 消費.....	30
2.1.4 包装原料のトレンド.....	31
2.2 包装原料の主要国内メーカー.....	37
2.2.1 Shako Flexipack Pvt. Ltd. (グジャラート).....	37
2.2.2 UFLEX Ltd. (ウッタルプラデシ).....	37
2.2.3 ITC Ltd. (西ベンガル).....	37
2.2.4 Sterling Enterprises Ltd. (マハラシュトラ).....	37
2.2.5 Hindustan Tin Works (ニュー・デリー).....	38

2.2.6 Maharashtra Metal Works Pvt. Ltd. (マハラシュトラ州)	38
2.2.7 Nikita Containers Pvt. Ltd. (タミル・ナードゥ州)	38
2.2.8 India Packaging Products Pvt. Ltd. (カルナタカ州)	38
2.2.9 Parikh Packaging Pvt. Ltd. (グジャラート州)	38
2.2.10 USK Balaji PLAST Pvt. Ltd. (マハラシュトラ州)	39
2.2.11 Arihant Polymoulds & Polymers Pvt. Ltd. (マハラシュトラ州)	39
2.2.12 Prayas Enterprises (マハラシュトラ州)	39
2.2.13 Sabar Flexipack Pvt. Ltd. (グジャラート州)	39
2.2.14 Holymen Packaging Industries (ウッタールプラデシ州)	39
2.2.15 Agrawal Poly Plast (P) Ltd. (ウッタールプラデシ州)	40
2.2.16 Poysa Packaging Pvt. Ltd. (ウッタールプラデシ州)	40
2.2.17 National Vinyl Industries (カルナタカ州)	40
2.2.18 Rexam Pharma Packaging India Pvt. Ltd. (カルナタカ州)	40
2.2.19 Essel Propack Ltd. (マハラシュトラ州)	40
2.2.20 Rector India Ltd. (ハリヤナ州)	40
2.2.21 Paper Product Ltd. (マハラシュトラ州)	41
2.2.22 Emkay Flexi Pack (グジャラート州)	41
2.2.23 Excell Plastic (マハラシュトラ州)	41
3. 小売流通とパッケージングの現状	42
3.1 小売業界の概要	43
3.1.1 提供商品に基づく分類	44
3.2 その他新興の小売部門	46
3.2.1 美容・健康商品小売部門	46
3.2.2 家具・家庭用品小売部門	47
3.2.3 耐久消費財小売部門	47
3.3 スーパーストアにおける包装済み商品の流通	47
3.4 家庭用電化製品（電子レンジ）における製品包装のバリエーション	48
3.5 結論	48
4. 主要ユーザー産業（食品、化粧品、医薬品）の概観	49
4.1 食品産業	49
4.1.1 食品加工産業の市場規模	49
4.1.2 生産	50
4.1.3 加工食品産業における主要部門の概観	50

4.1.3 加工食品産業の展望.....	57
4.1.4 食品包装.....	58
4.2 化粧品産業.....	59
4.2.1 需要.....	59
4.3 医薬品産業.....	62
4.3.1 需要.....	62
4.3.3 輸出.....	64
4.3.4 産業の展望.....	64
4.3.5 医薬品包装.....	64
5. 主要包装製造会社、貿易会社、卸売業者の概要	66
5.1 主要包装製造会社の一覧及び会社プロフィール	66
5.1.1 Shubham Flexible Packaging M/C's. (P) Ltd.....	66
5.1.2 E.C. Packtech Machines Pvt. Ltd. (ECPMPL).....	67
5.1.3 Acme Machinery (India) Pvt. Ltd.	68
5.1.4 Blenzor (India) Pvt. Ltd.....	69
5.1.5 Pam-Pac Machines Pvt. Ltd.	70
5.1.6. Akash Pack Tech (P) Ltd.....	71
5.1.7 Elmach Packages (India) Pvt. Ltd.	72
5.1.8. Nichrome India Ltd.....	73
5.1.9. Winner Electronics.....	74
5.1.10 Europack Machines (India) Pvt. Ltd.....	75
5.1.11 Bobst India Private Ltd.	76
5.1.12 Bosch India Ltd. (The Packaging Technology division in India)	77
5.1.13 Multivac Laraon India Private Ltd.	79
5.2 その他の包装機械メーカー.....	80
5.3 主要都市別主な輸入業者 / 貿易・卸売業者	81
5.3.1 包装機械輸入業者.....	81
5.3.2 包装機械貿易卸売業者.....	84
6. 問題点及び課題、国際戦略、販売促進アプローチ	89
6.1 問題点及び課題.....	89
6.1.1 革新的パッケージングを可能にする最新機種的设计	89
6.1.2 海外／国内ユーザーの要求の実現.....	89
6.1.3 輸出指向型企业向け信頼性のある高水準オートメーション機械の供給	90

6.1.4 研究・開発（R&D）への低投資	90
6.2 国際戦略	90
6.3 販売促進アプローチ	91
7.政府支援—規制及び外国直接投資（FDI）規定	92
7.1 包装機械産業に適用される規制及び規定	92
7.2 FDI 規定	93
8. 海外企業による新規参入時の障壁に関する市場評価	94
添付資料 1: スーパー・大型小売店で販売される包装品目	96
添付資料 2: インドでの展示会・コンファレンス一覧（今後行われる又は最近行われたイベント）	99
添付資料 3: 第一次調査時にコンタクトした会社一覧	106
参考書目、略語	111

表一覧

- 表 1.1: 包装機械生産統計* (10億ルピー)
- 表 1.2: 包装機械の輸出 2005～09年度(百万ルピー)
- 表 1.3: 包装機械の輸入 2005～09年度(百万ルピー)
- 表 1.4: HS コード: 842230*に基づく製品輸出先の上位 20 国
- 表 1.5: HS コード: 842240*に基づく製品輸出先の上位 20 国
- 表 1.6: HS コード: 84229090*に基づく製品輸出先の上位 20 国
- 表 1.7: HS コード: 842230*に基づく製品輸入先の上位 20 国
- 表 1.8: HS コード: 842240*に基づく製品輸入先の上位 20 国
- 表 1.9: HS コード: 84229090*に基づく製品輸入先の上位 20 国
- 表 1.10: 地域別輸出 2008-09年(4月-12月)
- 表 1.11: 地域別輸入 2008-09年(4月-12月)
- 表 1.12: 各包装機械の販売における部門別構成 (07年度-09年度)
- 表 2.1: 各包装原料の市場規模 (2008-09*)
- 表 2.2: 包装原料消費の推移 (千トン)
- 表 2.3: インドでの包装用プラスチック使用(千トン)
- 表 2.4: 食品産業におけるフレキシブル包装メディア-接着ラミネート(千トン)
- 表 2.5: 食品産業におけるフレキシブル包装メディア-押出コーティング・ラミネート
- 表 2.6: 食品産業におけるフレキシブル包装メディア-共押出フィルム
- 表 3.1: インド小売産業の部門別市場シェア(2006及び2010)
- 表 3.2: インド小売業界の推定規模
- 表 7.1: 充填機、封かん機、ボトルシーラー／ラベラー、缶、箱、袋、その他容器向け機械、ボトル、広口ビン、チューブ、その他類似容器向け充填機、炭酸飲料用機械にかかる関税の動向 (HS Code: 842230)
- 表 7.2: ヒートシュリンク包装機を含むその他の梱包／包装機械 (HS Code: 842240)
- 表 7.3: その他機械の部品 (HS Code: 84229090)

図一覧

- 図 1.1: 食品包装機械
- 図 1.2: 医薬包装機械
- 図 1.3: 化粧品包装機械
- 図 1.4: 包装機械市場 (2008-09)
- 図 1.5: 2008-09年(4月-12月)の地域別輸出内訳
- 図 1.6: 2008-09年(4月-12月)の地域別輸入内訳
- 図 2.1: インドにおける包装原料市場の構造
- 図 2.2: 包装原料ごとの市場シェア
- 図 2.3: 消費者包装-今後の展望
- 図 2.4: インドのフレキシブルラミネート市場(2007-08)
- 図 2.5: インドのフレキシブル包装の内訳
- 図 3.1: インド小売市場での組織化されている部門と非組織化部門の割合(2007)
- 図 4.1: 食品加工産業の市場成長率 05-09年度(十億ルピー)
- 図 4.2: 紅茶市場の成長率 06-09年度(十億ルピー)
- 図 4.3: コーヒー市場 06-09年度(十億ルピー)
- 図 4.4: 炭酸・清涼飲料市場 06-09年度(十億ルピー)
- 図 4.5: パック詰め飲料水市場 05-09年度(十億ルピー)
- 図 4.6: 果汁飲料市場 06-09年度(十億ルピー)
- 図 4.7: スープ市場 06-09年度(十億ルピー)
- 図 4.8: 濃縮飲料市場 06-09年度(十億ルピー)
- 図 4.9: ソース・ケチャップ市場 06-09年度(十億ルピー)
- 図 4.10: バター市場 06-09年度(十億ルピー)
- 図 4.11: 牛乳市場 06-09年度(十億ルピー)
- 図 4.12: インド医薬品市場
- 図 4.13: インドでの医薬品生産
- 図 4.14: インドからの医薬品輸出
- 図 4.15: インドにおける医薬品市場予測

要旨

インドの包装産業は、コンバーター、包装機械メーカー、付属機器／スペア部品メーカーで構成されている。包装（パッケージング）は大きく、一次包装、二次包装及びばら包装の3部門に分類される。今回の調査は、医薬品、加工食品、化粧品、耐久消費財などの部門で使用される包装材料や包装機械を扱う一次消費者包装部門を評価する目的で実施された。推定 8,000 億ルピー規模（2008～09 年時点）のインド包装産業は、コンバーターの包装材料（一次、二次及びばら包装で使用）と包装機械を包括しているものの、包装機械単独での試算はされていない。一次包装とばら包装の両方で使用される機械もあるため、これらの機械が一次包装用なのかばら包装用なのかを識別するのは不可能であるためだ。例えば、段ボール箱製造機で製造された段ボール箱が一次包装材料（家具、コンピューター、耐久消費財、資本財／機械など）として使われるのと同様に、日用品、医薬品、化粧品、自動車部品など様々な大量包装を扱うばら包装においても大いに使用されている。しかし今回の調査では、ばら包装で使われる包装材料は調査の対象外となっている。調査の対象となっているのは、包装機械ではフレキシブルパウチ包装（軟包材）、真空包装、プリスター（透明）包装、液体包装用の機械や段ボール箱製造機、また包装材料ではプラスチックフィルム、包装用箱、包装紙、ふた付き容器、缶などである。

インドにおける 2008 年～09 年の包装機械の全生産額は 2,400 億ルピー規模と推定されている。幅広い機械がインドで生産されているが、包装産業は、特に最新機種を輸入している。包装機械の主要ユーザー産業は食品加工、医薬品、化粧品、耐久消費財などである。食品加工産業では主にフレキシブル包装機が使われているが、医薬品産業ではプリスター包装機が使用されている。包装機械部門の発展はユーザー産業の健全性にかかっている。インドは中国に次ぐ世界第 2 位の食料生産国であり、今後食料、農業部門で世界最大になる可能性がある。2008～09 年のインドの食品加工産業は 5 兆 1,400 億ルピー規模と試算されている。インド化粧品産業はここ数年間で急成長を遂げており、2006～08 年の間に約 7.5%の年平均成長率（CAGR）で拡大した。化粧品のパッケージデザインは顧客の要望に応じて頻繁に変化している。インドの医薬品市場は 2005～09 年の間に 10%拡大し、2009 年度には 107 億 5,000 万米ドル規模に達する見通しだ。同市場は 2009 年度（09 年 4 月～10 年 3 月）～2013 年度（13 年 4 月～14 年 3 月）の期間に 14.50%の CAGR（年平均成長率）で拡大し、市場規模が 211 億 5,000 万米ドルに達すると見込まれており、医薬品産業からパッケージングの大規模な需要が予想されている。

包装機械市場全体の試算はいまだに成されていないが、インドでは包装産業における需要と供給に大きな隔りがあることは事実だ。これはインドの包装産業がまだこのギャップを埋めるまでには成長していないことを示している。2004 年以来、インド国内では小売活動の波が現在も押し寄せているため、急造の消費者包装の需要が大幅に増大している。2008～09 年の軟包装機の総売上高は、60%が食品加工産業から、30%が化粧品産業から、5%が医薬品業界から、残りの 5%がその他の部門からもたらされたと推定されている。また同年の段ボール箱製造機の総売上高は、100%耐久消費財市場（一次包装）から得られたものだった。包装機械産業は現在、革新的なパッケージングを可能にする新機種の設計、海外・国内ユーザーからの要求への対応、輸出指向型企业への信頼性のある高水準オートメーション機械の供給、研究・開発（R & D）への投資額の低さなど、様々な問題及び課題に直面している。包装機械は資本財に該当する。資本財の輸入は EPCG スキーム（輸出促

進のための資本財輸入スキーム)に基づいて免税が認められており、EPCG スキームによって輸入された農業向け資本財は、農産物輸出ゾーン (AEZ) のどこへでも搬入が可能である。各種輸入業者を対象に行った調査によると、大部分の包装機械は現在、中国と台湾から輸入されている。欧州の機械メーカーにとっては高すぎる価格が一番のネックとなり、非常に価格を重視するインド市場での販売を難しくしている。現在、インド企業と直接取引を行っている外資系製造業は存在しない。海外のメーカーは代理業者にインドでの各社機械の販売を任せている。このような代理業者 (輸入業者) はすべて南インドを拠点とする、いわゆる地域ベースの代理業者で、主にインド南部で商売を行っている。これに対して、インド北部の代理業者は北部市場を活動の拠点にしている。

パッケージングには広範囲に及ぶ材料が使われるが、それぞれの材料は独自の特徴を備えている。包材の選択は様々な条件によって決定されるが、ほとんどの輸入品に関してはパックされる製品との相性で判断する。インドのパッケージング全体の 80%以上はリジッド包装 (剛性包装) が占めているが、これは最も古い従来型のパッケージング形式である。残りの 20%は軟包装が占めている。2008 年時点で、インドの包装材料メーカーの総数は約 45 万 7,000 社を数え、このうち 40 社は大手、7,000 社は中規模、45 万社は小規模メーカーとなっている。2008~09 年のインドの包装材料 (全て含む) 市場は、7,000 億~8,000 億ルピー規模と推定されている。このうち、消費者包装市場は約 4,000 億ルピー規模だった。同年、最も消費された包装材料はラミネートフィルムで、その需要は 115 万 3,000 トンに達した。2005 年度~08 年度の期間、同部門は 25%の年平均成長率を記録している。現在、インド企業は魅力的で衛生的なパッケージングをますます重要視するようになってきているため、パッケージング市場は将来的に非常に大きな可能性を秘めていると言える。

包装産業の専門家は、パッケージング市場が今後倍増するのは確実だと見ている。食品加工、化粧品、医薬品など同市場に弾みをつける部門などから大規模な需要が見込まれるからだ。今後は軟包装が重要な位置を占め、その後にブリスター包装や液体包装が続くと予想される。現在、産業は極度に細分化されているが、大手機械メーカー各社は生産能力の増強を図り、市場での拡大を目指す見通しだ。すでに数社の多国籍企業 (MNC) も同市場に参入を果たしており、力強い成長を目指している。ばら包装関係では引き続き剛性包装が用いられるが、消費者用の一次包装では軟包装の需要がさらに高まる見通しで、このことは多種多様な軟包装機の必要性も示唆している。多くの中規模企業は世界各地に機械を輸出しているが、このうちの数社はすでに国際市場で好評を博しているため、引き続き機械の輸出を続ける方針だ。

調査目的

インドの包装産業は包装機械と包装材料の 2 大部門から成り立っている。小売活動の急発展が、魅力的で付加価値のあるパッケージングに対する需要を後押ししているため、同市場は大変注目されている。このような背景から、食品、医薬品、化粧品部門で使用される各種包装機械を評価する目的で、インド包装機械産業の市場調査報告書の準備が進められた。また今回の調査では、包装機械に関する需要、大手機械メーカー各社、消費者包装用包材、主な供給業者、今後の市場シナリオも評価の対象になっている。

調査の範囲

本レポートの調査範囲は下記の通り:

- インド包装機械産業の概観（包装機械の市場規模、ユーザー産業の今後の展開、需給シナリオなど）
- インド包装材料と主要メーカーの概観
- 小売流通と包装材料利用の現状
- 主要ユーザー産業（食品、化粧品、医薬品など）の概観
- 主要包装機械メーカー／販売業者／輸入業者の概観とそれぞれの特徴
- 包装産業における国際マーケティング戦略と販促活動に関する問題点と課題
- 政府支援－規制と外国直接投資（FDI）規定
- インド開催の展示会／会議の一覧表

調査方法

全体の調査は一次及び二次情報に基づいて実施された。情報収集とデータ作成は、Cygnusが利用可能な包装産業の定期刊行物、出版物、事業主からの情報などを通して行われ、また二次情報に関しては、同産業団体や包装機械関連団体のウェブサイト、メーカー一覧表を提供してくれたB2Bポータルサイトなどから情報を入手した。一次調査を実施するにあたり、産業の動向、今後の市場シナリオ、産業の発展、流通経路を理解するために同産業のそれぞれの部門を担う大手企業数社から話を伺うことは必須であった。調査には市場に関する実地のデータ／情報が必要不可欠だからだ。また、輸入包装機械の需要に関する意見を得るため、輸入業者数人にも連絡を取り、この部門での需要は以前より増加しているという情報を入手した。市場での包装機械の価格を調べるのも主要な調査の必須事項だった。

業界に詳しい専門家から情報を得るために、2人の関係者に産業、大手メーカー、見込みのある市場シェア、産業の動向など様々な事項について質問した。調査が終了してすぐ、収集したデータを彼らに提示し、討議した。今回の報告書では、彼らのコメントを十分考慮に入れて、各章やマーケットシナリオを作成してある。

調査報告書で使用したデータソース

主要データソース (仮)	補助データソース
1. 大手包装機械メーカー各社／包装材料供給業者－14社 2. 販売業者/流通業者/機械輸入業者－4社 3. 専門家－2名 合計相手 20	業界の定期刊行物、その他業界関連記事など・包装機械/包装産業や市場に関する会議でのスピーチを掲載しているインド工業連盟（CII）、インド商工会議所連盟（FICCI）など

1. 包装機械の需給シナリオ

1.1 主な製品とそのサブセグメント

1.1.1 真空包装機械

真空包装は、シリアル、ナッツ、加工肉、チーズ、スモークフィッシュ、コーヒー等のドライフードの長期保存や、野菜、肉、液体（スープなど）等の新鮮食品の短期保存によく使用される。

真空包装機械の種類

真空包装機械の種類は次の通りである。

1. 真空密封機械：食品包装に最適
 - ・真空チャンバー機械：バッグ全体と内容物が機械内にフィット
 - ・外部バッグ機械：バッグの端だけが真空密封機械にフィット
2. カウンタートップ真空包装機械：小規模ショップ、スーパーマーケット、レストラン、バー等の小売包装に最適
3. 格納式ノズルタイプ真空包装機械 - 食品包装に最適
4. 認証可能真空包装機械 - 医薬品

1.1.2 ブリスター包装機械

ブリスター包装は、小さな消費財に用いられる予め成形されたプラスチック包装のタイプのことである。ブリスターパックの2つの主な構造は、成形可能な素材（プラスチックまたはアルミニウム）でつくられた空洞またはポケットと、紙、カートン、プラスチック、またはアルミニウムからつくられた台紙である。成形された空洞またはポケットは製品を保持し、台紙がパックに製品を密封する。

ブリスター包装機械の種類

次は医薬品包装で使用されるブリスター包装機械の各タイプである。

1. Alu-Alu / Alu-PVC ブリスター包装機械
2. ストリップ包装機械
3. フラット・ベッド・ブリスター包装機械
4. シングルトラック・ブリスター包装機械
5. ダブルトラック・ブリスター包装機械

1.1.3 パウチ包装機械

パウチ包装は、大量なもの以外のすべての包装に使用される。包装パウチまたは小袋は、安全な密閉を行うことができる。パウチの最大の利点は、簡単に破くことのできる素材による優れた印刷適性を持っていることである。包装パウチは、多様なサイズ、形状、素材で使用できる。ラミネートまたは非ラミネート加工パウチとしても用いられる。

包装パウチの各タイプは次の通りである

- スタンドアップパウチ
- 蛇口型パウチ
- マルチカラーパウチ
- ジップロックパウチ
- センターシールパウチ
- サイドシール
- スタンバイ
- オフシェイプパウチ
- フラット、ガセットパウチ

パウチ包装機械の種類

次はパウチ包装機械の各タイプである

1. スタンドアップパウチ包装機械
2. 自動パウチ製造機械
3. ロータリー包装機械

1.1.4 液体包装機械

今日、スーパーマーケットでは、オレンジジュース、ヨーグルト、トマトピューレ、ミルク、ワイン等の様々な液体製品を新鮮な状態で購入することができる。液体包装は長年にわたる多大な改善が行われてきた。液体包装は、飲料の保存期間を延ばし、鮮度と味を保つ。

液体包装機械の種類

次のタイプの液体包装機械が販売されている。

1. チューブ充填機械：医薬品及び化粧品（軟膏、シェービングクリーム、ジェル、歯磨き粉）の包装に最適
2. ボトル充填機械：食品及び医薬品（ワイン、ミネラルウォーター、ミルク、シロップ、ソフトドリンク、ジュース等）の包装に最適
3. 液体パウチ充填機械
4. エアロゾル充填機械：化粧品及び医薬品の包装に最適
5. カプセル充填機械：医薬品の包装に最適

1.1.5 フレキシブル包装機械

フレキシブル包装には、プラスチック（PVC、LDPE、HDPE、BOPP、及びBOPET）の多層ラミネート加工シート、紙、クロス、または金属フォイルがあり、単独または組み合わせで様々な包装用途に使用される。しかし、この文書では、強度、耐湿性、保香、耐グロス・油性、ヒートシール適性、印刷適性、低臭・味性を実現する独自の特性をもったプラスチックのラミネートによるフレキシブル包装を取り上げる。これらは、食品、お茶、コーヒー、スパイス、噛みタバコ、ベーカリー、菓子、オイル、及び家庭用洗剤、健康ケア製品、石鹸、シャンプー等の食品以外の包装で使用される。

フレキシブル包装機械の種類

フレキシブル包装機械の各種類は次の通りである。

1. 成形-充填-密封機械（オーガーフィラーによる自動製袋充填包装）
2. 自動FFS機械（カラータイプ）
3. 自動間欠3方シール及びスタンドアップパウチ製造機械
4. パウチング機械

1.1.6 段ボール箱機械

段ボール箱は紙ででき、滑らかなシート（ライナー）の間にアーチ型の層（フルーティング）を施している。最もよく使用される段ボール箱では、2枚の滑らかなシート間にフルーティング層を1層使っている。しかし、他にも様々な種類があり、それぞれが独自のフルートサイズ・厚を持っている。段ボールは非常に耐久性、多用途性、経済性、軽量性が高く、顧客特注輸送コンテナ、包装、店頭ディスプレイ、さらにはパレットから子供用おもちゃ、家具等新しい用途にも使用されている。

段ボール箱の製造には次の機械が使用されている。

1. **加工機械：** フラットな段ボールを箱型に打ち抜きする。加工機械の最も一般的なものは、フレキソフォルダー接着機及びダイカッターである。
2. **フレキソフォルダー接着機：** これらの機械は、フラットな状態で搬送して顧客が簡単に成形、包装できるように、箱を印刷、折り曲げ、スロット、カット、折りたたみ、製函する機械である。
3. **ダイカット機械：** 顧客が折り曲げ接着して箱型にできるように、段ボールをカットする。
4. **ロータリーダイカッター：** ダイと呼ばれる刃先、折り曲げ定規を大型ローラーに取り付け、下を通る段ボールを切断、ライン付けする。フラットダイカッターは刃と折り曲げ定規を固定された段ボールに押し込む。

段ボール包装機械の種類

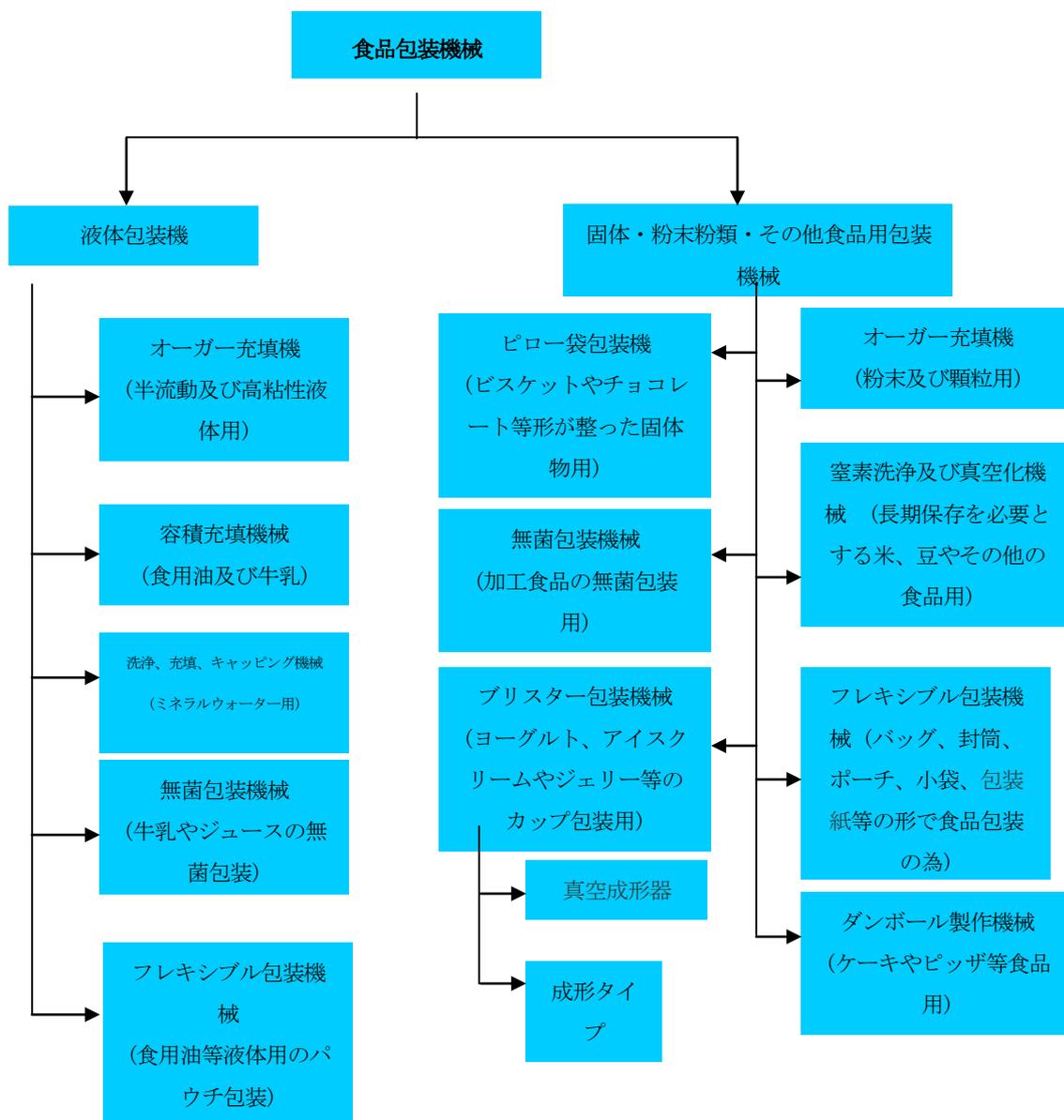
段ボール箱機械の各タイプは次の通りである。

1. 高速斜めタイプ / ベアリングタイプ段ボール機械
2. 垂直タイプ段ボール機械
3. ダブルプロファイルシングルフェイス段ボール機械
4. 自動3/5プライペーパー段ボール製造施設
5. ダイカット/パンチ機械
6. ボードカッター
7. ボックスステッチ機械
8. シートペースト機械
9. 4バー回転カット/折り曲げ機械
10. エキセントリックスロッター機械
11. ペーパーベアリング機械

1.1.7 包装機械のユーザー業界別セグメンテーション

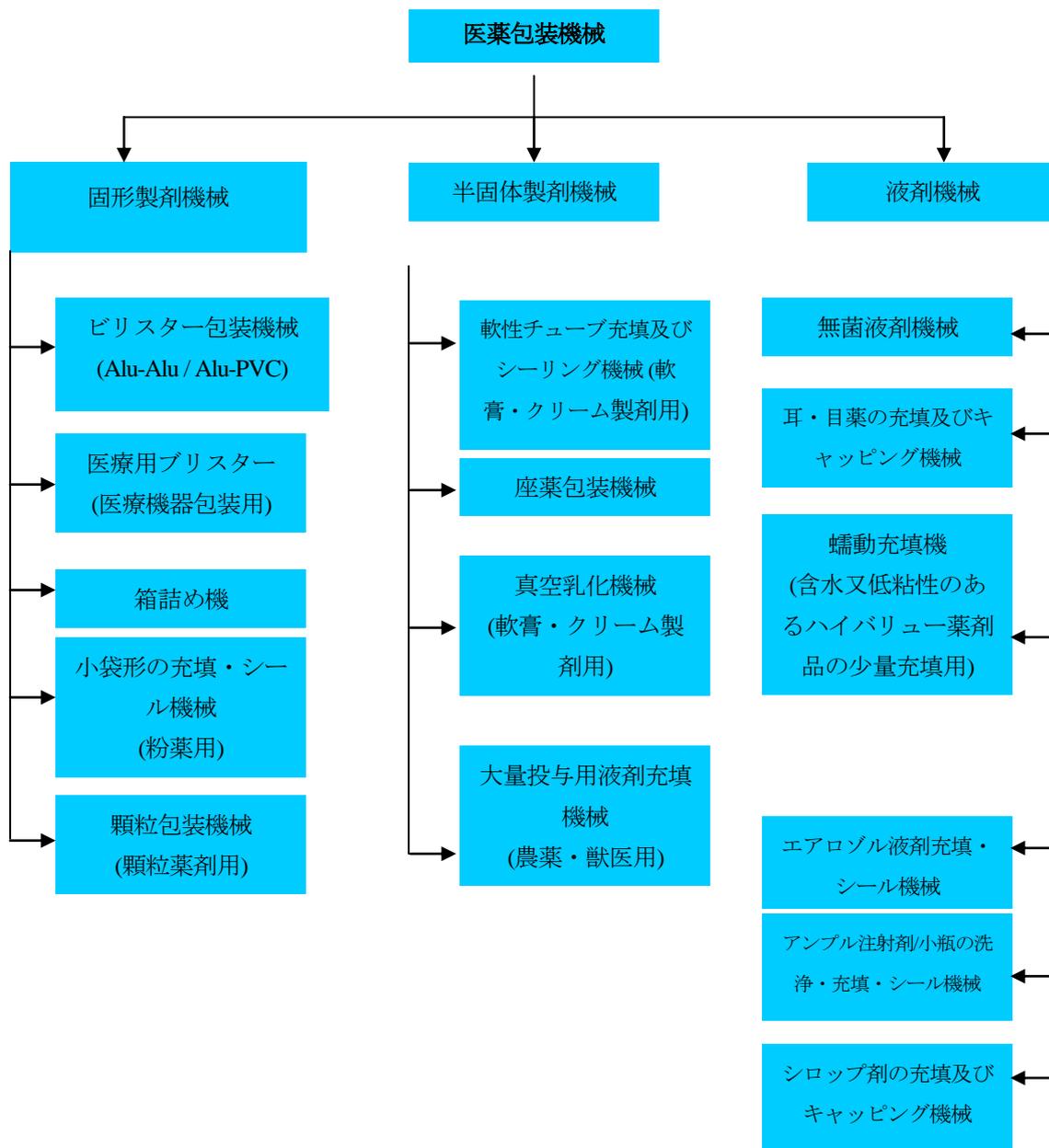
1.1.7.1 食品包装機械

図 1.1: 食品包装機械



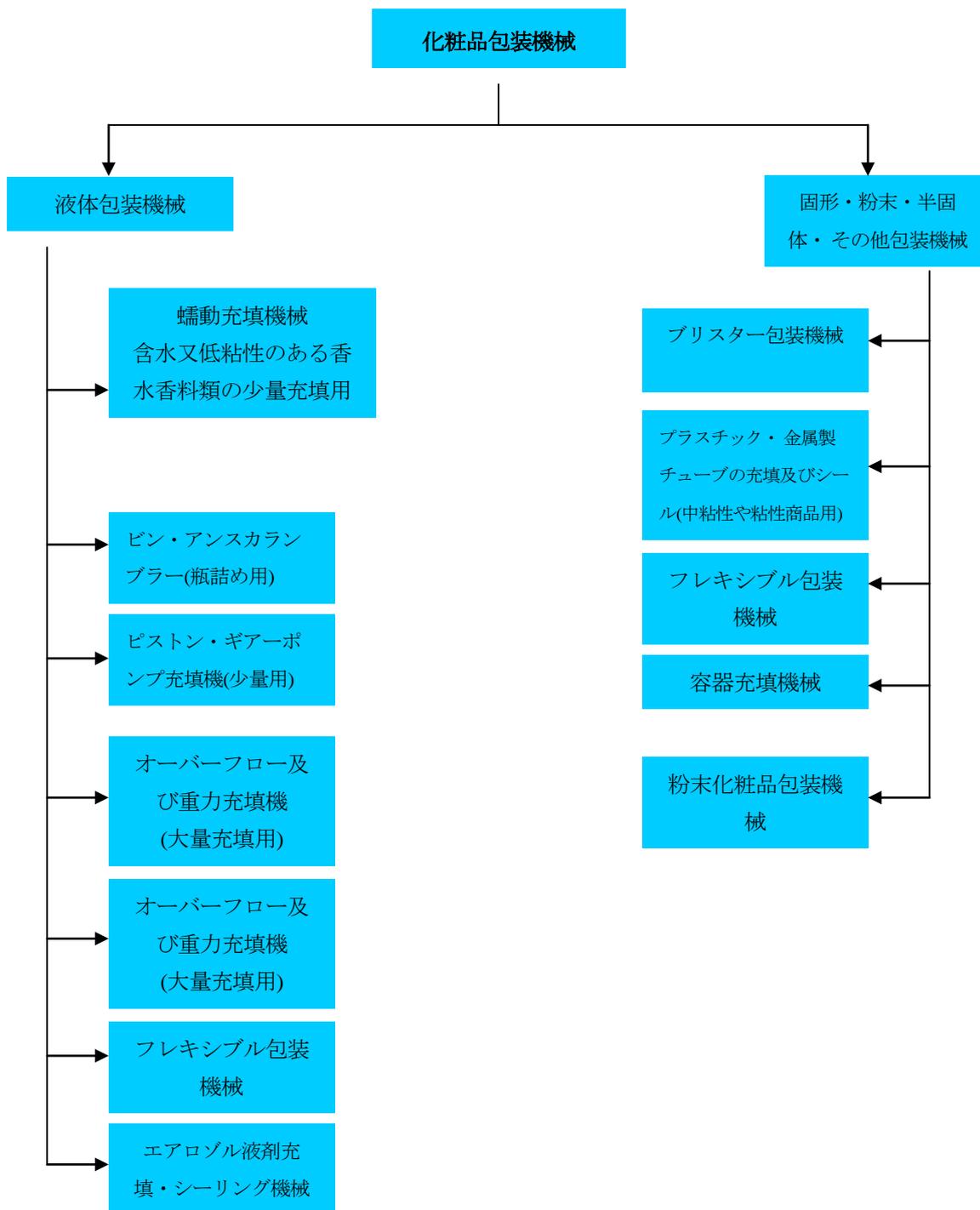
1.1.7.2 医薬品包装機械

図 1.2: 医薬包装機械



1.1.7.3 化粧品包装機械

図 13: 化粧品包装機械



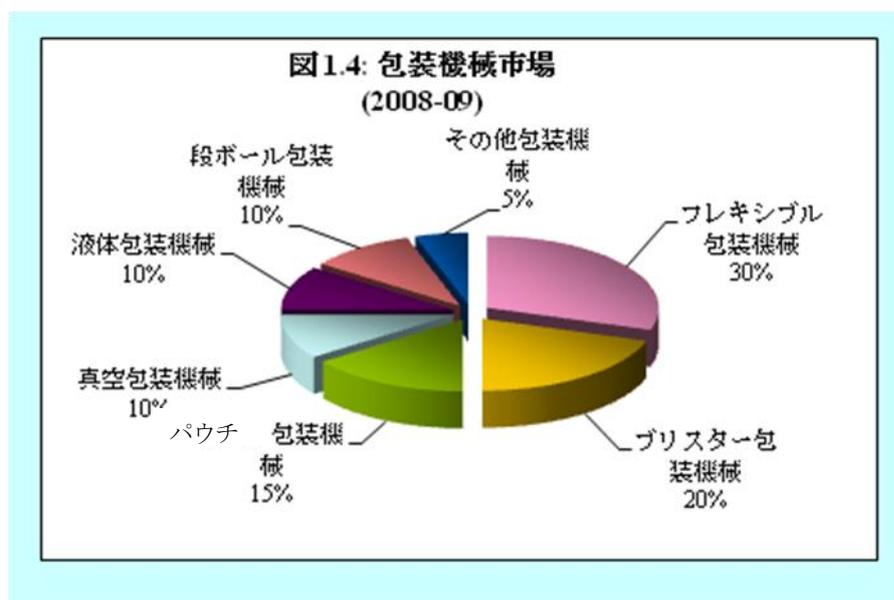
1.2 生産統計

包装機械の合計生産額は、2009年度は2400億ルピーであり、05年度-09年度においてCAGR（年平均成長率）が10%で成長したことになる。05年度の実績は1620億ルピーであった。09年度、フレキシブル包装機械は総生産に占める割合が最大で、720億ルピー（総包装機械生産の30%）であった。ブリスター包装機械は2位で、480億ルピー（総生産の20%）であった。パウチ包装機械及び真空包装機械はそれぞれ15%、10%で、生産価格は360億ルピー、240億ルピーであった。液体包装機械と段ボール包装機械はそれぞれ10%で、その他の包装機械は09年度の総生産の5%を占めた。表1.1は、過去5年間の包装機械の生産統計（価格ベース）を示す。

表 1.1: 包装機械生産統計* (10億ルピー)						
	2004-05	2005-06	2006-07	2007-08	2008-09	%CAGR
フレキシブル包装機械	41	47	54	62	72	15
ブリスター包装機械	25	29	34	40	48	18
パウチ包装機械	25	27	30	33	36	10
真空包装機械	16	17	19	22	24	11
液体包装機械	17	18	21	22	24	9
段ボール包装機械	16	18	20	22	23	9
その他包装機械	22	18	16	14	13	-12
合計	162	174	194	215	240	10

*推定
 注記: その他の包装機械には個別密封、カット、穴あけ機械を含む。
 機械は新規設置又は取換え機械のみであり、補助品や予備品を含まない。
 業界からのデータがないため、生産統計は生産数量で表示することは可能ではない。出所: Cygnus 社推計

下記の図は2008-09年度内の包装機械生産（生産額ベース）の内訳を示している。



出所: Cygnus 社推計

1.3 生産拡大の傾向

05-09年度の期間、需要は徐々に完全自動機械に移行した。その他の包装機械の生産（個別密封、カット、穴あけ機械）は、05年度の220億ルピーから09年度には130億ルピーに低下し、年平均成長率（CAGR）はマイナス12%であった。業界で1位を占めるフレキシブル包装機械の生産は、05年度-09年度でCAGR15%を記録し、05年度の生産価格は410億ルピーであった。増え続ける小売販売活動がフレキシブル包装機械生産の成長を牽引したものの1つである。ブリスター包装機械は、同時期にCAGR18%で480億ルピーの成長を記録し、最も成長率が高い部門であった。パウチ包装、真空包装、液体包装、段ボール箱包装等のその他の機械は、分析期間でCAGR10%を達成した。

1.4 輸出入状況

様々な包装機械がインドで生産される一方、業界は特にハイエンド機械を輸入している。ドイツとイタリアがインドに包装機械を供給する最大輸出国であり、あとに中国、米国、フランスが続く。最近では中国、台湾、韓国からの輸入が増えている。インドが総包装機械の20%から25%を輸入に頼っている。輸入製品の多くは、技術的に洗練された機械、技術ギャップによりインドメーカーが製造技術を持っていない機械となっている。

1.4.1 輸出入統計

インドの包装機械の輸出は08年度で30億6907万ルピーであり、前年比28%の成長であった。2009年4月から12月には、輸出は30億1398万ルピーに達した。05年度-09年度（2009年は4月から12月）における総輸出は年平均成長率（CAGR）18.41%で推移している。充填、封入、密封、カプセル、ラベルボトル、カン、ボックス、バッグ/その他の容器の機械、炭酸飲料機械の輸出は、08年度で13億9144万ルピーに達し、熱収縮ラッピング機械等その他の包装/ラッピング機械の輸出は、同時期7億181万ルピーであった。その他の機械のパーツ輸出価格は08年度で30億6,907万ルピーであった。（表1.2参照）。

HSコード	商品	2004-05	2005-06	2006-07	2007-08	2008-09*	% CAGR
8422-30	充填、封入、密封、カプセル、ラベル付ボトル、カン、ボックス、バッグ/その他の容器の機械、炭酸飲料機械	541.92	998.14	1,008.52	1,391.44	1,713.13	27.42
8422-40	熱収縮ラッピング機	516.21	756.63	822.38	701.81	730.06	7.57

	械等を含むその他の包装/ラッピング機械						
8422-9090	8422 用その他の機械のパーツ	292.54	385.59	568.11	975.82	570.79	15.11
合計		1350.67	2140.36	2399.01	3069.07	3013.98	18.41
**4月-12月 出典: DGFT							

インドの包装機械の輸入は 08 年度で 98 億 9240 万ルピーで、前年比 43%の成長であった。2009 年 4 月から 12 月には、輸入は 79 億 3951 万ルピーに達した。05 年度-09 年度（2009 年は 4 月から 12 月）における総輸入は CAGR23.31%で推移している。充填、封入、密封、カプセル、ラベル付ボトル、カン、ボックス、バッグ/その他の容器の機械、炭酸飲料機械の輸入は、08 年で 43 億 7603 万ルピーに達し、熱収縮ラッピング機械等その他の包装/ラッピング機械の輸入は、同時期 40 億 1664 万ルピーであった。その他の機械のパーツ輸入価格は 08 年度で 14 億 9973 万ルピーであった（表 1.3 参照）。

表 1.3: 包装機械の輸入 2005~09 年度(百万ルピー)							
HS コード	商品	2004-05	2005-06	2006-07	2007-08	2008-09*	% CAGR
8422-30	充填、封入、密封、カプセル、ラベル付ボトル、カン、ボックス、バッグ/その他の容器の機械、炭酸飲料機械	1,388.38	1,631.91	3,196.99	4,376.03	3,545.86	21.82
8422-40	熱収縮ラッピング機械等を含むその他の包装/ラッピング機械	974.12	1,500.43	2,594.68	4,016.64	3,045.62	27.12
8422-9090	8422 用その他の機械のパーツ	572.16	783.03	1,123.80	1,499.73	1,348.03	19.77
合計		2,934.66	3,915.37	6,915.47	9,892.40	7,939.51	23.31
*4月-12月 出典: DGFT							

1.4.2 最新の国別輸出入の推移

1.4.2.1 輸出

充填、封入、密封、カプセル、ラベリングボトル、カン、ボックス、バッグ/その他の容器の機械の最大輸出相手国は米国である。炭酸飲料用機械（HS コード：842230）のインドの輸出は 2 億 5100 万ルピー以上（2009 年 4 月から 12 月）であった。量では、10 万 1900 ユニットであった。ナイジェリアは 2 番目の輸出相手国で、輸出額は同時期

で1億7400万ルピーであった。第3、4、5位は2009年4月から12月の輸出価格ベースでパキスタン、南アフリカ、ケニアである（表1.4参照）。

国・地域名	2007-08		2008-09 (4月-12月)	
	百万ルピー	数量#	百万ルピー	数量#
米国	127.54	79.4	250.82	101.9
ナイジェリア	67.77	95.14	173.90	242.36
パキスタン・イスラム共和国	112.20	287.66	72.25	91.34
南アフリカ	50.18	153.51	70.59	57.67
ケニア	50.71	92.6	61.91	125.18
アラブ首長国連邦	48.51	100.18	55.18	215.9
バングラデシュ人民共和国	39.04	40.96	48.84	116.39
ウクライナ	23.64	38.94	42.59	44.31
サウジアラビア	26.92	26.45	41.72	65.29
英国	19.99	55.26	40.61	15.17
ドイツ	63.68	42.72	40.20	29.84
タンザニア連合共和国	9.40	11.22	36.26	58.22
ギリシャ	3.73	2.45	34.30	13.6
ブラジル	29.92	22.47	33.22	27.26
モザンビーク	1.02	5.66	32.61	51.09
エジプト・アラブ共和国	29.31	48.81	31.82	37.04
イラン	39.06	46.98	30.22	47.06
スーダン	15.67	35.56	30.17	31.81
モルディブ	0.04	0.10	28.85	31.06
ベネズエラ	1.84	2.30	27.49	11.40
その他	631.27	880.12	529.59	654.02
合計	1,391.44	2,068.49	1,713.13	2,067.91

注記: 2008～09年の輸出をベースにしたランキング (百万ルピー単位)
 * HS コード: 842230 範囲の商品は充填、封入、密封、カプセル、ラベルボトル、カン、ボックス、バッグ/その他の容器の機械、炭酸飲料機械を含む。
 # 千単位
 出典: DGFT

シリアは、熱収縮ラッピング機械等その他の包装/ラッピング機械 (HS コード:842240)の最大輸出相手国で、インドの輸出は6153万ルピー以上(2009年4月から12月)であった。量では、2万4890ユニットであった。ナイジェリアは2番目の輸出相手国で、輸出額は同時期で5668万ルピーであった。第3、4、5位は2009年4月から12月の輸出価格ベースでスリランカ、イタリア、モロッコである(表1.5参照)。

国・地域名	2007-08		2008-09 (4月-12月)	
	百万ルピー	数量#	百万ルピー	数量#
シリア	45.16	43.78	61.53	24.89
ナイジェリア	63.09	86.91	56.68	110.66
スリランカ民主社会主義共和国	34.68	84.54	52.74	79.94
イタリア	2.63	3.88	49.12	8.96

表 1.5: HS コード: 842240*に基づく製品輸出先の上位 20 国・地域

国・地域名	2007-08		2008-09 (4月-12月)	
	百万ルピー	数量#	百万ルピー	数量#
モロッコ	7.31	2.2	32.09	9.1
オマーン	19.44	56.8	27.56	25.66
コンゴ共和国	12.69	25.8	25.30	20.96
中華人民共和国	2.11	4.25	24.07	16.87
マレーシア	12.57	10.32	22.83	14.63
ドイツ	20.35	26.07	22.49	51.45
サウジアラビア	7.01	10.73	19.90	7.85
大韓民国	-	-	18.11	7.68
ラトビア	9.21	4.32	17.72	4.8
南アフリカ	11.44	15.27	16.16	14.56
ケニア	37.17	59.4	12.88	46.56
ブラジル	-	-	12.53	6.59
アラブ首長国連邦	41.52	60.63	12.41	25.27
ネパール	25.08	64.11	11.73	29.68
ギリシャ	-	-	11.70	2
スロバキア共和国	-	-	11.33	2
その他	350.35	575.71	211.18	416.40
合計	701.81	1,134.72	730.06	926.51

注記: 2008~09年の輸出をベースにしたランキング (百万ルピー単位)
 * HS コード: 842240 範囲の商品は熱収縮ラッピング機械等その他の包装/ラッピング機械を含む。
 # 千単位
 出典: DGFT

英国はその他の機械のパーツ (HS コード:84229090) の最大輸出相手国で、インドの輸出は 6449 万ルピー以上 (2009 年 4 月から 12 月) であった。量では、13 万 1590 ユニットであった。米国は 2 番目の輸出相手国で、輸出額は同時期で約 5114 万ルピーであった。第 3、4、5 位は 2009 年 4 月から 12 月の輸出価格ベースでナイジェリア、イラン、ブラジルである (表 1.6 参照)。

表 1.6: HS コード: 84229090*に基づく製品輸出先の上位 20 国・地域

国・地域名	2007-08		2008-09 (4月-12月)	
	百万ルピー	数量#	百万ルピー	数量#
英国	96.54	121.99	64.49	131.59
米国	53.35	73.20	51.14	73.96
ナイジェリア	44.60	87.85	46.31	83.77
イラン	24.01	18.41	30.10	35.73
ブラジル	8.95	9.56	29.34	18.32
アラブ首長国連邦	24.32	97.97	27.67	32.90
ケニア	27.58	51.45	21.11	30.92
南アフリカ	43.63	94.63	18.98	11.12
タンザニア連合共和国	14.85	55.61	15.60	77.79
バングラデシュ人民共和国	20.50	31.45	14.62	11.35
フランス共和国	8.01	10.26	14.48	15.99
モザンビーク	13.52	37.02	13.08	24.85

アルジェリア	12.61	8.69	12.95	8.01
スリランカ民主社会主義共和国	44.48	79.63	12.44	9.35
ヨルダン	5.87	4.13	9.45	9.06
シンガポール	20.26	23.09	8.51	8.56
パキスタン・イスラム共和国	6.15	10.09	7.90	9.50
サウジアラビア	3.66	7.34	7.71	13.67
ガーナ	10.82	39.62	6.90	8.13
イエメン共和国	0.30	0.18	6.86	39.46
その他	491.82	879.28	151.15	193.14
合計	975.82	1,741.45	570.79	847.17
注記: 2008～09年の輸出をベースにしたランキング (百万ルピー単位) * HS コード: 84229090 範囲の商品ははその他の機械のパーツを含む。 # キロ単位 出典: DGFT				

1.4.2.2 輸入

充填、封入、密封、カプセル、ラベリングボトル、カン、ボックス、バッグ/その他の容器の機械の最大輸入国はドイツである。炭酸飲料用機械 (HS コード: 842230) のインドの輸入は9億ルピー (2009年4月から12月) を超えた。量では、1414万ユニットであった。2位はイタリアで、イタリアからの輸入は同時期で約7億6000万ルピーであった。第3、4、5位は2009年4月から12月の輸入価格ベースで中国、米国、フランスである (表 1.7 参照)。

国・地域名	2007-08		2008-09 (4月-12月)	
	百万ルピー	数量#	百万ルピー	数量#
ドイツ	1,073.78	673.51	900.84	1,413.60
イタリア	833.09	592.48	760.12	337.5
中華人民共和国	127.62	317.34	305.06	321.23
米国	345.53	252.55	289.16	74.87
フランス共和国	403.62	391.67	242.47	227.54
台湾	192.93	177.16	155.58	142.52
スペイン	86.61	53.17	123.21	25.32
日本	86.46	89.04	113.53	84.94
大韓民国	152.18	141.53	80.62	98.39
スイス連邦	127.36	33.42	79.85	1.00
デンマーク	54.42	38.92	77.90	44.72
スウェーデン	271.17	208.63	72.40	20.24
英国	257.34	67.65	65.12	35.46
ベルギー	14.85	11	48.96	25.7
オランダ	168.92	139.81	40.94	3.27
マレーシア	41.27	24.99	39.66	36.28
カナダ	-	-	22.10	12
シンガポール	0.94	0.55	21.18	18.07
ポーランド	55.78	51.28	20.60	11.1
タイ	5.28	6.8	15.04	9.53

その他	76.89	74.71	71.51	51.07
合計	4,376.03	3346.21	3,545.86	2994.35

注記: 2008～09年の輸入をベースにしたランキング (百万ルピー単位)
 * HS コード: 842230 範囲の商品は充填、封入、密封、カプセル、ラベルボトル、カン、ボックス、バッグ/その他の容器の機械、炭酸飲料機械を含む。
 # 千単位
 出典: DGFT

ドイツは、熱収縮ラッピング機械等その他の包装/ラッピング機械 (HS コード:842240)の最大輸入相手国で、インドの輸入は6億7300万ルピー (2009年4月から12月)を超えた。量では、43万8000ユニットであった。2位はイタリアで、イタリアからの輸入は同時期で約6億1900万ルピーであった。第3、4、5位は2009年4月から12月の輸入価格ベースでスイス、日本、台湾である (表1.8参照)。

表 1.8: HS コード: 842240*に基づく製品輸入先の上位 20 国・地域

国・地域名	2007-08		2008-09 (4月-12月)	
	百万ルピー	数量#	百万ルピー	数量#
ドイツ	723.50	387.09	673.06	437.64
イタリア	953.71	473.81	619.01	229.69
スイス連邦	277.13	219.15	426.80	132.25
日本	263.75	114.32	242.69	146.68
台湾	95.22	146.96	175.93	151.76
中華人民共和国	234.83	454.77	169.31	206.32
大韓民国	129.63	58.45	168.08	127.67
スペイン	18.82	20.36	154.71	65.62
英国	171.38	140.82	103.40	48.13
フランス共和国	79.42	33.98	66.50	62.74
デンマーク	2.22	6.99	61.74	26.12
米国	67.74	50.56	60.32	49.09
マレーシア	0.76	0.3	28.48	20.3
香港	4.06	4.17	14.24	13.42
スウェーデン	100.81	56.58	14.13	1.75
オーストリア	756.53	301.64	9.53	3.51
オランダ	3.25	1.54	6.69	6.54
タイ	24.82	13.43	5.91	2.88
シンガポール	15.36	12.22	5.63	2.06
フィリピン	-	-	4.32	3.95
その他	93.71	75.48	35.14	23.88
合計	4,016.64	2,572.62	3,045.62	1,762.00

注記: 2008～09年の輸入をベースにしたランキング (百万ルピー単位)
 * HS コード: 842240 範囲の商品は熱収縮ラッピング機械等その他の包装/ラッピング機械を含む。
 # 千単位
 出典: DGFT

ドイツはその他の機械のパーツ (HS コード:84229090)の最大輸入相手国で、インドの輸入は2億2700万ルピー (2009年4月から12月)を超えた。量では、12万1000ユニットであった。2位はイタリアで、イタリアからの輸入は同時期で約1億6300万ルピー

一であった。第3、4、5位は2009年4月から12月の輸入価格ベースでスイス、日本、台湾である（表1.9参照）。

表 1.9: HS コード: 84229090*に基づく製品輸入先の上位 20 国・地域

国・地域名	2007-08		2008-09 (4月-12月)	
	百万ルピー	数量#	百万ルピー	数量#
ドイツ	344.66	176.34	227.49	121.00
イタリア	412.79	194.77	163.18	74.05
スイス連邦	78.35	51.39	149.40	28.31
日本	132.59	24.82	141.04	17.68
台湾	103.75	47.89	93.56	44.94
中華人民共和国	13.60	10.27	91.22	169.07
大韓民国	15.18	9.54	60.57	47.74
スペイン	73.07	22.73	56.94	23.57
英国	84.08	77.92	48.15	49.99
フランス共和国	51.99	30.22	41.37	24.57
デンマーク	33.11	29.58	26.01	39.09
米国	17.28	22.67	25.34	8.60
マレーシア	20.16	5.87	23.14	8.80
香港	23.51	17.98	22.21	11.68
スウェーデン	18.76	30.97	11.98	25.98
オーストリア	0.04	0.01	10.71	30.38
オランダ	28.18	13.69	7.96	2.07
タイ	7.22	12.96	5.95	1.56
シンガポール	1.40	1.07	3.29	2.27
フィリピン	-	-	2.46	0.75
その他	40.02	27.98	136.11	171.98
合計	1,499.73	808.67	1,348.03	904.08

注記: 2008~09年の輸入をベースにしたランキング (百万ルピー単位)
 * HS コード: 84229090 範囲の商品ははその他の機械のパーツを含む。
 # 千単位
 出典: DGFT

1.4.3 地域別輸出入

アジア及び ASEAN 諸国に対する包装機械の輸出は、2009年4月から12月期で最大のシェアとなった。アフリカはすべてのカテゴリーの包装機械の輸出で25%以上を占めた。HSコード842230の場合、南北アメリカとヨーロッパで約20%と17%をそれぞれ占め、その他の地域が残りを受けている。HSコード842240の機械の輸出では、南北アメリカが総輸出の3%、ヨーロッパが21%を占めている。HSコード84229090に該当するその他の機械の輸出では、南北アメリカが17%、ヨーロッパが20%をそれぞれ占めている。

2008-09 会計年度（4 月から 12 月）の地域ごとの輸出の割合詳細は図 1.5 の通りである。

表 1.10: 地域別輸出 2008-09 年 (4 月-12 月)

地域	HS コード: 842230		HS コード: 842240		HS コード: 84229090	
	輸出 (百万ルピー)	シェア比率 (%) 合計	輸出 (百万ルピー)	シェア比率 (%) 合計	輸出 (百万ルピー)	シェア比率 (%) 合計
ヨーロッパ	286.92	16.75	152.56	20.90	115.66	20.26
アフリカ	469.47	27.40	158.64	21.73	150.30	26.33
アメリカ	340.19	19.86	21.8	2.99	94.594	16.57
アジア及びアセアン	558.42	32.60	380.20	52.08	197.49	34.60
その他	58.129	3.39	16.866	2.31	12.749	2.23
合計	1,713.13	100.00	730.06	100.00	570.79	100.00

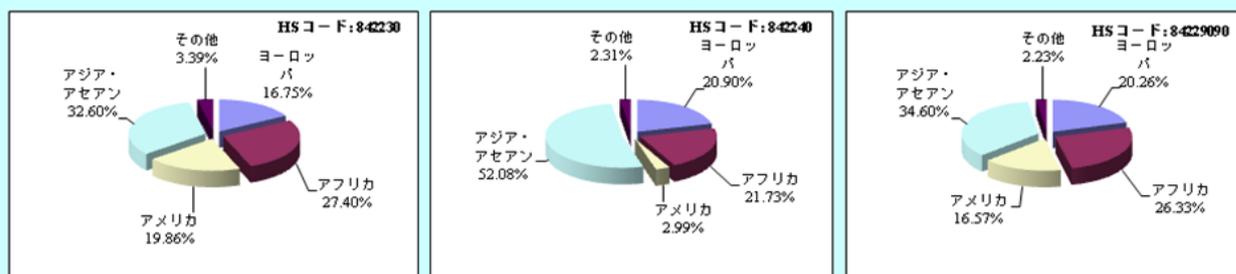
その他はC I S加盟国、バルト国及びその他の未特定地区を含む。
出典：DGFT

表 1.11: 地域別輸入 2008-09 年 (4 月-12 月)

地域	HS コード: 842230		HS コード: 842240		HS コード: 84229090	
	輸入 (百万ルピー)	シェア比率 (%) 合計	輸入 (百万ルピー)	シェア比率 (%) 合計	輸入 (百万ルピー)	シェア比率 (%) 合計
ヨーロッパ	2,433.32	68.62	2,139.36	70.24	852.17	63.22
アフリカ	-	-	3.05	0.10	2.07	0.15
アメリカ	316.91	8.94	60.558	1.99	173.33	12.86
アジア及びアセアン	757.85	21.37	819.56	26.91	196.86	14.60
その他	37.767	1.07	23.097	0.76	123.617	9.17
合計	3,545.86	100.00	3,045.62	100.00	1,348.03	100.00

その他はC I S加盟国、バルト国及びその他の未特定地区を含む。
出典：DGFT

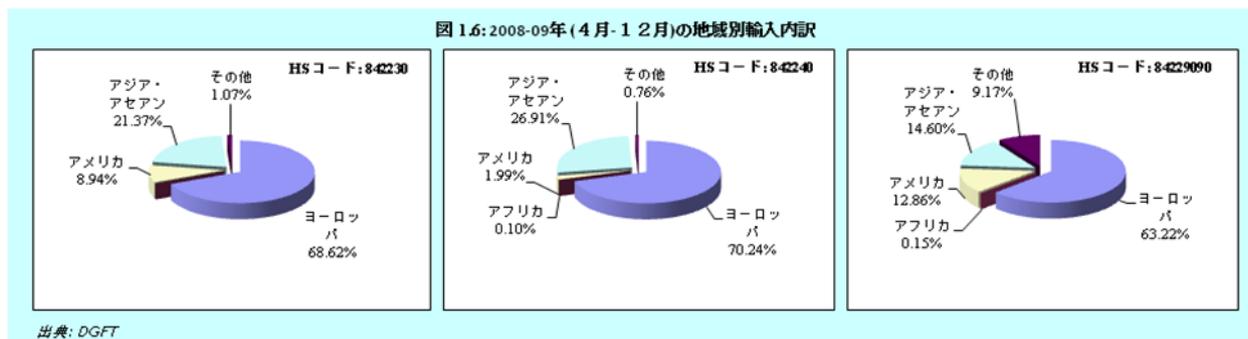
図 1.5: 2008-09 年 (4 月-12 月) の地域別輸出内訳



出典：DGFT

ヨーロッパはすべてのカテゴリーの包装機械の輸入の 60%以上を占め、アジアと ASEAN 諸国が HS コード 842230 と 842240 でそれぞれ 21%と 27%以上を占めている。アジアと ASEAN 諸国からのその他のパーツの輸入は 15%である。アフリカ諸国からの包装機械またはパーツの輸入は無視できる程度である。

2008-09 会計年度（4月から12月）の地域ごとの輸入の割合詳細は図 1.6 の通りである。



1.5 販売のセグメントごとの構成

このレポートで議論される包装機械の主要ユーザー産業には、食品加工、医薬品、化粧品、耐久消費財が含まれる。2008-09 年度、フレキシブル包装機械の総販売量の60%が食品加工産業に由来し、30%が化粧品、5%が医薬品、残り 5%がその他の部門に由来した。医薬品、化粧品、その他の産業はブリスター包装機械の総販売量の 80%、10%、10%をそれぞれ占めた。真空包装機械では、総販売の 90%を食品加工部門が占め、残りが他のセクターであった。同年度、食品加工部門は販売された液体包装機械の 40%を購入し、医薬品と化粧品部門がそれぞれ 30%、20%を購入した。段ボール箱機械の総販売の 100%が耐久消費財市場で販売された。図 1.7 は、09 年度包装機械の部門別（エンドユーザー）販売量の構成を示す。

07 年度-09 年度の各包装機械の販売における部門別構成は表 1.12 に示す通りである。

表 1.12: 各包装機械の販売における部門別構成 (07 年度-09 年度)					
製品区分	エンドユーザー産業				
	食品加工	医薬品	化粧品	耐久消費財	その他
2008-09 年度					
フレキシブル包装機械	60%	5%	30%	-	5%
ブリスター包装機械	-	80%	10%	-	10%
真空包装機械	90%	-	-	-	10%
液体包装機械	40%	30%	20%	-	10%
段ボール箱 (1 次) 機械	-	-	-	100%	-
2007-08 年度					
フレキシブル包装機械	58%	5%	30%	-	7%
ブリスター包装機械	-	80%	10%	-	10%
真空包装機械	90%	-	-	-	10%
液体包装機械	40%	30%	20%	-	10%
段ボール箱 (1 次) 機械	-	-	-	100%	-
2006-07 年度					
フレキシブル包装機械	58%	5%	27%	-	10%
ブリスター包装機械	-	78%	10%	-	12%
真空包装機械	90%	-	-	-	10%
液体包装機械	40%	30%	20%	-	10%
段ボール箱 (1 次) 機械	-	-	-	100%	-
注記: フレキシブル包装はフレキシブルラミネート及びポーチ包装を含む。 その他は日用品、電気製品、化学品等を含む					

出所: Cygnus社推計

2. インドにおける主要包装原料及び主要包装原料製造業者

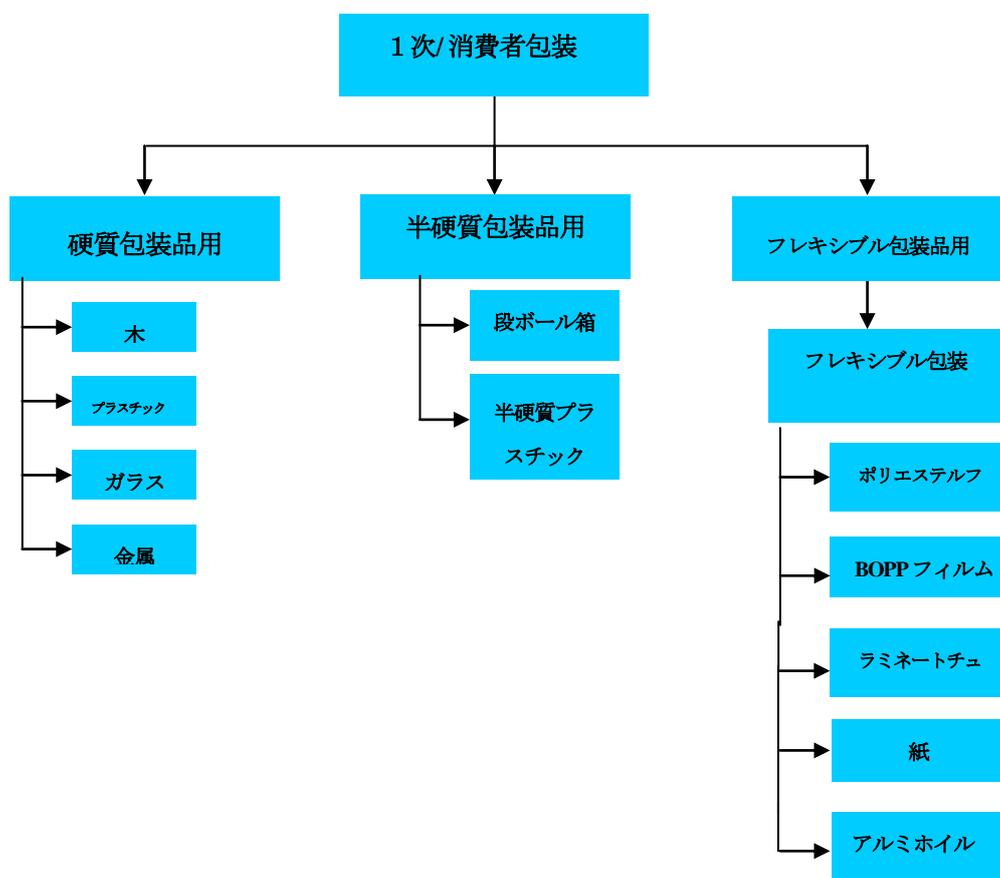
2.1 包装原料市場の概要

包装とは、「原料から加工品までが、生産者、ユーザーや消費者に到達する過程における、商品の格納、保護、取り扱い、流通、陳列を行うために使用する、原料を問わないすべての製品」として定義することができる。インド国内の包装産業における包装原料分野では、包装原料メーカーや変換業者が組織化（あるいは非組織のまま）し、セクター全体として不均一な産業構造となっている。2008年、インド国内における包装原料メーカー数は約 45 万 7000 で、うち大企業が 40、中規模企業が 7000、小規模企業が 45 万であった。

2.1.1 市場構造

包装は主に 3 つのカテゴリー（1 次包装、2 次包装、テリトリー包装）に分割される。（図 2.1 参照）。しかし、このレポートでは、消費者包装としても定義できる 1 次包装のみに焦点をあてることとする。

図 2.1: インドにおける包装原料市場の構造



包装には多種多様な原料が用いられる。原料にはそれぞれ独自の特性があり、包装は、包装する製品との適合性を最重要点として、様々な要素により選択される。包装を選択するときの主な包装原料と選択要素は次の通りである。

包装の選択	選択基準
スズめっき	製品保護
アルミニウム	保管期限
ガラス	剛性
紙/板	利便性
プラスチック	魅力
フィルム	コスト
テトラパック/ラミネート	環境性能
木	剛性

インドにおける包装全体の 80%以上が硬質包装を用いている。硬質包装は最も古く、最も一般的な包装形態である。残りの 20%は柔軟包装となっている。硬質/セミ硬質包装には、ガラスボトル、金属製缶、エアロゾル缶、電池缶、アルミ押出チューブ、PVC 製射出成形プラスチック容器、PET、HDPE、板紙、段ボール箱、HDPE 製樽がある。柔軟包装には通常、プラスチック、紙、アルミ等の基層を単独または組み合わせてつくったマルチレイヤーラミネートシートがある。中流階級の拡大と収入の増大により消費パターンは大きく変化し、品質と利便性合わせ持った製品への需要が高まることになるであろう。同時に、先進諸国との相互作用の拡大は、インド国内消費者の外見や品質への考え方に大きく影響を与え、消費基準の向上につながるであろう。これにより、ブランドを持った製品の消費を刺激し、硬質・柔軟包装の使用頻度が高まることが推測される。

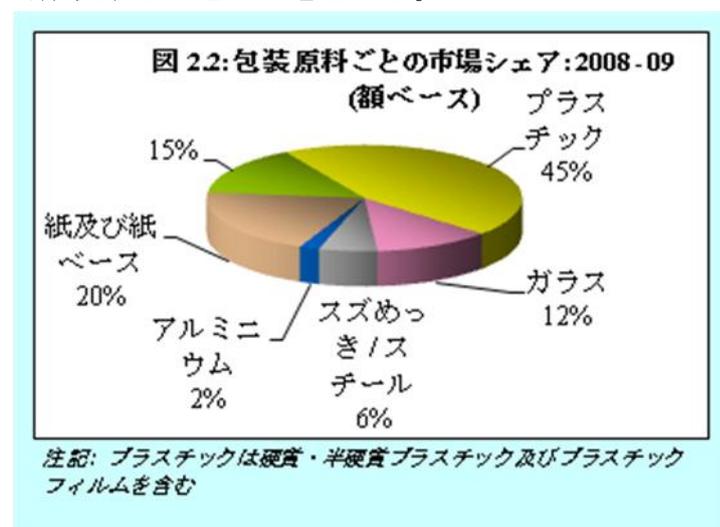
2.1.2 市場規模

包装原料のすべてのタイプのインド国内市場は、2008-09 年で 7000 億～8000 億ルピーであると推測される。このうち消費者包装市場は、4000 億ルピーであると推定される。消費者包装は非常に分断化されており、10 億ルピー以上の販売収益を記録した企業はごくわずかである。大量包装は、主に小規模セクターで行われ、これは主に政府の SSI（小規模企業）セクターの保護政策が理由である。

包装原料	10 億ルピー
プラスチック	180
紙&紙ベース	80
ガラス	48
スズめっき/スチール	24
アルミニウム	8
その他	60
合計	400
出所：Cygnus 社推計	

包装セクターでは、JV ベースまたは子会社としてインド国内で活動する国外企業はほとんどない。2008-09 年において、プラスチックの市場規模は 1800 億ルピーであると推定され、紙&紙ベース原料が 800 億ルピー、ガラス包装原料が 480 億ルピー、スズ

めっき/スチールが 240 億ルピー、アルミベース原料が 80 億ルピーであると推定される。2008-09 年の包装原料の総消費量の中で、プラスチックは最大シェアの 45%を、紙&紙ベース原料が 20%を占めている。同年、ガラス原料の消費量は 12%、スズめっき/スチール、アルミニウムは 2%であった。プラスチックが主な市場シェアを占めるにも関わらず、インド国内の一人当たりのプラスチック消費は、5kg と低くなっている。米国は 109 kg、ブラジル 32kg、中国は 29kg である。インド国内の一人当たりのプラスチック消費は 2012 年までに倍増することが推測されており、インド国内のプラスチック産業が大きく成長することが予想される。



出所: Cygnus 社推計

2.1.3 消費

2008-09 年、最も消費量が多かった包装原料はラミネートであり、その需要は 115 万 3000 トンであった。ラミネートは 05-08 年度の期間において、年平均成長率 (CAGR) 25% を記録した。ラミネートの消費量は、毎年 25%の成長率を記録しており、2009-10 年には 144 万 1000 トンに到達することが予想されている。プラスチックフィルムは、包装原料市場において 2 番目に大きな部分を占め、2008-09 年に消費量は 93 万 1000 トンに達した。05-09 年度期間で年平均成長率 (CAGR) 25%の成長を記録しながら、消費量は 2009-10 年には 116 万 3000 トンとなることが予想される。プラスチックセミ硬質及び段ボール箱は、3 番目、4 番目の地位を占め、2008-09 年の消費量はそれぞれ 47 万 4000 トン、44 万トンであった。

表 2.2: 包装原料消費の推移 (千トン)

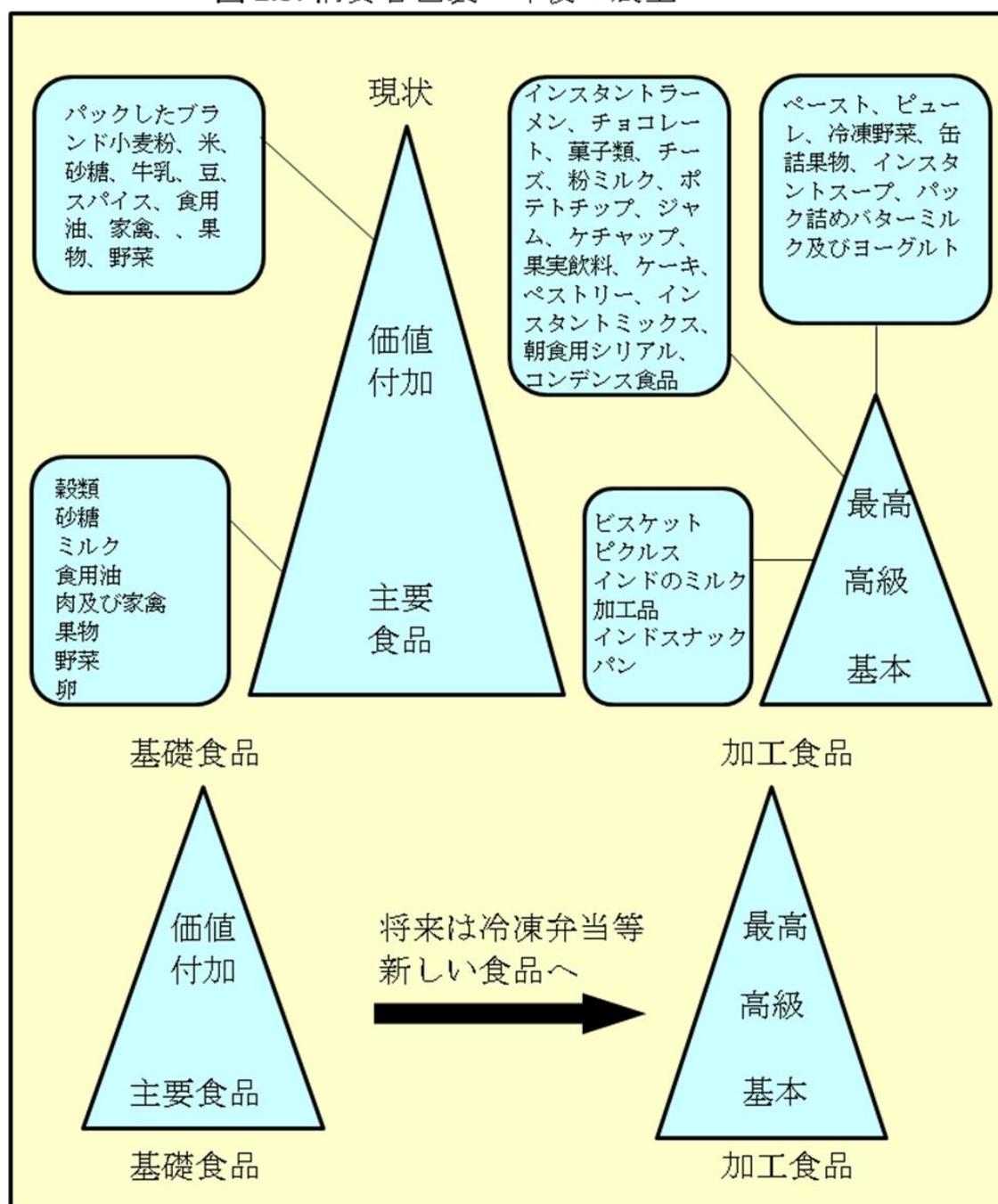
包装種類	2000-01 年度	2004-05 年度	2008-09 年度*	2009-10 年度*
段ボール箱	172	252	440	506
ラミネート	270	472	1,153	1,441
ガラス容器	138	188	255	276
スズめっき	137	166	202	212
プラスチック 半硬質	185	271	474	545
プラスチックフィルム	218	381	931	1,163

出所: Cygnus 社推計

2.1.4 包装原料のトレンド

変化するトレンドに応じ、従来の加工や包装技術は改善されるか、もしくは新しい要求を満たすためにいくつかの新しい技術が発達した。特に、包装の最大消費者である食品加工産業における変化のトレンドは、消費者包装原料の開発の最も強力な牽引力の一つであった。図 2.3 は期間ごとの消費者包装の変化を表している。

図 2.3: 消費者包装 - 今後の展望



2.1.4.1 プラスチック

科学技術の発達により、自然/伝統的原料に代わり、プラスチック等の代替原料が現れた。コスト削減のほか、プラスチックは従来の原料では不可能であった用途にも使用できる。プラスチックは新世紀の原料である。今日、プラスチックの使用は国の産業化、経済状態、国民の生活水準の的確な指標となっている。

プラスチックの中には多様な原料があり、包装用途に使用される。大型包装用途に使用される重要なプラスチックは、特に HDPE、PP、PVC、ポリエステル、ポリスチレンである。これらは包装の本体構造に使用され、他のポリマーはコーティングとしてより薄い用途に使用され、基本包装の機能特性を向上させる。プラスチックを使用することの利点は、プラスチックの機械的なバリアとその他の特性、及び製品の保護、保全、流通ニーズを完全に満たす構造を作り出すことができるその実現可能性による。食品やその他の消費者製品で使用されるプラスチックベースの包装原料の成長と新しい開発には、多くの要素が存在する。

- インドのポリマー製造能力の向上
- 原料の国内調達可能化
- プラスチックへの認識の高まり
- 都市及び地方の中流階級の生活スタイルの変化
- 多国籍企業の参入
- 大量から小規模への消費者包装のシフト

食品包装で使用するプラスチック

食品包装で使用するプラスチックは、主要構造として包装紙、パウチ、バッグ、ボトル、缶、トレイ、タブの形で使用される。2次包装やコンポーネントとしてシール、閉鎖、オーバーラップ、ラベル、開封明示デバイス、収縮バンド、開封帯等が使用される。そして3次包装として、大量包装のときにボックスやカートンのパレット積みで使用する収縮ラップがある。

食品包装で使われる最も一般的なプラスチックは次の通りである。

- 硬質包装
- フィルム

上記タイプの包装で使用するプラスチックは次の表に記載されている。

包装種類	2000-01 年度	2008-09 年度*	%-CAGR
硬質包装	400	1,300	16%
フィルム	600	2,100	17%

出所: Cygnus 社推計

硬質プラスチックの消費は 2008-09 年では 130 万トン程度であったと推定される (01 年度-09 年度の期間で CAGR16%)。同年包装に使用されたフィルムは約 210 万トンであった。

2.1.4.2 ラミネート

ラミネートに使用される原料は大まかに 3 つのカテゴリーに分類される。紙、アルミホイル、そしてポリエチレン、ポリエステル、2 軸延伸ポリプロピレン（BOPP）、キャストポリプロピレン等のヒートシール可能プラスチックフィルムである。これらのラミネートの多くは、ヒートシーリングによりパウチ、バッグ、小袋に加工され、ラミネートの層の最も内側はヒートシール可能となる。他の層は、パウチの特性に応じて選択される。

軟包材加工産業は次の通り分類可能である。

- 接着ラミネート加工産業
- 共押出産業
- 押出コーティング産業

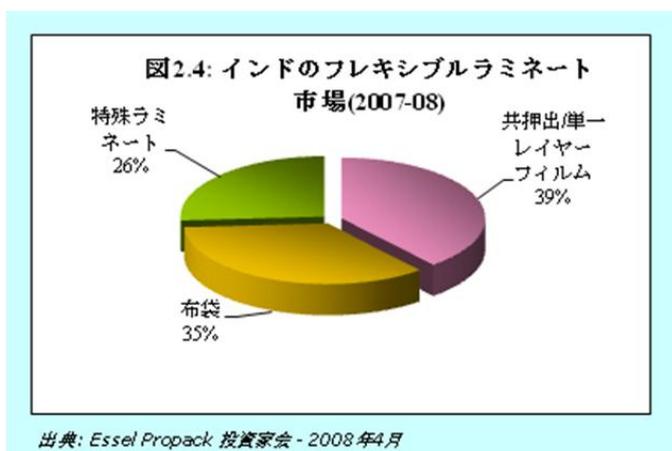
上記の中で、接着ラミネート加工産業が最も急速に成長しており、接着ラミネートは加工食品産業において包装メディアとして広く使用されている。接着ラミネートが使用される加工食品セクターは次の通りである。

- チョコレートバー
- スパイイス
- ベビーフード/麦芽食品
- 粉ミルク
- フルーツジュース
- スパリ¹/パンマサラ
- Cadbury Gems 等菓子類
- ビスケット
- お茶
- 押出食品/スナック食品
- コーヒー

押出コーティングによる包装を使用する製品は次の通りである。

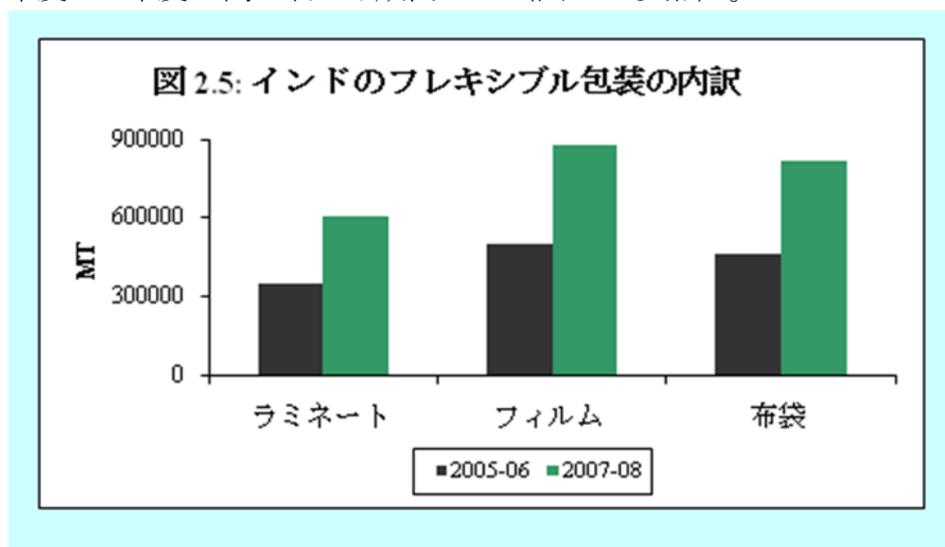
- 菓子類
- ビスケット
- パン
- 紅茶

¹ ビータルの実（ビータルナッツ）



共押出は通常フィルムと呼ばれる。これは、プラスチックの層を2枚以上重ねてマルチレイヤーフィルムにするものである。2007-08年、共押出/単一レイヤーフィルムは柔軟ラミネート市場の39%を占め、布袋と特殊ラミネートはそれぞれ35%、26%であった(図2.4参照)。

08年度では、フィルムの需要は874,503 MTであった。布袋とラミネートの消費は813,288 MTと603,407 MTであった。これらの3つの柔軟パッケージングは、06年度-08年度の間約75%成長した(図2.5参照)。



出所: Cygnus社推計

2008-09 年の接着ラミネート、押出コーティングフィルム、共押出フィルムへの需要予想は次の表の通りである。

表 2.4: 食品産業におけるフレキシブル包装メディア-接着ラミネート (千トン)		
製品	2004-05	2008-09*
チョコレートバー	3.67	7.36
Cadbury Gems 等お菓子類	0.92	1.84
ビスケット	13.77	27.6
紅茶	33.42	67.02
押出食品/スナック食品	38.70	77.6
コーヒー	3.22	6.45
スパイス (粉末)	3.98	7.97
ベビーフード/麦芽食品	13.77	27.6
粉ミルク	0.37	0.74
フルーツジュース	0.75	1.5
スパリ/パンマサラ (インド人が多く消費する)	149.01	298.82
合計	261.55	524.50
* 推定 出典: インド包装研究所 - 産業研究会レポート、MFPI		

表 2.5: 食品産業におけるフレキシブル包装メディア-押出コーティング・ラミネート産業 (千トン)		
Product	2004-05	2008-09*
菓子類	0.37	0.5
ビスケット	8.73	11.87
パン	25.86	35.18
紅茶	0.44	0.6
合計	35.39	48.15
* 推定 出典: インド包装研究所 - 産業研究会レポート、MFPI		

表 2.6: 食品産業におけるフレキシブル包装メディア-共押出フィルム産業 (千トン)		
製品	2004-05	2008-09*
食用油	23.65	47.42
ワナスパティ-ギー (調理用の乳製品)	1.76	3.52
牛乳	78.31	157.03
塩(食用)	7.52	15.09
合計	111.24	223.06
* 推定 出典: インド包装研究所 - 産業研究会レポート、MFPI		

2.1.4.3 ガラス包装

ガラス包装は、年間約 5%の成長を見せている。この業界は近年のコスト削減圧力で、利益性が長期的に低くなっている。ガラス包装は PET 容器、カートン、柔軟包装の市場を失った。しかしながら、この産業は軽量ガラスボトル、工夫された形状のガラスボトル、艶消し仕上げ等の開発に成功した。

2.1.4.4 紙&紙ベース包装

現在、インドは世界で第 15 番目の紙と板紙消費量を有し、将来的に順位が上がる事が予想される。紙は最も成長率が高い分野で、6-7%の成長を見せている。2007 年の紙の需要は約 600 万トンで、その約 40%が包装産業で消費されている。紙への需要がこのまま成長しつづければ、紙の総消費量は 2010 年までに 950 万トンとなる事が予想される。

2.1.4.5 段ボール箱 - 産業のシナリオ

- 現在インドには 5500 程度の段ボール箱製造所が存在する。
- 約 15 製造所がオートマチック 3/5 層工場を採用し、残りがセミオートマチックマシンを使用している。
- この産業は依然として近代化前の産業である。
- 紙の総消費量は毎年約 150 万トンである。
- 現在段ボール産業は年間 10%の成長率を誇り、近い将来 12%にまで上昇することが予想される。
- 2010 年までに少なくとも 50%の段ボールビジネスがオートマチック工場を通じて行われるであろう
- 中国製機械がインドやヨーロッパのマシンに比べ、低投資コスト、高性能の点で有利である。

2.1.4.6 スズめっき

スズめっきは真に環境に優しい包装媒体であると考えられているが、インドではこの独自の特性の恩恵をまだ受けていない。世界的消費パターンと比較し、インドのスズめっきの一人当たりの消費量は非常に低く、おそらく 0.3kg 未満である（年間消費量は 300,000 MT と推定）。人口が多い中国でも一人当たりの消費量は 1kg を超えている。世界的スズめっき消費パターンから、約 70%のスズめっきが食品と飲料の包装に使用されていることが分かる。アジア地域におけるスズめっきのおおよその成長は、年間 8%を超える程度と推定される。スズめっき包装は、レトルト食品でも主導的地位にありヨーロッパ市場の 67%のシェアを持つ。潜在成長力の高い食品と飲料での使用が大きく貢献している。

インドにおけるスズ缶包装産業は驚くべき成長を遂げる段階にある。スズめっき製造産業とスズめっき加工産業が、スズめっき推進委員会（TPC）を設立し、包装産業に技術的、環境的、経済的利点を強調して国内のスズめっきの使用を推進している。

2.2 包装原料の主要国内メーカー

2.2.1 Shako Flexipack Pvt. Ltd. (グジャラート)

Shako Flex は、品質の高い包装原料の製造と輸出を行う主要メーカーの一つである。1992年に設立され、柔軟包装産業で市場リーダーとなった。Shako Flex が提供する多様な包装素材は、食品、オイル/潤滑油、化学、エンジニアリング、医薬品等の様々な産業で使用されている。Shako Flex は起立パウチ、食品包装パウチ、柔軟包装パウチ、キャップシール、アルミシール詰め物、プリント・ラミネート加工HDPE 布袋、チャック付きジッパーバッグ、ロールストック、レトルト及びその他の同様の形式の製品を開発、製造している。

2.2.2 UFLEX Ltd. (ウッタールプラデシ)

UFLEX はインドで最大の柔軟包装企業の一つであり、1.5 億米ドル以上の粗利益を毎年計上している。UFLEX の包装部門はインドの包装に革命を起こし、世界の顧客に柔軟包装原料を用いたトータルソリューションを提供している。UFLEX はポリエステルチップ、BOPET、BOPP フィルム、プリント&コーティングインクの高い生産性、ホログラフィ、硬化&PVDC コーティング施設を有し、グラビア印刷シリンダー、グラビア印刷、ラミネーション及びポーチ形成を行っている。UFLEX は米国、カナダ、英国、ロシア、CIS 諸国、南アフリカ、中東、南アジア諸国に製品を輸出している。UFLEX のクライアントには、Godrej、Heinz、Henkel、ITC、Nestle、Pepsi、Perfetti、Smithkline-Beecham、Tata Chemicals、Tata Tea、Unilever Group がある。

2.2.3 ITC Ltd. (西ベンガル)

ITC の包装&印刷事業は、板紙を包装に変換する事業で国内最大規模である。この部門は ITC のタバコ事業の戦略的後方統合として 1925 年に設立された。ITC は年間 5 万トン以上の紙と板紙を、食品&飲料、個人用品、タバコ、お酒、携帯電話、IT 包装産業において、様々な付加価値包装製品に使用している。ITC のクライアントには、British American Tobacco、Philip Morris International、Surya Nepal Private Ltd.、VST Industries、UB Group、Nokia、Flextronics、Foxconn、FMC India Pvt Ltd.、Pernod Ricard、Allied Domecq、Whyte & Mackay、Hindustan Lever、Tata Tetley、Nestle、Reckitt Benkiser India Ltd. 等がある。ITC は 3 つの生産ユニットをタミル・ナードゥ、ビハール、ウッタラーカンドに持ち、ISO 9001、ISO 14001、OHSAS 18001 の認定を受けている。

2.2.4 Sterling Enterprises Ltd. (マハラシュトラ)

Sterling は金属スズ容器、小型スズボックス、金属ポスター等、様々な金属製品の主要製造メーカー並びに輸出メーカーの一つである。25 年間の経験のもと、優れた品質と低価格により名が知られることとなった。Sterling はエアロゾルスズ缶、一般ラインスズ容器、金属ポスターや印刷シート、OTS 容器、スズ食品容器の製造、

流通を行っている。Sterling は、化粧品、食品&飲料、化学薬品等、様々な産業に製品を提供している。

2.2.5 Hindustan Tin Works (ニュー・デリー)

Hindustan Tin Works (HTW)は金属容器産業のパイオニアでありリーダーである。40年間にわたり、数多くの製品の包装要求を満たすことに成功し、その多くは現在ブランドリーダーである。HTWの製品は、ベビーフードから加工食品、コーヒー、日常製品、ペイント、潤滑油、殺虫剤等の様々な製品の包装に使用されている。HTWの製品は Lactogen、Cerelac、Everyday、Tata Coffee、Asian Paints、Cherry Blossom、Haldiram 等のブランドメーカーに採用されている。

2.2.6 Maharashtra Metal Works Pvt. Ltd. (マハラシュトラ州)

Maharashtra Metal Works (MMW)は、高品質スズ、プラスチック容器、金属シート製品の製造及び輸出を行っている。1977年に設立され、化学薬品、食品、飲料セクター等多様な産業に製品を提供している。MMWはISO 9001:2000の認定を受けており、クライアントには Kansai Nerolac Paints、Rallis India、Pesticides India、Maharashtra Insecticide、Monsanto Chemicals、Gujarat Agro、Bayer India、Devidayal Agro Chemicals、Siris India、Indofil Chemicals、Gayatri Pesticem、Hindustan Petroleum、Excel Crop Care がある。

2.2.7 Nikita Containers Pvt. Ltd. (タミル・ナードゥ州)

Nikita Containers は多様な包装用スズ容器の安定した製造メーカー及びサプライヤーである。Nikita Containers の製品には、金属食品容器、スズ食品容器、正方形や長方形容器、丸型容器、クッキー容器、菓子容器、タルク粉容器、カスタムや装飾容器がある。Nikita Containers は1995年に設立され、化粧品、食品、飲料等多くの産業に製品を提供している。Nikita Containers のクライアントには、Britannia、Ponds、Cafe Coffee Day、Yardley 等がある。

2.2.8 India Packaging Products Pvt. Ltd. (カルナタカ州)

India Packaging Products Pvt. Ltd. (IPP)は、製造、マーケティング、プランテーション、無料奉仕教育機関等の多様な活動を行う企業グループに属し、6億ルピー以上の粗利益を計上する。IPPは1963年に設立され、段ボール箱製造ユニット及びプラスチック射出/ブロー成形コンポーネント製造ユニットより構成されている。IPPは包装製品を、食品や飲料、医薬品、化粧品、電子、自動車、繊維、テレコミュニケーション等、様々な産業に供給している。クライアントは、Glaxo Smithkline、Sara Lee、Birla 3M、Hindustan Lever、Nestle India、Cavinkare、Amco Batteries、British Biologicals、Micronic Devices 等の主要メーカーである。

2.2.9 Parikh Packaging Pvt. Ltd. (グジャラート州)

Parikh Packaging は Parikh Group の一部門であり、食品、医薬品、日用品、農業包装製品等のすべての柔軟包装ニーズを満たすワンストップソリューション供給メーカーである。Parikh Packaging は ISO 9001:2000 に認定され、ジップロックパウチ、ジッパーパウチ、起立パウチ、ラミネート起立パウチ等の包装原料を提供している。Parikh Packaging はインド、英国、米国、アフリカ、中東、極東に拠点を構える。Parikh Packaging のクライアントには、Amul、Parle、Britannia、HUL、Dabur、Kingfisher がある。

2.2.10 USK Balaji PLAST Pvt. Ltd. (マハラシュトラ州)

USK Balaji PLAST は包装産業で安定した地位を築き、世界クラスの印刷ソリューションを用いた高品質製品を提供している。USK Balaji PLAST の包装原料及び熱成形包装は、食品包装原料、医薬品包装原料、化粧品包装原料、一般用途包装原料等の多様な用途に用いられている。

2.2.11 Arihant Polymoulds & Polymers Pvt. Ltd. (マハラシュトラ州)

Arihant Polymoulds & Polymers はラミネート包装フィルムの主要製造、供給メーカーの一つである。1994 に設立され、包装素材及びラミネートをロール形式とパウチで製造/供給し、様々な産業で使用されている。Arihant Polymoulds & Polymers は様々な印刷、ラミネート加工技術を用い、またペーパーポリエステル、BOPP、マルチレイヤー共押出フィルム、CPP フィルムを原料として使用している。

2.2.12 Prayas Enterprises (マハラシュトラ州)

Prayas Enterprises は独自の包装原料を製造、輸出、供給している。設立は 1993 年である。

2.2.13 Sabar Flexipack Pvt. Ltd. (グジャラート州)

Sabar Flexipack はインド国内の主要包装製品メーカーの一つである。Sabar Flexipack は 2004 年に設立され、ラミネート加工食品パウチ、プラスチックシールパウチ、プラスチック食品パウチ、プラスチック包装シート、包装パウチ、ラミネート加工包装シート、食品包装パウチ、ラミネート加工パウチ、密封パウチ、包装パウチ等の包装製品を製造している。

2.2.14 Holymen Packaging Industries (ウッタルプラデシ州)

Holymen Packaging Industries は高品質包装フィルムの製造と輸出を行っている。Holymen Packaging Industries の製品には、ポリエステル包装フィルム、CPP 包装フィルム、医薬品包装原料、食品包装原料、プラスチックパウチ等のラミネート加工パウチ、サイド密閉パウチ、食品パウチ、金属化包装フィルム等があり、食品、医療、医薬品業界の包装ニーズを満たしている。Holymen Packaging Industries は 1997 年に設立され、Lal Mahal India、Royal Hindustan、Baggreys India 等の有名クライアントに製品を供給している。

2.2.15 Agrawal Poly Plast (P) Ltd. (ウッタールプラデシ州)

Agrawal Poly Plast は、ポリエチレンパウチ、マルチレイヤーパウチ、ミルクパウチ、ポリエチレンミルクパウチ、プラスチックミルクパウチ、ラミネート加工フィルム、PE ラミネート加工フィルム、プラスチックラミネート加工フィルム等、ポリエチレン包装製品の製造と供給を行っている。これらの製品は、ラミネート加工、食品加工、家禽、ベーカリー、繊維、文具、化粧品等の多様な産業で使用されている。Agrawal Poly Plast は 1995 年に設立され、ISO 9001:2000 認定企業である。

2.2.16 Poysha Packaging Pvt. Ltd. (ウッタールプラデシ州)

Poysha Packaging は 2006 年に設立され、印刷及び包装素材の製造及び供給を行っている。Poysha Packaging は ISO 9001:2000 の認定を受け、パウチ、石鹼包装、収縮性スリーブ等の印刷包装原料を製造、輸出している。Poysha Packaging のクライアントには、Tata Salt、Parle Products、Tata Tea、Godfrey Phillips、Bambino Agro、Anmol Bakers、Pantaloons Retail、Kohinoor Foods がある。

2.2.17 National Vinyl Industries (カルナタカ州)

National Vinyl はインド企業で、包装製品及び包装サービスを製造、取引している。National Vinyl は、HDPE (高密度ポリエチレン) 容器、プラスチック容器、ペットジャー、ブロー成形容器、ミネラルウォーターボトル等、様々な包装原料を製造している。これらの他にも、バイアル、プラスチックジャー、ジェリー缶、食品容器、プラスチックボトル、殺虫剤容器、エアロゾル容器、プラスチック開封よけキャップ、収縮スリーブ容器等も製造している。

2.2.18 Rexam Pharma Packaging India Pvt. Ltd. (カルナタカ州)

Rexam Pharma はこの分野において、インドで完全子会社を所有する初めての多国籍企業である。Rexam Pharma は現地と多国籍パートナーの製品開発をサポートしている。Rexam Pharma は目、耳、ロドロッパーボトル、鼻スプレーセット、小児用薬品製品の安全閉鎖システムを専門としている。

2.2.19 Essel Propack Ltd. (マハラシュトラ州)

Essel Propack は、Essel Group のムンバイに拠点を置く子会社で、世界最大の特種包装企業の一つである。Essel Propack の製品は、オーラルケア、業務用途、化粧品、食品、パーソナルケア、医薬品等の各種産業で使用されている。Essel Propack は、メキシコ、米国、コロンビア、英国、ドイツ、エジプト、ロシア、中国、フィリピン、インドネシアで操業し、国際的存在感を高めている。

2.2.20 Rorex India Ltd. (ハリヤナ州)

Rorex India は 1964 年に設立され、インドにおける主要柔軟包装原料メーカーの一つとなっている。Rorex India は、単層から 5 層まで、様々な組み合わせのマル

チレイヤーラミネートを製造している。これらの包装素材は、ビスケット、キャンディー、チョコレート、ポテトチップ、スナック菓子、お茶、コーヒー、スパイス、砂糖、塩、ヌードル、シリアル、ドライフルーツ、ライス、殺虫剤、お酒、オイル、肥料、エンジニアリング製品等の包装に使用されている。Rexor India のクライアントには Dabur、Britannia、Haldiram、Nestle、Gillette がある。

2.2.21 Paper Product Ltd. (マハラシュトラ州)

Paper Product Ltd. (PPL) は 1935 年に設立され、フィンランドに本社のある Huhtamaki Oyj の子会社である。PPL は、柔軟包装、ラベル技術、特殊カートン等の様々な包装製品を提供する。PPL のクライアントには HUL、Nestle、Cadbury、Britannia、Glaxo Smithkline、Coca Cola、Perfetti、Dabur、Marico、P&G がある。

2.2.22 Emkay Flexi Pack (グジャラート州)

Emkay は 1996 年に設立され、柔軟包装産業の専門技術を有する企業である。Emkay は様々なプラスチックフィルムの組み合わせで構成される輪転グラビア印刷柔軟包装を製造している。国内流通の他に、Emkay は自社製品をいくつかの外国にも輸出している。

2.2.23 Excell Plastic (マハラシュトラ州)

Excell Plastic は 1993 年に設立され、高品質の製品により「包装」業界に貢献している。Excell Plastic はプラスチック業界に熱成形及び真空成形機械、薬品業界にブリスター包装機械を開発製造している。また、Excell Plastic は、収縮ラップ、スキン包装機械を全業界用に製造している。

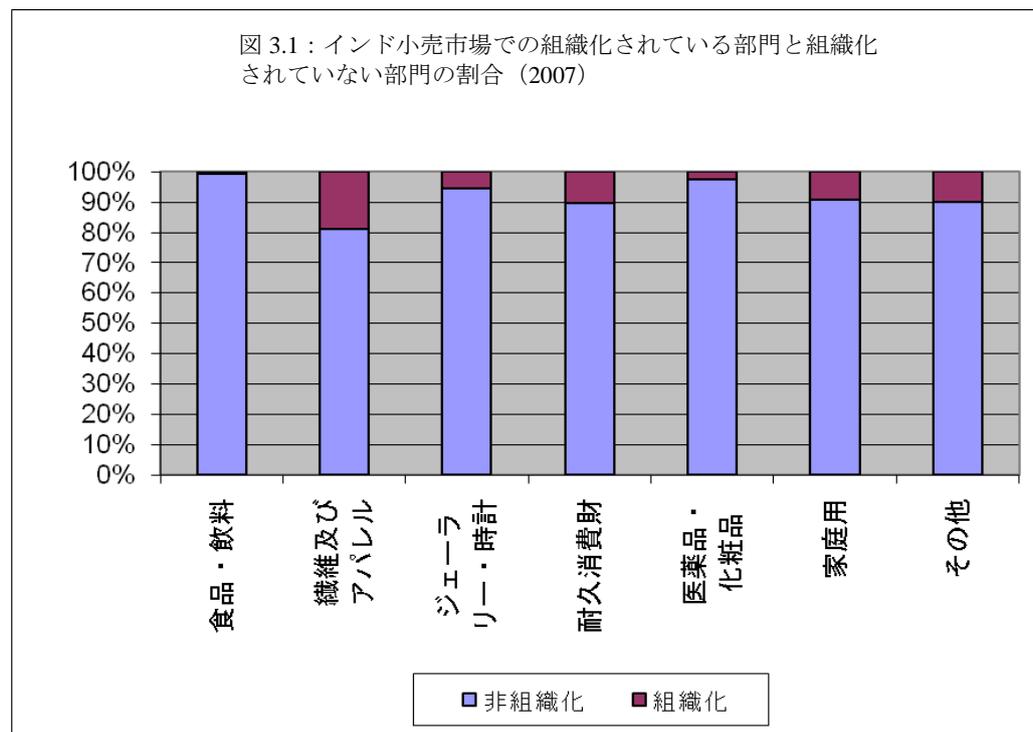
3. 小売流通とパッケージングの現状

インドが世界の情報技術（IT）中心国となって久しいが、現在インドは小売部門の中心地として発展しようとする態勢を整えている。高度経済成長を自覚している同国だが、急速に国際的に最も好ましい、また信頼できる小売市場の1つになりつつある。インドの人口の割合は20歳以下が20%、34歳以下では64%となっており、若年層の割合の高さが市場、きれいに包装された商品やブランド品に影響

を与えている。インドの小売市場は国内総生産（GDP）全体の10%を占めているが、2008年までに同市場規模は8,000億ルピーに達したと推定されており、このうち組織化された小売部門は約27から30%の年平均成長率（CAGR）で成長し、同市場シェアの約8%を獲得すると見込まれている。小売部門の構成比は、百貨店が2%、卸売業が9%、ハイパーマーケットが32%、スーパーマーケットが33%、その他が23%となっている。インドの小売市場では食品・飲料部門が大部分の割合を占めている（表3.1を参照）。

部門	シェア% (2006)	シェア% (2010)*
食品・飲料	65	60
アパレル	7	8
耐久消費財	5	6
ジュエリー・時計	5	6
化粧品	5	5
医薬品	3	3
履物	2	2
その他	8	10
合計	100	100

* 推定
出典: www.indiapackagingshow.com



出所: Cygnus 社推計

以前のインド小売形態は、ほとんどが組織化されていない小売部門というのが唯一の特徴とされていたが、それは非常に細分化していて、中間流通経路や多重流通経路で多大な存在感を発揮していた。しかし、ショッピングモール、スーパーマーケット、ハイパーマーケットの出現で、インド小売業界は大変貌を遂げている。そうは言うものの、小売業界が成熟した組織化された市場になるにはまだ道のりは長い。組織化された食品・飲料部門は国内で最も急成長している部門の1つとされているが、組織化されていない同業者と比較すると、まだごくわずかしかな存在していない（図表 3.1 参照）。一方、繊維や服飾部門は急速に組織化を受け入れている。

インド政府は、キャッシュ・アンド・キャリー（会員制現金持ち帰り卸売業）には自動認可制度により 100%までの外国直接投資（FDI）を、単独ブランドの小売業には外国投資促進委員会（FIPB）の事前認可を通じて 51%までの FDI を許可している。また、大企業向けに特別認可制度も用意している。世界の小売業界をさらに引きつけるために、2007-08 年版経済白書にはすべての小売業で外国株をシェアすること、また高級ブランドやその他専門商品を扱う小売チェーンに関しては、外国株を 100%獲得することが提案されている。着実に成長している小売部門は、言い換えると、インド包装産業の発展につながるすき間市場になってきていると言える。結果として、インド包装産業は飛躍的に発展すると見込まれている。インドは包装材料と包装機械の巨大な潜在市場として急速に浮上してきている。

3.1 小売業界の概要

インドの小売業界はあらゆる局面で発展している。小売業の第一段階として、毎週開催される市場や農村地域のメラス（指定された場所に各種露店商人が集い、畜牛を含むあらゆる商品が売られている場所）が挙げられるが、これらは娯楽や商売の原点と言える。第二段階にはコンビニエンスストア、家族経営の小売店／雑貨店などが含まれている。第三段階では、公的分配システム（PDS）を導入した小売店や手紡ぎ・手織り生地のお店、政府支援を受けた多くの協同組合が出現した。現在、インドの小売業は第四段階に突入しており、その形態として高級ブランド店、ハイパーマーケット、スーパーマーケット、百貨店、コンビニエンスストア、ショッピングモールなどが挙げられている。また最終段階における新興の小売部門として、食品、飲料、化粧品、家具、医薬品、宝飾品、時計が挙げられるが、主要都市やその他の大都市では好評を博している。

インド国内における組織化された小売部門は今後、改善された小売業向けの不動産インフラや以前より容易になった資本調達の後押しを受けて、2010 年までには小売市場全体の 10~12%を占め、市場規模は 5,270 億米ドルに達すると見込まれている。2011 年のインド小売業界の推定規模については表 3.2 を参照のこと。

表 3.2 インド小売業界の推定規模		
	2007	2011
インド小売業界の推定市場規模	3,360 億米ドル	5,270 億米ドル
インドの組織化小売業の市場シェア (%)	4.6	7~8

インドの組織化小売業の市場規模	154 億 5,000 万 米ドル	350 億~400 億 米ドル
出典：KSA Technopak, Images Retail		

経済が発展するに従いライフスタイルは変化し続け、より良い製品の購入やショッピングの形態などさまざまな選択が可能になる。また今後数年間に、国内及び海外の企業が小売部門へ巨額の投資を計画しているため、組織化された小売部門の株は著しく上昇することが予想される。これらの投資のうち **90%**が都市部へ、**10%**が地方に投入される予定である。都市部への投資うち、大部分はハイパーマーケット (**40%**) とスーパーマーケット (**20%**) に投資される予定となっている。

3.1.1 提供商品に基づく分類

小売業者はまた、顧客に提供する商品構成に基づいて分類され、大きく食品と雑貨に分類できると言える。この分類はどこをターゲットに商売をするかで、さらに掘り下げて分類できる。専門店、百貨店、コンビニエンスストアは、非常に明確な目標市場を相手に商売を行っている。

✓ コンビニエンスストア

コンビニエンスストアは住宅地域付近にある比較的小規模な小売店で、深夜まで卵、パン、牛乳など最低限の生活必需品を年中無休で提供している。米国に本部を置く食品流通業団体、食品マーケティング協会 (FMI) は、この形態を“深夜営業または 24 時間営業の、主に食料雑貨類を取り扱う地元の小規模小売店”と定義している。コンビニの店舗面積は 3,000~8,000 平方フィート (約 280~740 平方メートル) で、素早く買い物を済ませたい顧客をターゲットにしている。インドにはコンビニは存在していないが、インドの主要都市では HP Speed mart や In & Out など、セルフ給油所で展開している小売店がコンビニと称されている。もう 1 つの例として、ガソリンスタンドの一部を借りて展開している小売店もコンビニと見なされており、主に時間を選ばず訪れる旅行者を対象に、ペットボトルの飲料水、ティッシュペーパーなど旅行者に必要な雑貨類を販売している。

✓ スーパーマーケット

スーパーマーケットは、食品、日用品、非食料品のニーズに応えることを目的とした、大規模な店舗で低価格の商品を提供し、小利益ながら豊富な品揃えを有するセルフサービス形態の小売店だ。スーパーマーケットは従来の食料雑貨店の形態に変革をもたらすきっかけとなり、現在では多くの国で食料雑貨店市場の 30%以上を占めている。スーパーマーケットの定義としては、店舗面積は 400~2,500 平方メートル、最低でも商品の 70%は食料品と生活必需品であるというのが最も一般的だ。国際的に見ると、スーパーマーケットの店舗面積は 8,000~2 万平方フィート (約 740~1,860 平方メートル) の範囲となっている。英大手スーパー、ASDA や Tesco、米の同業、Safeway や Kroger は国際的な大規模スーパーだ。インドにはいまだスーパーマーケットに関する標準化された指標は存在しないものの、この形態は国内で急

成長しているビジネスモデルの 1 つに数えられている。今後の展開が期待できるインド国内スーパーの例として、Nilgiri's、Food world、Subhiksha、Food Bazaar、Vitan が挙げられている。

ここ数年、スーパーストアやコンビネーションストアなど、さまざまなビジネスモデルが出現している。スーパーストアは従来のスーパーマーケットより規模が大きく、少なくとも 2 万 5,000 品目を取り扱っており、また雑貨や美容・健康商品など食品以外の商品もさらに充実させている。一方、コンビネーションストアはスーパーストアと薬局が一体化した形態で、少なくとも売上げ全体の 15%は医薬品が占めている。

✓ ハイパーマーケット

ハイパーマーケットという言葉は、フランス語の“ハイパーマルシェ”に由来し、スーパーマーケットと百貨店の融合を意味する。従って、ハイパーマーケットはスーパーと百貨店が一体化した小売店と言える。結果として、豊富な品揃えの生鮮食品や服飾品など巨大な商品アイテムをひとつの店舗に一同に集めることが可能になった。ハイパーマーケットは 1 カ所だけでブランド店と顧客を結ぶ、小売店の合同体を目指す大規模な形態の小売店だ。店舗面積はだいたい 8 万～22 万平方フィート（約 7,400～2 万平方メートル）の間で設定されている。ハイパーマーケットは、顧客が 1 度で毎週の買い物をスムーズに済ませられるように計画・設計され、店舗を展開している。これはすなわち、“ワンストップ・ショッピング”と同義である。大量購入割引が適用されるなど、常に求めやすい価格でありとあらゆる商品を取り揃えている。この形態は大規模な経済活動により可能になる。Big Bazaar、Spencer's、Star India Bazaar はインドのハイパーマーケットの事業例である。下記の特徴を満たす小売店は、英国の食品・食料品流通関連のシンクタンクである Institute for Grocery Distribution (IGD)によってハイパーマーケットと定義されている。

- 5,000～1 万 5,000 平方メートルの店舗面積
- 食料品・非食料品を含む幅広い商品アイテム
- ディスカウント・プライス
- 駐車場の完備

✓ 専門店

ある特定の商品や単一製品の耐久消費財（家具、家庭用品、一般家電製品、家庭用電化製品）及び補完財のカテゴリーを専門的に扱う小売店を専門店と称している。このようなビジネスモデルは、顧客に対して高品質のサービスや商品情報を提供しているのが特徴だ。専門店は通常、服飾品、宝飾品、織物、スポーツ用品、家具などの商品を専門に取り扱っている。専門店は非常に明確な目標市場を有しており、事業の成功は顧客へのサービスにかかっている。そのため、いつでも各ブランドが比較できるよう、顧客に向けて幅広い選択肢を用意している。

国際的には、大部分の専門店は 8,000 平方フィート（約 740 平方メートル）以下の店舗面積で営業している。The Gap、Ikea、High & Mighty、Big & Tallなどが世界的専門店チェーンの事業例である。インドにおいては、専門店は急速に出現し始めている形態の 1 つで、Proline fitness station、Gautier furniture がインドの専門店の事業例となっている。

✓ 百貨店

百貨店は主に服飾品、靴、アクセサリ、化粧品、家庭用品などの非食料品を取り扱っている。自社ブランドに注力する所もあるが（Marks & Spencer's や St. Michael など）、百貨店は商品カテゴリーを越えて多数のブランドを用意している。百貨店は商店街の核店舗（アンカーストア）として、目抜き通りに位置しているのが一般的だ。ここ 5 年間で、インドの百貨店チェーン数社が国内に出店を果たしている。利便性とデパートで買い物しようという意識の高まりが、百貨店の発展を後押ししている。

百貨店は以下に分類される：

- フルラインストア： 専門店より多岐にわたる商品ラインを提供する小売店。取扱商品は服飾品、電子機器、音楽、食品など。Lifestyle、Westside、Shoppers Stopなどがこのカテゴリーに分類。
- 専門店： 専門店はその名が示すように、ある特定の商品を専門に扱う小売店。狭い商品ラインの中で充実した品揃えを展開。家具店、生花店、スポーツ用品店、書店はすべて専門店に分類される。Planet Sports、aLL、Vijay Sales、Planet M、Music World、Crosswordなどがインドの専門店の事業例。

百貨店がインドに登場して久しいが、この小売形態はここ数年間でかなり精力的な活動を行ってきている。インド百貨店の平均店舗面積は 2 万～4 万平方フィート（約 1,860～3,700 平方メートル）で、在庫数は 5 万～10 万の SKU（Stock Keeping Units）数に上る。Shopper's Stop、Globus、Westside and Lifestyleなどのインド百貨店の中でも、ムンバイの Akbar Ally's、The Bombay Store、Benzer、デリーの Ebony、ハイデラバードの Chermas、Meena Bazaar は国内有数のデパートである。また、海外有名デパートでは英国の Marks & Spencer、Harrods、Selfridges、米国の Sears、J.C.Pennyなどがインドで展開している。

3.2 その他新興の小売部門

3.2.1 美容・健康商品小売部門

米コンサルティング会社 A T カーニーの調査によると、手取り収入が増加すると、最初に購入するものは食品や日用品で、その後に衣料品が続き、さらに収入が増えると、次に購入するものはパーソナルケア製品あるいは美容製品と言われている。収入が増加したことで、インドの人々はこれまで以上に美容・健康商品にお金を使うようになってきた。その他小売部門の場合のように、自営の小規模小売店がこれらの製品の販売を独占している。しかしここ数年、大都市や中都市にインド最大の

フィットネス・チェーン、Talwalkars やさまざまなスパ・トリートメント施設など、美容・健康に特化した小売チェーン数社が出現してきている。現在同市場において、これらの企業の売上高はまだほんのわずかな割合を占めているに過ぎないが、今後インドの人々が美容・健康商品をもっと購入するようになれば、これらの小売部門は大いに拡大することは間違いない。さらに、今後は同部門小売チェーンの加盟店も増加するとの見方もある。現在、数社の小売店では美容・健康商品を販売すると共に、専門家による美容に関するアドバイスやアークルヴェーダの考えに基づいた体質診断などのサービスを提供している。A Tカーニーの調査によると、同部門の粗利益率は30%に達しており、スーパーマーケットの20%に比べても高い水準で、上記のサービスを続けることが利益アップにつながるとみられている。同部門の発展に同調するように、自然医療・健康関連商品大手のDabur India Ltdは、2008年までに美容・健康関連店舗を160カ所オープンさせる計画を立てていたことが判明している。

3.2.2 家具・家庭用品小売部門

インドの家具・家庭用品小売部門は小規模小売店が独占しているのが現状だ。同部門の市場規模は大きいにもかかわらず、家具や家庭用品を専門に扱う最新の大規模小売店はほとんど設立されていない。しかし、このような製品の専門店チェーンには相当数の新規参入やかなりの発展性が見込まれており、今後数年以内には実現するとの見方が強まっている。同部門の2007年の市場規模は、インド小売市場全体の約3.04%に達している。

3.2.3 耐久消費財小売部門

インド政府が外国投資と輸入政策の自由化を実施してから、1990年代の間に多数の海外耐久消費財企業がインド市場に参入し、インドの耐久消費財部門は劇的に変化した。このため、インドの顧客はこれまで以上に種類豊富な一般家電製品や家庭用電化製品を入手できるようになり、自社ブランドを売り込むための企業間競争が、同部門の発展に力強い弾みをつける結果となった。

消費者の購買習慣や購買行動は絶えず進化している。市場予測は、現在の市場の動向に基づいて立てられている。出店を成功させるには、来客数の分析と企業が計画する出店数の調整が鍵となる。継続的に購買行動を分析し改善を試みることは、想定した客数の獲得に大いに役立ち、売上げにも貢献することになる。

3.3 スーパーストアにおける包装済み商品の流通

小売店は、消費者が必要な時に適切な場所に適切な価格の商品を取り揃えることで、顧客のニーズに対応するよう努めている。小売店はまた、メーカーにも各社の商品を販売する場所を提供している。小売店は、メーカーと消費者を結ぶ流通経路の最後のポジションに位置する。小売業の流通経路とは、生産場所から販売場所、そして最終消費者に製品を流通させる一連の流れを指す。

加工食品、医薬品、飲料商品、耐久消費財、その他の商品など包装済み商品はスーパーストアで販売され、メーカーから供給される時とまったく同じ状態で顧客の手元に渡る。小売市場で消費者が包装済み商品をそのまま購入できるのは、パッケージングのおかげである。最も重要な点は、顧客用のビニール製買い物袋以外、スーパーストアで販売されるどの商品にも再包装の必要性がないという点である。

包装済み消費者製品の流通に関する写真については、添付資料 1 を参照。

3.4 家庭用電化製品（電子レンジ）における製品包装のバリエーション

一般家庭の経済状況の向上とライフスタイルの変化により、インドでは電子レンジの販売が好調である。電子レンジの場合、製品包装は目を引くものにする必要があるのではないかとの考えから、電子レンジのパッケージングに使用されるさまざまな包装材料を調べた。しかし調査の結果、パッケージングになんの違いもないことが判明した。どのタイプの電子レンジも同じような梱包で販売されているのが現状だ。段ボール箱の中に電子レンジを入れ、発泡スチロールでレンジを固定し、ほこりや水の浸入を防ぐためビニールのカバーをかけて梱包している。写真（添付資料 1 を参照）のように、段ボール箱の開口部は粘着テープで密封される。このような形で顧客の元に商品が渡っている。

3.5 結論

パッケージングは、流通の際に製品を保護し、小売段階においては商品の販売を促進する機能を果たしている。また、ブランドイメージを世に送り出すことや数量、消費期限、賞味期限の表示などもパッケージングが果たす役割だ。小売包装では簡単に開けられて、捨てることができる要素も求められる。今日において外観は中身と同様に重要視されるので、パッケージングが脚光を浴びているのは明らかである。また、パッケージに文章を添えたり季節性を取り入れたりするなど、パッケージングはコミュニケーションの手段としても定着してきている。

セルフサービス形態や自動販売機の登場などにより市場が発展したことで、長い年月の間にインドのパッケージングの環境も変化した。国内の中都市に組織化された小売業が増加したことで、2008 年の包装市場の競合は激しいものになった。この時期には、インドの急成長にあやかろうと参入してきた、多数の海外パッケージング企業との提携や合弁企業の設立が相次いで起こった。豪鉱山大手 Rio Tinto Alcan 傘下の Alcan Packaging、独パッケージング・ソリューション・プロバイダーの Klockner Pentaplast Group (KP)、ポーランドの缶製造大手 Can Pak、スイスの Bosch Packaging の外資系企業各社は、在庫調査期間中に既存の投資を拡大するために、新規投資もしくは投資計画のいずれかを発表している。メーカーのバリューチェーン（価値連鎖）に主活動ではない部分に付加価値が加われば、パッケージングは発展に比例して、ますます経済において重要な部門として認知されていくことが予想される。

4. 主要ユーザー産業（食品、化粧品、医薬品）の概観

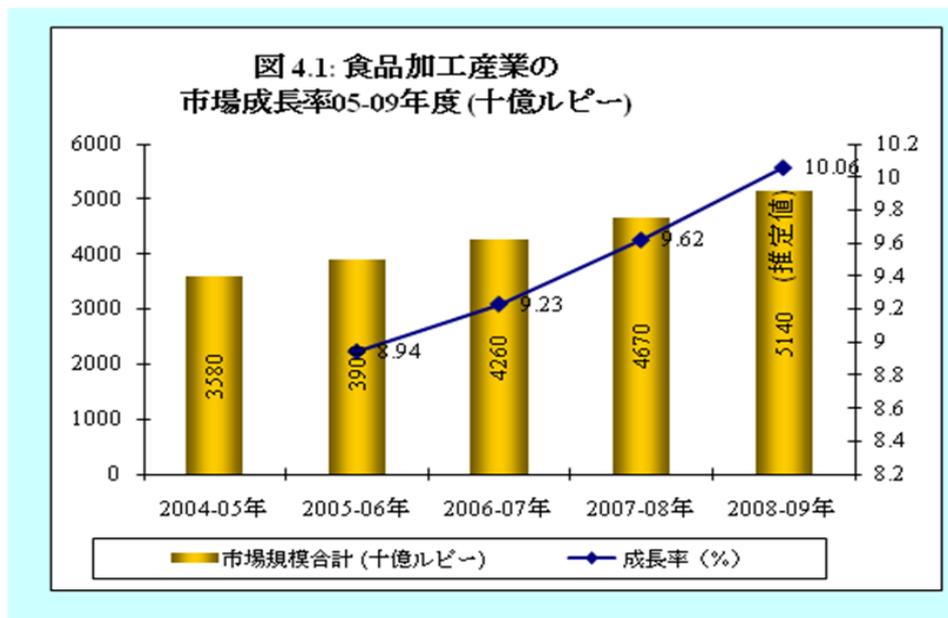
インドは世界で 2 番目に急成長している新興大国として台頭してきており、2007～08 年の GDP 成長率は 9% を記録した。インドの製造業や小売業が世界の注目を集めるのと同様に、インドの包装産業も強い関心の的になっている。2007～08 年のインド包装産業は約 230 億米ドル規模を記録しており、現在同産業は年間約 20% という猛烈な勢いで成長している。今後 5 年間で、同産業の市場規模は約 600 億米ドルに達する見込みだ。パッケージング及び包装機械の需要が最も高い産業は食品加工産業で、全体の 50% を占めており、続いて高いのが医薬品部門からの需要で全体の 25% を占めている。中流階級の増大や経済の自由化、組織化された小売部門が包装産業の発展に弾みをつけている。インド企業は現在、魅力的で衛生的なパッケージングをますます重要視する傾向にある。このことは、今後の包装産業に非常に大きな可能性があることを裏付けている。この章の図 4.1～図 4.15 は全て Cygnus 社推計によるものである。

4.1 食品産業

インドは中国に続く世界第 2 位の食料生産国だが、今後は食料・農業部門で世界最大になる可能性を有している。食品加工産業は“新興産業”としてインドで広く認識されており、農業経済の向上、大規模な加工食品生産の創造、食品チェーン店の設立、雇用の創出、輸出収入につながる大きな可能性を秘めている。このため、インドは現在の世界第 2 位の食料生産国という地位から世界第 1 位の生産国に躍進する非常に大きい成長潜在力を持っている。

4.1.1 食品加工産業の市場規模

2008～09 年のインドの食品加工産業は、5 兆 1,400 億ルピー規模と推定されている。同産業は過去数年にわたり、年平均 8.5% のペースで成長してきた。食品加工産業では組織化された部門は同市場全体の 48% 以下となっている。興味深いことに、同部門は組織化されていない部門の市場シェアを獲得しつつある。



4.1.2 生産

インドにおける食料の全生産量は今後 10 年以内に倍増する見込みで、食品加工技術・設備には多額の投資が期待されている。特に、缶詰、乳製品、食品加工、特別加工、パッケージング、冷凍・冷蔵食品・加熱加工食品、野菜・果物、鮮魚、牛乳及び乳製品、精肉、レトルト及びインスタント食品、アルコール飲料及びソフトドリンク、穀類の分野は食品加工産業の重要なサブセクターとなっている。また、健康食品及び健康補助食品も急速に成長している部門で、健康志向の人々から絶大な支持を集めている。

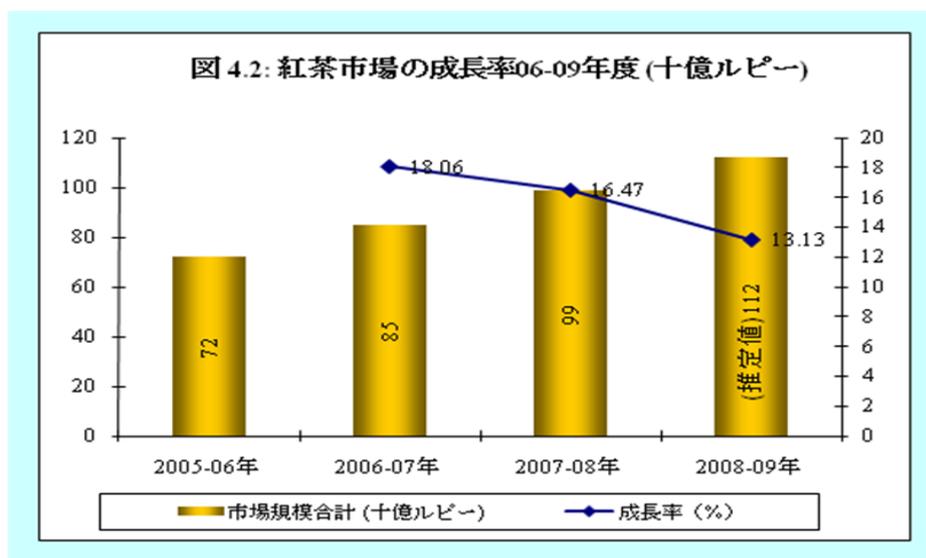
4.1.3 加工食品産業における主要部門の概観

4.1.3.1 紅茶

- インドは世界最大の紅茶消費国
- 紅茶はインドの東部、西部、北部で広く消費されており、幅広い社会階級や年齢層の消費者に好まれている
- しかし比較的単価が低いため、世界的売上高をみた場合ではインドは下位の方にランクされている。
- 紅茶市場は 2 部門に分類—パック化された紅茶部門と量り売りの紅茶部門
- 量り売り紅茶部門は市場の 50%以上を占めているが、ブランド紅茶部門に市場シェアを奪われつつある。

市場規模

2008～09 年のインド紅茶産業は 1,120 億ルピー規模と推定されている。このうち、組織化された部門が同市場全体の 47%を占めている。さらに、同部門は非組織化の部門から市場シェアを獲得し続けている。

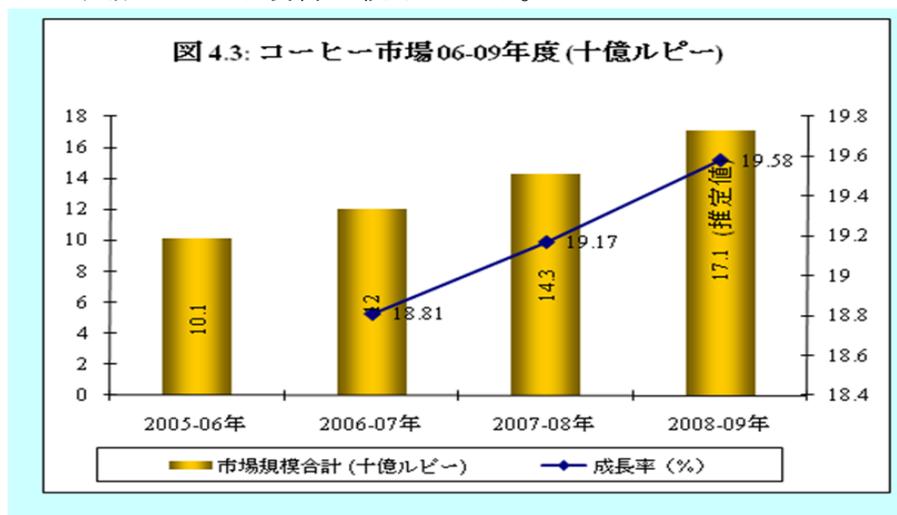


4.1.3.2 コーヒー

- インドは世界最大のコーヒー豆生産国の1つ。
- インドでは、コーヒーは食通向けの飲み物と見なされており、消費するのは主に中流階級、知識階級の人々に限られている。
- 最近まで、インドコーヒー委員会が国内でのコーヒーの販売を行っていた。

市場規模

2008～09年のインドコーヒー産業は171億ルピー規模と推定されている。このうち、組織化された部門が同市場全体の40%を占めているが、さらに非組織化部門からの市場シェアを獲得し続けている。



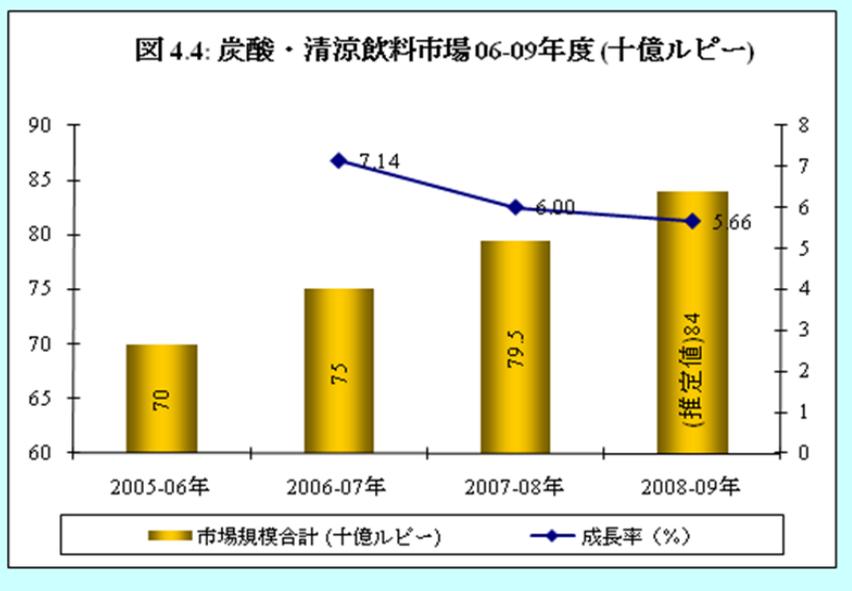
4.1.3.3 炭酸・清涼飲料

- 炭酸飲料とは、主に風味や口当たりを良くするために炭酸ガスを入れた飲み物。

- インドの清涼飲料市場は 1990 年台初頭まで Campa、Thumps Up、Limca などの国内メーカーが多数派を占めていた。
- しかしインドの経済自由化に伴い、Pepsi や Coca-Cola などの多国籍企業 (MNC) が参入するようになり、現在では MNC が市場全体を独占している。

市場規模

2008～09 年のインド炭酸・清涼飲料産業は 840 億ルピー規模と推定されている。コーラ飲料以外の部門が同市場全体の 60%以上を占めており、現在もコーラ飲料から市場シェアを獲得し続けている。

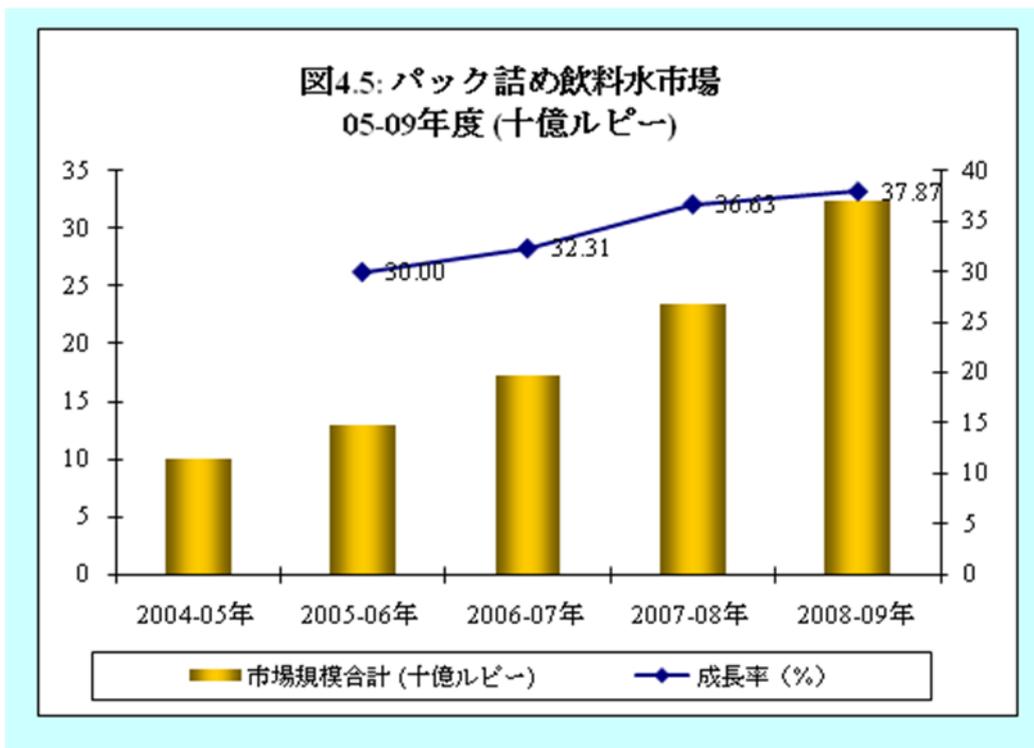


4.1.3.4 パック詰め飲料水

- インドのパック詰め飲料水市場は採算性の高い、長期的な見通しも有望な急成長を遂げている市場
- 現在インドには約 2,000 銘柄のペットボトル／紙パック詰め飲料水が展開されている
- 国内には多数の小規模メーカーが存在するのにもかかわらず、数社の大手メーカーが同産業の大部分を占めている
- 市場を支配している主なブランドは Aquafina (Pepsi)、Kinley (Coke)、Kingfisher (UB Group)、Royal Challenge (SAB Miller)、Bisleri (Parle Agro) で、加えて Sabol などの国内メーカーの製品も市場に出回っている。

市場規模

2008～09 年の国内パック詰め飲料水産業は 378 億 7000 万ルピー規模と推定されている。このうち、組織化された部門が同市場全体の 80%以上を占めている。しかし、毎年新製品やノーブランド製品の参入が相次いでいるため、組織化された部門の市場シェアは減少傾向にある。

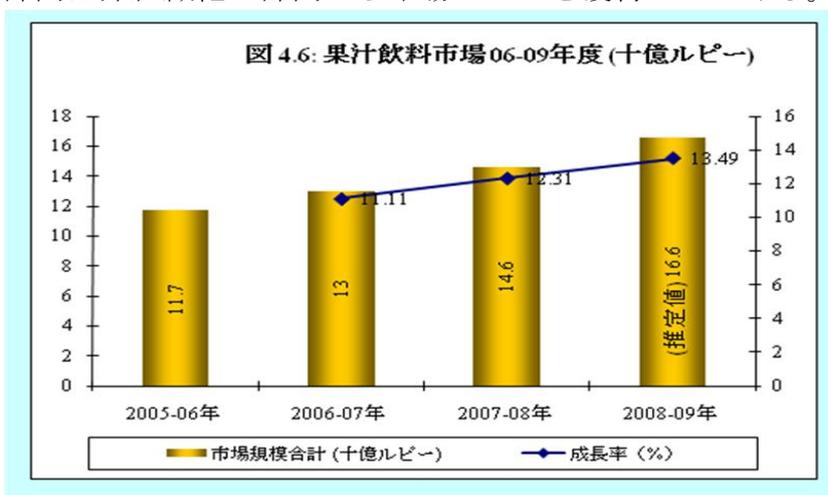


4.1.3.5 果汁飲料

- インドの果汁飲料産業は未開拓な巨大市場である。
- Dabur、Pepsi、Godrej、Mother Dairy などのメーカーは、果汁飲料の新製品を発売することで果汁飲料市場に多額の資金を投入している。
- 競争力を獲得するために、メーカーは新製品以外にサイズや価格の異なる製品も発売している。

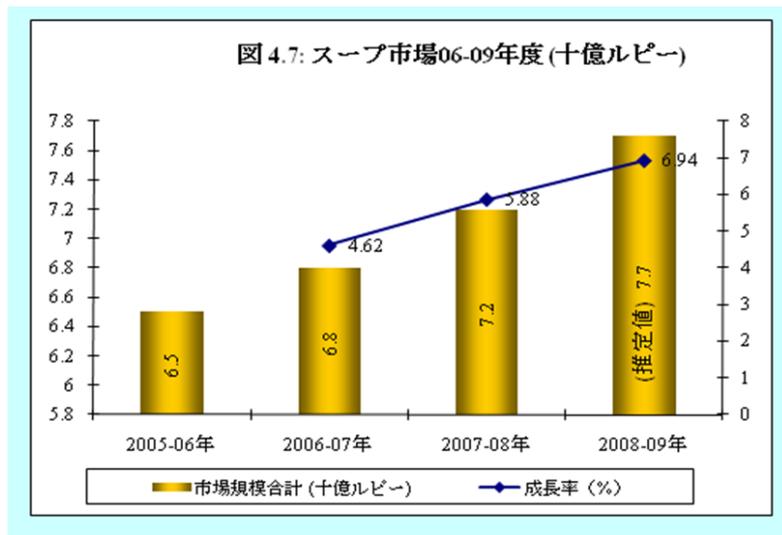
市場規模

2008～09年の果汁飲料産業は166億ルピー規模と推定されている。このうち、組織化された部門は同市場全体のわずか33%を超えるにとどまっている。しかし、同部門は非組織化の部門から市場シェアを獲得しつつある。



4.1.3.6 スープ

- インドのブランドスープ市場は、大きなシェアを持つほんの一握りのメーカーによる確立された部門である。
- しかし新規または強豪メーカーの参入で、トップレベルでの競争は激化している。



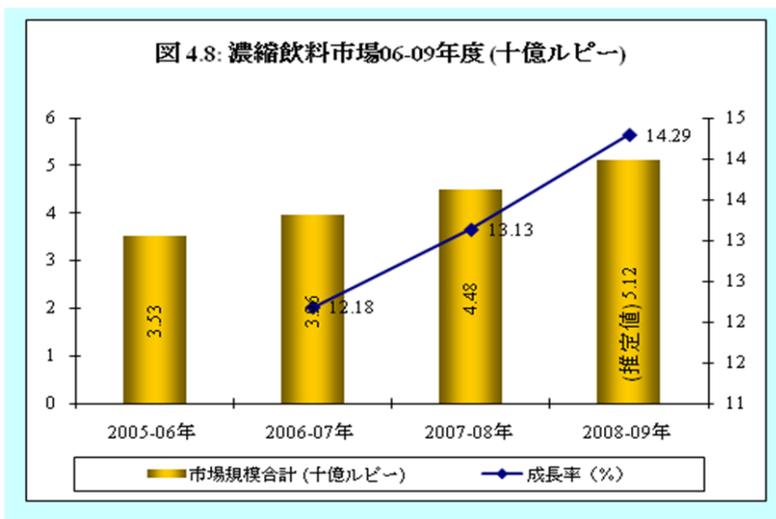
市場規模

2008～09年のインドスープ産業は77億ルピー規模と推定されている。このうち、組織化されている部門は同市場全体の15%以下となっている。しかし、同部門は非組織化の部門から市場シェアを獲得しつつある。

4.1.3.7 濃縮飲料

- インドは野菜/果物の世界第2位の生産国で、国内の加工果物・野菜産業は年間15%のペースで拡大している。
- インドの家庭では、冷たいシャルバット² (Sharbat) を供して客をもてなす習慣がある
- 市場で入手可能な主なシャルバットやシロップは、カス (Khas) シロップやローズシロップなどである。

² 果物を煮詰めて作ったシロップを水で薄めた冷たい飲み物のこと。

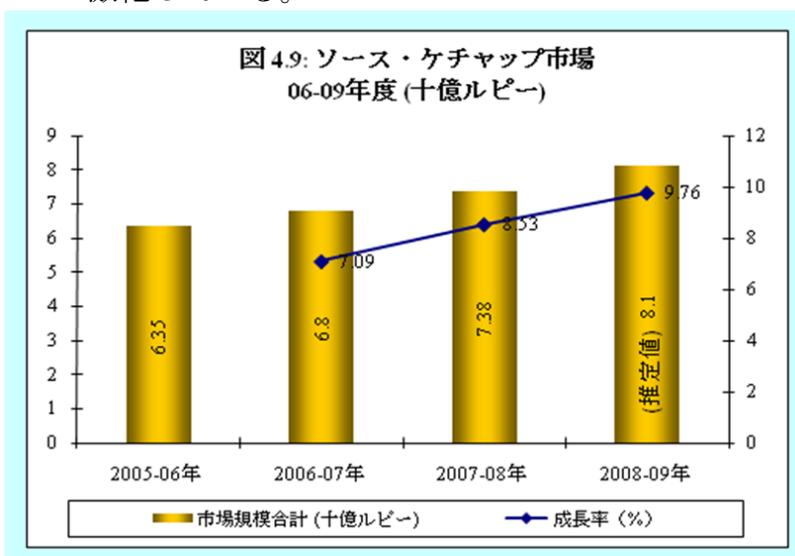


市場規模

2008～09年のインド濃縮飲料産業は51億2,000万ルピー規模と推定されている。このうち、シャルバット部門は同市場全体のわずかに30%を超える割合を占めている。Hamdard、Kissan、Rasna、Haldiramは同市場に活気をもたらしている主要ブランドである。

4.1.3.8 ソース・ケチャップ

- 2、30年前までは、Maggie や Kissan が国内唯一の主要ケチャップブランドであった。
- しかし、インド経済自由化後 Heinz などの国際メーカーが同市場に参入したため、国内の既存メーカーは厳しい競争を余儀なくされた。
- 同市場の競争シナリオは Tops、Cremica など数社の国内メーカーの参入と共に激化している。

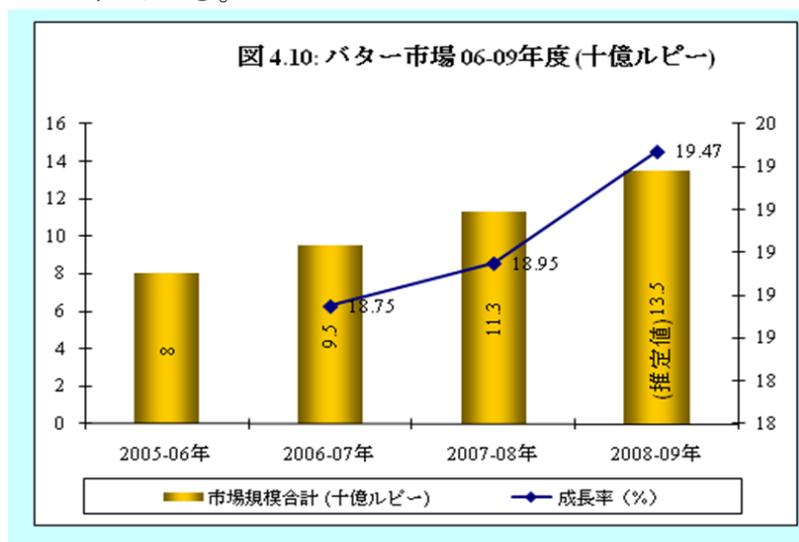


市場規模

2008～09年のインドソース・ケチャップ産業は81億ルピー規模と推定されている。このうち、組織化された部門は市場全体のわずか27%超にとどまっている。しかし、組織化されたソース・ケチャップ部門は、徐々に非組織化の部門から市場を獲得している。

4.1.3.9 バター

- インドは他のどの国より多くバターを生産・消費しており、このため牛乳の年間生産量の半分をバター生産に割り当てている。
- ブランドバターが市場に台頭してきてはいるものの、ほとんどのインド人、特に地方では風味がよく価格も手頃だという理由で、自家製のバターが好まれている。

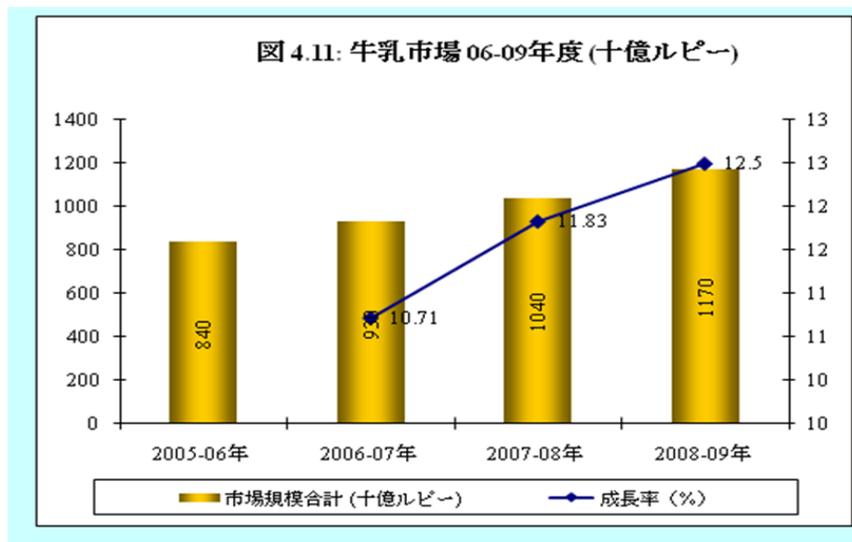


市場規模

2008～09年のインドバター産業は135億ルピー規模と推定されている。バター産業の組織化された部門は同市場全体の約60%を占めている。しかし、組織化された部門は非組織化の部門に市場シェアを奪われつつある。

4.1.3.10 牛乳

- 牛乳部門はインド食品加工産業の主要部門の1つである。
- しかしインドでは地方に限らず都市でも、一般的にパックの牛乳より量り売りの牛乳が好まれている。
- 結果的に、インドの牛乳産業は未だに非組織化部門が多数派を占めている。



市場規模

2008～09年のインド牛乳産業は1兆1,700億ルピーと推定されている。このうち、組織化された部門は同市場全体のわずか15%超にとどまっている。しかし、組織化された部門は巨大な非組織化部門から市場シェアを獲得してきている。

4.1.3 加工食品産業の展望

インドの食品加工産業は、他の先進国や新興国と比較するとまだまだ初期の段階にある。インドでは野菜・果物の加工率が2.2%である一方、中国、米国、フィリピンでは加工率がそれぞれ23%、65%、78%と急速に増大している、可能性に満ちたインドの加工食品市場は今後、海外の企業を引き付けるとの見方が強まっている。民間投資がインドの食品産業の成長に弾みをつける重要な要素になってきている。推定によると、今後3年間に得られる見込みの食品加工部門への総投資額は、約230億米ドルと言われている。2007～08年の同産業の外国直接投資(FDI)受入総額は、前会計年度の570万米ドルに対し、1億4,380万米ドルに増加している。インド政府は2008年、投資額5億1,437万米ドルに及ぶ10カ所の巨大食品工業団地(MFP)の設立に関して、約40件の関心表明書(EoI)を受け取った。最近行われた、または予定されているインド食品産業への投資の一部は以下に示してある。

- Reliance Industries Ltd.は乳製品事業に12億5,000万米ドルを投資。
- Parle BisleriはFY2010³年以内に、同社の成長戦略の一環として1,043万米ドルを投じて、全国に新規の瓶詰め工場を25カ所設立する方針。
- Gujarat Co-operative Milk Marketing Federation (GCMMF)は現在、Amulブランドを所有及び展開しているが、同社が提携している酪農協同組合の全酪農家の売上げを、2020年までに現水準の21億2,000万米ドルから57億2,000万米ドルに引き上げるという長期計画を検討中。GCMMFはこの計画を実現するために約5億5,060万米ドルを投入する方針。

³ インドの会計年度は日本と同じ、4月～3月。

- PepsiCo は 2009 年以内に同社のインド法人飲料事業への投資を倍増する予定。同社はインド法人での事業拡大を目指し、2億 2,000 万米ドル超を投資する予定。
- ヒマチャル・プラデシュ州に本拠を置く冷凍食品メーカー、Himalaya International はグジャラート州に設立予定の新工場に 2,710 万米ドルを投資する方針。

さらに、政府も食品加工部門の成長を促進するため次のような措置を取っている。

- 国策として、食品加工の水準を現在の 2%から 2010 年以内に 10%、また 2025 年までに 25%に引き上げることを目指す。
- 小規模企業やアルコール飲料用に留保している品目を除いて、ほとんどの加工食品品目は、1951 年産業（開発及び規制）法によりライセンス取得を免除されている。
- 食品加工産業（FPI）は、1991 年に銀行貸出の優先部門の仲間入りを果たした。アルコール飲料、ビール、また小規模企業が留保している特定品目以外は、ほとんどの加工食品品目において 100%まで外国直接投資が自動認可される。
- ライセンス付与の権限は、Fruit Product Order, 1955 により地方行政当局に委任する。
- 技術移転、または一部の場合を除いて、外資出資比率 100%までが自動認可される。
- 利益及び資本金全額の本国送金が許可されている。
- 100%輸出指向型企業は、資本財・原材料の輸入関税が一切免除となる。包装機械の関税は減税となる。
- 救済に値する事例（特に雇用創出部門）：食品加工部門を奨励するため、1,000 万～1,500 万ルピーの出資を受ける小規模企業（SSI）に投資額の上限を免除する。

食品加工産業（FPI）は年平均 7%のペースで拡大しているが、FPI は 2 桁成長を達成する可能性を秘めている。

4.1.4 食品包装

生鮮食品及び加工食品のどちらの食品も国内に輸送、分配、ストックされ、また相当量が輸出されている。これらの商品を適切に包装することは、商品の質を保つための必要条件であると同時に、物理的、機械的、化学的、生物学的要因による廃品を減らすことにもつながる。さらに包装によって、消費者に直接商品の利便性、魅力、情報、ブランドを伝えることができるため、包装は消費者が決める最終選択に重大な役割を果たしている。

以下に示した包装のタイプは食品包装に使用されている。

- 無菌包装（衛生を保つため、滅菌容器に食品を無菌の状態ですべて密封する方法）
- プラスチックトレイ
- 各種袋

- 箱
- 缶
- 段ボール箱

軟包装は食品包装で優位を占めており、牛乳、ビスケット、植物油、米などの食品アイテムに幅広く使われている。生乳／低温殺菌牛乳は、軟包装の主要最終用途の1つである。ベーカリー製品も、主に紙ベースの軟包装を使用する注目すべき部門の1つだ。軟包装用包材は、扱いやすく廃棄も容易である上に、原料費を低く抑えることができ、湿気や酸化を防ぎ、また歯磨き粉、石けん、シャンプー、洗剤、加工食品、飲料商品、パンマサラ⁴などの包装にも利用される優れたものである。食品加工産業は他の消費市場と共に中期的に生産能力の倍増を目指しており、またインドが輸出する加工品は、近隣諸国にとってますます魅力のある選択肢の1つになっているため、食品市場では消費の拡大が見込まれている。インド経済の基盤は農業であることを考えると、食品加工部門はインドのパッケージング需要全体の50%を占めることになる。最近では、加工・包装の両分野で極めて多くの新技術が開発され、食品の保存期間にも影響を与えている。これらの技術はまた、新鮮さや健康への関心といった一部の消費者動向にもマッチしている。国産の食品加工機械や包装機械の供給量が相当な増加を示しているにもかかわらず、インドでは最新技術が搭載された外国産機械の需要が豊富にあるのが現状である。

4.2 化粧品産業

4.2.1 需要

包装機械の大きな需要があるもう1つの部門は化粧品で、現在化粧品産業は25億米ドル規模となっている。同産業はスキンケア、ヘアケア、メイクアップ化粧品、香水、オーラルケアなどの製品から成り立っている。インドの化粧品産業はここ2、3年で急成長を見せており、2006～08年の期間に7.5%のCAGRで拡大している。インド人はますます美意識が高まってきており、彼らの化粧品に対する新たな意識が拡大の後押しになっている。近年、同産業は海外の大手化粧品企業数社を呼び込んでいる。増加している海外大手企業の参入は、インド化粧品市場の成長性を示唆している。

4.2.2 化粧品産業主要部門の概観

4.2.2.1 スキンケア

スキンケア市場全体の規模は約340億ルピーと推定されている。スキンケア市場は、インドではまだ初期の段階にある。同部門が国内で浸透している割合は約20%となっている。ライフスタイルの変化、手取り収入の増加、製品の選択や種類の多様化に伴い、人々は自分自身の身だしなみに意識を向けてきている。スキンケア部

⁴ 香辛料。インドのガムとして人気がある。

門の大手メーカーは、約 54%の市場シェアを獲得している Hindustan Unilever を筆頭に、CavinKare と Godrej がそれぞれ 12%と 3%の市場シェアで後に続いている。

4.2.2.2 ヘアケア

インドのヘアケア市場は約 380 億ルピー規模と推定されている。ヘアケア市場はヘアオイル、シャンプー、ヘアカラー製品、コンディショナー、整髪用ジェルの部門から成り立っている。Marico はヘアオイル部門のトップメーカーで、約 33%の市場シェアを獲得している。また Dabur (ダーバル) が 17%の市場シェアで第 2 位に着けている。

4.2.2.3 シャンプー

インドのシャンプー市場は約 270 億ルピー規模と推定されている。同部門が国内で浸透している割合はわずか 13%にとどまっている。1 回分のシャンプーが入っている小袋のサシェ (Sachet) が、シャンプーの総売上高の 40%を占めている。シャンプーは主要都市においても浸透度が低い。市場シェア約 47%を誇る HUL が同市場を独占している一方、P&G は約 23%の市場シェアで第 2 位に着けている。フケ予防シャンプー部門はシャンプー市場全体の約 15%を占めている。手頃な価格のサシェの供給量を増やすなどの企業による販売戦略が加速するとの見方から、同市場は一層拡大すると見込まれている。

4.2.2.4 オーラルケア

オーラルケア市場は、練り歯磨きが 60%、歯磨き粉が 23%、歯ブラシが 17%で構成されている。練り歯磨き市場全体の規模は約 350 億ルピーと推定されている。都市部での練り歯磨き／歯磨き粉の浸透度は農村部の 3 倍にもなっている。同部門は Colgate-Palmolive が約 49%の市場シェアを獲得し優位にたっている一方、HUL は約 30%の市場シェアで 2 位に着けている。歯磨き粉市場では、Colgate と Dabur が主要メーカーとなっている。オーラルケア市場、特に練り歯磨き部門は国内での浸透度が約 50%と、未だに浸透度が低い状態が続いている。

4.2.3 産業の展望

インドの調査会社大手 RNCOS (Research & Consultancy Outsourcing Services) の調査レポートによると、インドの化粧品産業は 2009～12 年の期間に約 7%の CAGR で拡大すると予測されている。インド小売部門の力強い成長が、確実に市場により多くのブランド化粧品が入り込む余地を形成している。同部門はまた、ブランドが中・小都市にも広がると確信しているが、これはこれらの地域では所得がこれまで以上に伸び、手取り収入も増え、また選択肢を求める声が高まっているため、圧倒的な需要があるからだとされている。近年の化粧品産業の成長は低・中間価格の部門によるところが大きく、売上高の点から見ると、同市場の 90%を占めている。大衆市場向けの製品が未だに市場の大部分を占めているが、手取り収入の増加が高級製品の需要拡大をもたらしている。特に、ますます高まる購買力を持つ都市圏の人々が、様々な化粧品の需要をかき立てる主力となっている。

- テレビの普及により、西側諸国の生活様式の認識が高まっている。
- 一般向け広告の増加。
- 製品の選択及び種類の多様化。
- インドファッション業界の急成長が、専門的なビューティケア用品の需要拡大に貢献。

目覚ましい成長速度に関係なく、インドでの化粧品及び洗面用品の市場浸透度は非常に低い。現在、インドで化粧品に使われる費用は一人当たり 30 ルピーだが、他のアジア諸国では 1,600 ルピーとなっている。インドの化粧品やパーソナルケア製品に対する低い市場浸透度は、かえってより大きな拡大をもたらす機会であるとの見方もできるようだ。

4.2.4 化粧品包装

最近では、化粧品包装にも技術の進歩が数多く見られる。化粧品には質の高い包装が要求されるため、有害な化学物質に対する耐性、製品の保護、パッケージの強度及び耐久性など様々な要因が考慮されている。また、化粧品のパッケージデザインは、顧客の要望に応じて、頻繁に変化する。

化粧品包装の種類

1. 化粧品容器：化粧品容器はプラスチック製またはガラス製であることが多い。容器に施される細やかな装飾デザインが顧客から好評を博しているため、ガラス製の化粧品容器は市場に巨大な需要を有している。多くのメーカーが顧客を引き付けるために、ボトルデザイン、エンボス加工、その他の装飾を利用し始めている。メタルデコレーションも一般的になりつつある。文字やロゴごとに変わる色合いは、顧客の間に新しい認識を生み出している。ガラス製容器にはクロム系示温インクも使用される。ガラス容器へのフロスト加工は、リップグロス、香水、オイルを入れる容器に施される。プラスチック製の化粧品容器は、ローション、オイル、シャンプーなどを保存する目的で使われ、さらにこれらの容器はリサイクルが可能だ。また、これらの容器は遮光性にも優れている。ルースパウダーや液体化粧品用のセパレートタイプの容器もある。ルースパウダーは、ふるい付きの容器や口の大きく開いた容器にパックされている。ボディグリッターのパッケージングにはフロスト加工のガラス容器ではなく、透明なガラス容器が使われる。

2. 化粧品ケース：化粧品包装の最新型は化粧品ケースである。化粧品ケースはボックス型の容器で、種類の違う化粧品を収めることができる。中にはキャスター付きのケースもある。

3. 上部を裂いて開けるタイプのパッケージ：このタイプのパッケージは通常、独自の特徴が出るように作られた熱成形容器から成り立っている。このパッケージングは、化粧品、医薬品、科学産業で使われる液体や半固体の包装に適している。

4. **小袋／パウチ**：液体から半固体まで、またはペースト状のものからタブレット状のものまで、小袋またはパウチは常にシンプルで費用がかからない製品包装の手段である。これらには、一重及び二重袋、ダイカットタイプ、形状可変タイプなどの種類がある。

5. **易剥離（ピールラブル）包装**：このタイプの包装は、袋に裏打ちされたアルミホイルを密着させて密封されているもので、袋に開封の取りかかりとなる開封開始部を設けている。この包装は液体、半固体、化粧品の包装に適している。

6. **ブリスター（透明）包装**：この包装は小売販売に最適である。この包装は化粧品を保護するとともに、化粧品のパッケージをそのまま顧客に伝えることが可能。

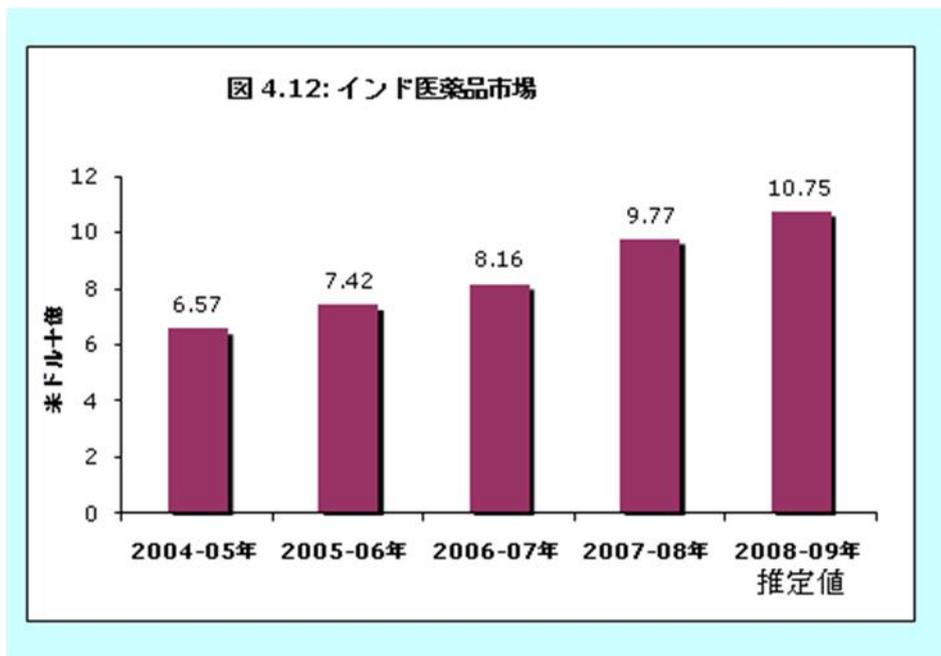
その他の包装製品

- スプレーボトル
- 香水用小型容器
- ビン
- 袋
- 取り出し容器（ディスペンサー）
- クリーム容器（クリームジャー）
- 化粧品用小袋

4.3 医薬品産業

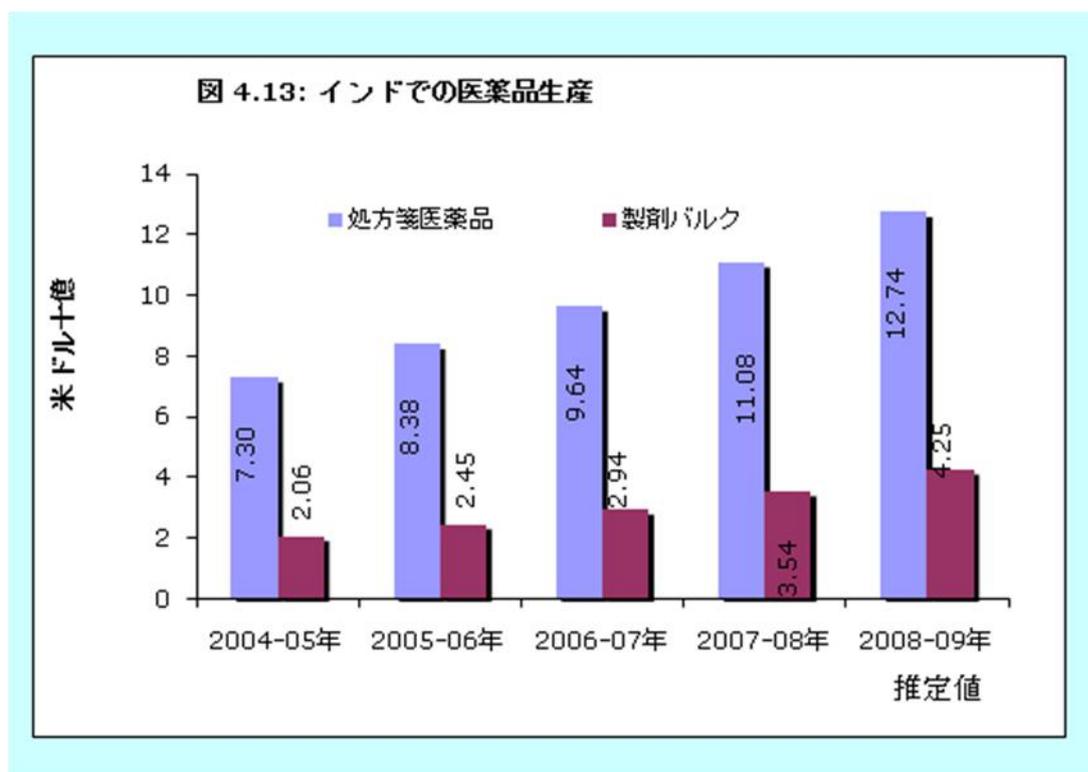
4.3.1 需要

インドの医薬品市場は 2005～09 年の期間に 10%拡大し、2009 年度には 107 億 5,000 万米ドル規模に達すると推定されている。これは世界の医薬品市場の中で、金額から見て 1～2%、数量から見ても 8%の割合を占めている。調査期間中、インドの医薬品市場は 13.01%の年平均成長率（CAGR）で成長していた。2008 年度のインド医薬品市場は主に、新製品の発売、巨大な患者数、収入の増加、医療設備の改善、医療保健の堅調な浸透、医薬品原薬（API）の売上げ、疾患パターンの変化、ライフスタイル、さらに多国籍企業の参入への道を開いた政府の支援などによって活気付いた。



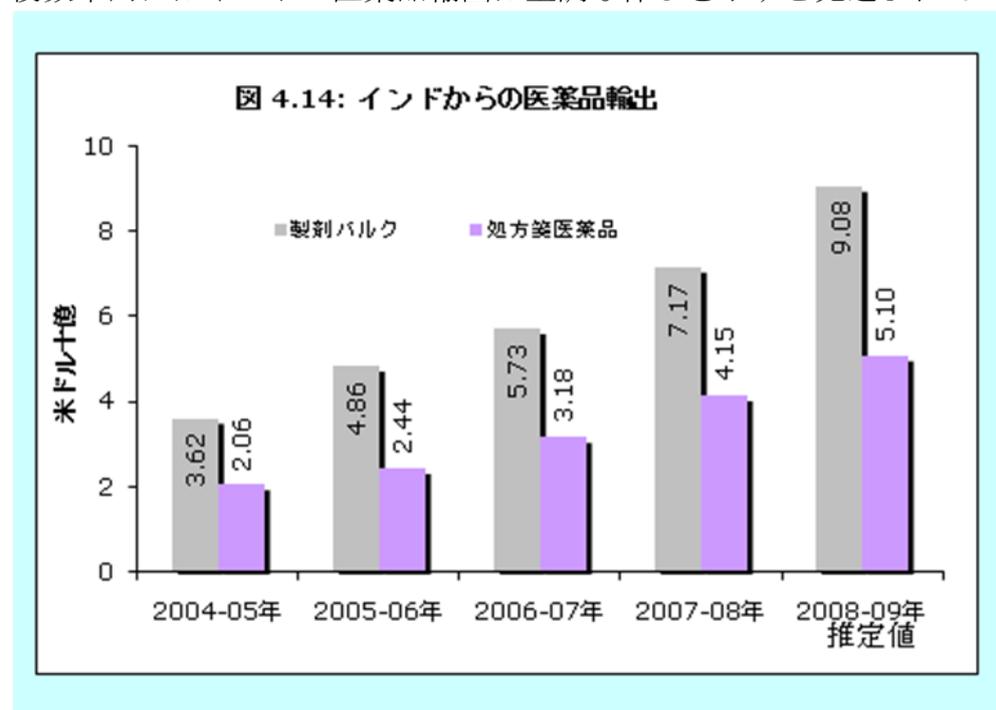
4.3.2 製品

2008～09年のインド医薬品の総生産量は169億9,000万米ドルと推定されている。このうち処方箋医薬品が75%を占め、127億4,000万米ドル規模を記録、一方残りの25%は製剤バルクが占めており、42億5,000万米ドル規模となっている。製剤バルク及び処方箋医薬品の生産量は2008～09年、それぞれ20.06%と15%拡大した。



4.3.3 輸出

2008～09年のインド医薬品産業の輸出額は141億8,000万米ドルと推定されており、年25.18%の割合で拡大している。同年の製剤バルクの輸出額は90億8,000万米ドルで、輸出全体の64%を占める一方、処方箋医薬品は51億米ドルの輸出額を記録しており、残りの輸出の36%を占めている。世界的金融危機の影響で、規制市場や独立国家共同体（CIS）の加盟国などへの処方箋医薬品や製剤バルクの輸出が減少したため、同市場全体の成長率はわずかに下落した。一方景気後退の中でも、健康製品は増加する見込みが最も高い。また、不況の影響で海外の人々はより安い医薬品を求める傾向にあるため、価格の安いインド製医薬品の需要は好調だ。当然、インドの医薬品産業はこのような需要から恩恵を受けることになる。このため、今後数年内にはインドの医薬品輸出は堅調な伸びを示すと見込まれている。



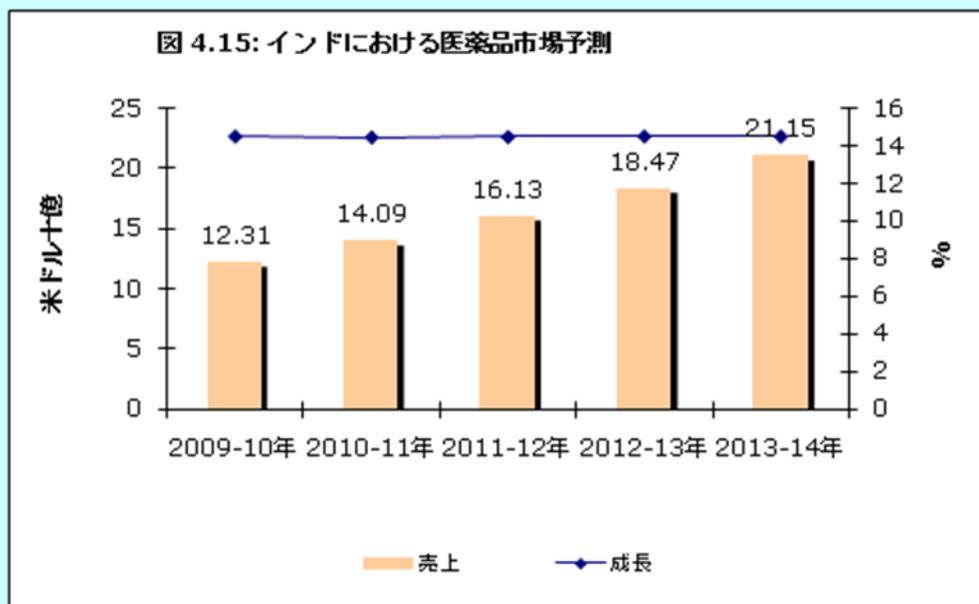
4.3.4 産業の展望

2008～09年のインド医薬品市場は14.51%拡大し、123億1,000万米ドルに達すると予測されている。同市場は、2009年度（09年4月～10年3月）～2013年度（13年4月～14年3月）の期間に14.50%のCAGRで成長し、市場規模が211億5,000万米ドルに達すると見込まれている。同市場の拡大は主に、企業の合併・買収、新製品の発売、特に海外企業ブランドの新薬や特許が切れる多くのブロックバスター薬によって推進される見通しだ。さらに、海外企業がインドの製薬会社と提携する傾向が増えており、このため同市場でのバイオ関連企業の成長もさらに加速すると見られている。

4.3.5 医薬品包装

医薬品包装は、インドの全医薬品や医薬品市場のかなりの部分を占めており、医薬品産業と同じペースで徐々に拡大している。医薬品包装は、ガラス各種、ペット

ボトル、ストリップ包装、ブリスター包装、注射器、アンプル、バルクパックなどから成り立っている。



以前、医薬品包装に要求されていたことは、封入された薬剤の品質を維持することだけだった。現在は、製品の異物混入や偽造品の防止、製品保証、正確な投薬量、服用回数の表示による患者の薬剤服用順守の促進といった基準を盛り込むにまで及んでいる。インドの包装産業は、ばら包装、ストリップ包装、ブリスター包装からアルミ包装に至るまで、幅広い種類のパッケージングを提供している。インドの医薬品包装産業は現在、急成長の最中にある。インドの包装産業はメーカーや、紙、板紙、段ボール、剛性包装・軟包装材料を含むポリマー材料系製品、アルミホイル、スズ、木材、スチールなどのバラエティ豊かな輸入包装材料がそれぞれ関連し合っている。同産業にはまた、印刷、ラベリング、バインディングなどの工程も含まれている。これらの製品を製造・加工する機械や梱包・包装する機械は、同産業と密接に関連しているもう1つの部門である。

全ての医薬品包装製品の中で、ブリスター包装が同部門の成長促進剤と見なされている。1回分の服用量、臨床試験の順守、公共機関、店頭販売、無菌医薬品などへの幅広い適応範囲を持つのが、ブリスター包装の強みだ。ライフスタイルの変化や医療サービスの向上により、包装材料の需要は今後3年以内に堅調に伸びると見込まれている。インドの中規模／大規模製薬会社による合併・買収は、国内及び輸出用の包装や包装システムも含め、すべての分野で現代化をもたらす結果となると見られている。新薬や処方箋医薬品が市場に溢れている中、包装産業は新しい課題を解決するための革新的な解決策を生み出している。インドの医薬品産業は現在、国内及び輸出市場用のパッケージングに今までとは異なった基準を採用している。医薬品包装製品の市場規模は未だに試算されていないにもかかわらず、インドの包装産業には需要と供給に大きな隔たりがあり、このことは同産業がこのギャップを埋めるまでには成長していないことを示している。

5. 主要包装製造会社、貿易会社、卸売業者の概要

5.1 主要包装製造会社の一覧及び会社プロフィール

会社名	5.1.1 Shubham Flexible Packaging M/C's. (P) Ltd. 
会社概要	<p>Shubham Flexible Packaging Machines Pvt. Ltd.,は 1998 年設立、包装機械の設計や製造を行っている。年間売上は 350 万米ドル以上である。シュバム社は国内や海外において民間企業や公営企業などへ対応している。又成形充填シール (Form-Fill-Seal つまり FFS) 包装機械を製造するトップ企業です。これらの機械は化粧品、食品 及び化学品等様々な商品をポーチに充填する為に使われる。シュバム社は南アフリカ、イタリア、ドバイ、ベトナム、インドネシア、バンコク、サウジアラビア及びフィリピン等海外の顧客を持っている。</p>
連絡先	<p>担当者: Mr. Virendra Sharma (ヴィレンドラ シヤルマ 氏) 住所: Shubham Flexible Packaging M/C's. (P) Ltd Plot no 61, Sector 6, Faridabad, Haryana (ハリヤナ州) – 121 004. India (インド) 電話: +91-129-2216503/4062680/ 4296100 / 4296122 / 4296123 携帯: +91-9811103254 / +91-9212051842 ファックス: +(91)-(129)-2301801 メール: virendra@shubhampack.com , ccare@shubhampack.com</p>
産業部門	<ul style="list-style-type: none"> - 液体包装機械 - フレキシブル包装機械 - パウチ包装機械 - その他包装機械 (ピロー包装、カラータイプ機械、段ボール製函機械及びマスク包装機械)
商品	<ul style="list-style-type: none"> - マルチトラック SPM 1000 P/L マルチトラック SPM 800 P/L マルチトラック SPM 600 L P/L - 個別オーガー付きマルチトラック - マルチトラック ジッパーポーチ機械 - 段ボール製函 Spm 80 段ボール製函 Spm 12 段ボール製函 4 - フロー包装機 - カラータイプ機械 - 噴出口機械 - シングルトラック機械
サービス内容	<p>コンサルやプロジェクト管理、商品分析、包装原料の調査及び定義、包装設計や開発、用量設定試験、サンプル生産、有効性計算、見積り及びファイナンスコンサルティング、研修指導、ホットラインサービス、技術的なサービス、部品取替え、</p>

	ワールドワイドパートナーサービス。																		
対応産業	- 食品 - 化粧品 - 医薬品 - 日用消費財																		
顧客	P&G、Unilever、Amul、Badsha、Coca-Cola、Mother Dairy、Heinz、ITC、Nestle、Henkel、Dabur、Ruchi Foods 及び L'Oreal その他。																		
その他詳細	- 生産量 (2008-09): 200 台 - 売上 (2008-09): 1 億 2000 万ルピー(液体包装機械 : 50%、ポーチ包装機械 : 40%、その他包装機械 : 10%) - 輸出国: 中国、ベトナム、フィリピン、バングラデシュ、スリランカ、ケニア及びその他 - 市場シェア: 35% (フレキシブル包装機械部門より) - 価格範囲:																		
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部門</th> <th>最低価格</th> <th>最高価格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>液体包装機械</td> <td>350 万ルピー</td> <td>400 万ルピー</td> </tr> <tr> <td>粉末包装機械</td> <td>280 万ルピー</td> <td>350 万ルピー</td> </tr> <tr> <td>カラータイプ機械</td> <td>130 万ルピー</td> <td>150 万ルピー</td> </tr> <tr> <td>フロー包装機械</td> <td>50 万ルピー</td> <td>100 万ルピー</td> </tr> <tr> <td>段ボール製函機械</td> <td>120 万ルピー</td> <td>220 万ルピー</td> </tr> </tbody> </table>	部門	最低価格	最高価格	液体包装機械	350 万ルピー	400 万ルピー	粉末包装機械	280 万ルピー	350 万ルピー	カラータイプ機械	130 万ルピー	150 万ルピー	フロー包装機械	50 万ルピー	100 万ルピー	段ボール製函機械	120 万ルピー	220 万ルピー
部門	最低価格	最高価格																	
液体包装機械	350 万ルピー	400 万ルピー																	
粉末包装機械	280 万ルピー	350 万ルピー																	
カラータイプ機械	130 万ルピー	150 万ルピー																	
フロー包装機械	50 万ルピー	100 万ルピー																	
段ボール製函機械	120 万ルピー	220 万ルピー																	
出典 : 会社ホームページより独自に作成																			

会社名	5.1.2 E.C. Packtech Machines Pvt. Ltd. (ECPMPL)	
会社概要	<p>E.C. Packtech Machines Pvt. Ltd. (旧名 : E.C. Packaging Pvt. Ltd.) はインドでの主要包装機械製造会社の一つである。1987 年設立され、特定の包装ニーズに合った様々な包装機械を製造している。これらの機械は通常体積機械であるが重量ベースの機械も提供できる。2008 年 8 月待つ時点で会社の売上は 5000 台以上である。</p> <p>現在 E.C.ブランドの包装機械を使って粉末食品、食品以外の商品、顆粒消費財、化学品、自由流動液 (例 : ミネラルウォーター、牛乳、食用油、化粧用油、果汁飲料等)、粘着及び湿りやすいパウダー、濃縮液体及び自動車部品を含む 200 種類の品目が包装されている。</p>	
連絡先	<p>担当者</p> <p>- Pradeep Tyle (プロディプ タイル 氏)、社長 - フィルム 携帯: +(91)-9810357061</p> <p>P.L. Sirsamkar (ピ エル シルサムカル 氏) 、会長 - フィルム 携帯: +(91)-9810357059</p> <p>住所 : UFLEX Limited (Film Division)</p>	

	A-1, Sector-60, ノイダ, U.P (ウッタルプラデシュ州) 201301、India (インド) 電話: +91 120-3982121 / 4002121 ファックス: +91 120 2580511 / 2580003 / 2580152 メール: enquiry@flexfilm.com URL: www.flexfilm.com
産業部門	- フレキシブル包装機械 - パウチ包装機械
商品	会社の商品としては、自動成形充填シール機械、半空気型の成形充填シール機械(AFFS)、ツウインワン 自動成形充填シール機械(AFFS)、自動マルチトラックパウチ包装機械(AMTPP)、自動水平フローラップ (AHFW)機械、自動高速キャンディーラッピング (AHSCW)機械、 カラータイプ 自動パウチ包装 (CTAPP) 機械、オーガー充填機、自動ミネラルウォーター包装 (AMWP)機械、自動食用油包装(AEOP)機械及び カスタムビルト自動パウチ包装(CBAPP)機械がある。
対応産業	食品、化粧品、医薬品及び産業品
顧客	顧客としてインドの中堅中小企業だけでなくインドや海外の大企業もある。Brook Bonk Lipton India Ltd., Godrej Soaps Ltd., Hindustan Unilever Ltd., J. Thomas & Company Ltd., Tata Oil Mills Ltd., Tata Chemicals Ltd., Wipro Ltd., Nirma Ltd., Bajaj, Escorts 及び Pioma Industries Ltd. (Rasna 飲料) 等である。
競争会社	Pakona Engineers (I) Pvt. Ltd., Samarpan, Nichrome India Ltd., Mico, Bosch India, Budakoti Engineering Private Ltd.
その他詳細	- 生産量 (2008-09): 400 台 - 売上 (2008-09): 1 億 5000 万ルピー - 流通システム: 工場⇒エンドユーザー - 商品価格範囲: 10 万ルピー ～ 200 万ルピー - 市場シェア: 5%未満 - 輸出 (2008-09): 200 台
出典：会社ホームページより独自に作成	

会社名	5.1.3 Acme Machinery (India) Pvt. Ltd. 
会社概要	Acme Machinery India Pvt. Ltd.は印刷、包装、ノート製造機械などを幅広く取り扱う大手メーカー及び輸出業者である。包装機械の輸入業者として 1961 年に創業以来、世界各国に顧客基盤を構築し、現在は湾岸地域、中東、アフリカへの定期輸出の他に、米国、カナダ、英国、ドイツ、フランス、にも顧客ベースを拡大している。同社は 1972 年に、海外の顧客向けのみならず国内向けにも包装機械の製造を開始した。
連絡先	本社: G-16, Shalimar Industrial Estate, Near Tata Power House, Matunga – (W),

	ムンバイ - 400 019、India (インド) 電話: +(91)-(22)- 24037398 / 24038823 ファックス: +(91)-(22)- 24037270 メール: machinery@acmeindia.com , acme@acmeindia.com URL: www.acmeindia.com
産業部門	- 段ボール箱機械
商品	段ボールフォルダーのり付け機、水圧紙裁断機、全自動及び半自動段ボール箱製造工場、3～5 層段ボール原紙製造、段ボール箱糊付封かん機、ラミネート機、自動紙袋製造機、自動打抜き機、その他。
対応産業	- 医薬品 - 電気製品 - 化粧品 - その他
顧客	Kirit Modi, Triwal Board Ltd., 紙裁断機パディング会社等
その他詳細	- 流通システム: 工場⇒エージェント⇒エンドユーザー - 年間売上 (2008-09): 2,500 万ルピー - 輸出売上 (2008-09): 1,400 万ルピー - 輸出比率: 60% - 生産量 (台数): 2 (2008-09) - 商品単価幅: 70 万ルピー～30 万ルピー(1 台当たり)、300 万ルピー～1000 万ルピー (ライン)
出典: 会社ホームページより独自に作成	

会社名	5.1.4 Blenzor (India) Pvt. Ltd.	
会社概要	Blenzor (India) は 1998 年に設立、産業や商用向けの包装機械の製造や輸出をしている主要企業である。同社は 25 の支店網をもっており市場での支配的な会社。Blenzor 社は 8 ヶ所の製造工場を持っている。	
連絡先	1-A, 1 st Floor, Sharda Mansion, Near Chitra Cinema, Dr. Baba Saheb Ambedkar Road, Dadar (E). ムンバイ - 400 014, マハラシュトラ州、India (インド) 電話: +(91) - (22) - 2417 1515 ファックス: +(91) - (22) - 2417 1515 携帯: +(91) - 98219 72254 メール: info@blenzor.com / blenzor@yahoo.co.in URL: www.blenzor.com	
産業部門	- ブリスター包装機械 - 液体包装機械 - 真空包装機械	
商品	ボトリング機械、印刷機械、ラベリング機械、キャッピング機械、シール機、成形機、コーディング機械、フレキシブル及びパウチ機械、チューブ充填機、医薬品機械、パッキング及びコ	

	ンベーター
対応産業	- 化粧品 - 医薬品 - 食品 - 日用消費財 - エレクトロニクス
顧客	Axe, Tata, Pepsi, Big Bazaar, Lay's, Maggi, Indian Oil, L'Oreal, Asian Paints, Coca-Cola, Garnier, Pidilite, Ranbaxy, LG, HP, Unilever, Sony, Colgate, Pizza Hut, Samsung, Lakme, Cipla, Mc Donalds 及び Kwaliti Walls 等が Blenzor 社の顧客の一部である。
その他詳細	- 平均商品寿命: 10~15年 - 主要市場: 北米、南米、東ヨーロッパ、東南アジア、アフリカ、オセアニア、中東、東アジア、西ヨーロッパ
出典：会社ホームページより独自に作成	

会社名	5.1.5 Pam-Pac Machines Pvt. Ltd. 
会社概要	Pam-Pac Machines Pvt. Ltd. (Pam-Pac) は Associated Capsules Group (ACG), India と IWK Verpackungstechnik, Germany,の合弁企業である。同社は医薬品産業用のブリスター包装機械及び消費財産業用の箱詰め機の製造を専門としている。Pam-Pac 社のブリスター包装機械は世界の最も効率的やフレキシブル機械の一つである。 親会社の ACG Worldwide は薬品用空カプセル、医薬品／包装機械及び包装フィルムの製造において世界一流の大手である。
連絡先	Pam Pac Machines Pvt. Ltd. 127, Kandivli Industrial Estate, Kandivli (West), ムンバイ 400 067, India (インド) 電話: +(91)-(22)-2868 2650 / 2868 9109 ファックス No. : +(91)-(22)-2868 3091 メール: sales.pampac@acg-world.com URL: www.pampac.com
産業部門	- ブリスター包装機械 - 箱詰め機
商品	ブリスター包装 箱詰め 消費財包装

	<ul style="list-style-type: none"> - BP 102 - CARTOBLIS - BP 450 AD - UNIPAC - BQS - TROPAC - MINIBLIS 	<ul style="list-style-type: none"> - SLV - A-T Pac - VP 120 - CP 120 - CP 150 - HI-CART 	<ul style="list-style-type: none"> - ブリスター包装ソリューション - マグナブリス - 箱詰め機
サービス内容	同社は、機械の検査・較正はもちろん、機械購入後の技術支援、技術研修、スペアパーツの取り替え、機械・付属品取扱説明書の添付などのサービスを提供している。		
対応産業	<ul style="list-style-type: none"> - 医薬品 - 日用消費財 		
顧客	Pam Pac は、製薬会社に 2,000 台以上の包装機械を設置している実績があり、現在はインドのみならず世界 50 カ国以上に同社機械を輸出している。Pam Pac はまた、国内外の日用消費財企業、化粧品及びその他の産業にも多数の設置基盤を確保している。同社の主要顧客には、Dabur、Heinz、Ponds、HUL、Dr. Reddy's などが名を連ねている。		
Business Partners	ACG Worldwide はグローバル Alcan、Glatt、Honeywell や Theegarten Pactec などグローバル大企業と技術提携や資本提携をもっている。		
その他詳細	輸出割合: 60%		
出典：会社ホームページより独自に作成			

会社名	5.1.6. Akash Pack Tech (P) Ltd.	
会社概要	Akash Pack は、医薬品、洗剤、化粧品、パーソナルケア製品、食品・飲料商品向け液体・ペースト・粉末充填機の大手メーカー及び輸出業者である。同社は、世界の敏腕バイヤーの御眼鏡にもかなう高品質で最新型の全自動単層・多層成形充填シール (FFS)機、カラータイプ機械 (ばら包装用)、ピロー包装/オーバーラップ包装機、ビスケット包装機、その他オーダーメイドの包装関連機械を顧客に提供している。	
連絡先	89, HSIDC Indl. Estate, Sector-59 Faridabad, Haryana (ハリヤナ州) – 121 004, India (インド) 電話.: +(91)-(129)-4155000/4155001/4155002/4155003 ファックス: +(91)-(129)-2307610 メール: mktgapl@akashpack.com , pratap.singh@akashpack.com , akashpack@gmail.com	
産業部門	<ul style="list-style-type: none"> - 液体包装機械 - ポーチ包装機械 	
商品	成形シール充填機、ビスケット包装機、パウチ包装機械、液体包装機械、ラッピング機	
サービス内容	契約ベースの OEM サービス	

対応産業	- 食品 - 日用消費財 - 医薬品 - 化粧品
顧客	同社の顧客は Parle、HUL、Rasna 等である
その他詳細	設立: 1997 年 主要市場: アフリカ 年間売上: 約 5000 万ルピー
出典: 会社ホームページより独自に作成	

会社名	5.1.7 Elmach Packages (India) Pvt. Ltd. 
会社概要	<p>Elmach Packages (India) Pvt. Ltd はブリスター包装機械製造におけるグローバル大手であり、世界中 90 国に渡って 2000 台機械を装置している。Elmach 社の顧客は英国、ドイツ、米国、東南アジア、オランダ、アフリカ、ラテンアメリカ諸国、ブラジル、メキシコ及びベネズエラにあります。</p> <p>Elmach は 1980 年代後半に回転式ブリスター包装機の開発から始まり、これに続いて 1990 年代には圧縮空気機械を開発した。冷却成形ブリスター包装技術の発達により、Elmach の現代版冷却成形ブリスター包装機の基礎が形成された。今日、Elmach は平床式及び回転式を含む見込みのある機械 20 モデルを提供している。1 分間に 25~600 パックの包装が可能なこの製品ラインは、あらゆるエンドユーザー対応している。同社はまた、ハイエンドな箱詰め機の製造も行っている。</p>
連絡先	<p>本社: 410, Hill View Industrial Estate, Off L.B.S. Marg, Ghatkopar (W), Mumbai (ムンバイ) - 400 086 India (インド). 電話: + (91)-(22)-2500 8007/ 2500 8071/ 2500 7217/ 2500 6658/ 2500 6046 / 5643 2703 ファックス: + (91)-(22)-2500 8684/ 2500 8910. メール: elmach@vsnl.com URL: www.elmach.com 営業所及びサービスセンター: アーメダバード、バンガロール、デリー、チェンナイ、ハイデラバード、カルカッタ</p>
産業部門	- ブリスター包装機械
商品	<p>- ブリスター包装</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 真空成形 ● 圧縮空気成形 ● フラット成形 (プラグアシスト有り) <p>- 箱詰め・スティック包装機</p>
サービス内容	Elmach はインドでの 7 つの都市に設けている営業所及びサービスセンター、又バングラデシュでの代理店よりサービスを提

	供している。
対応産業	- 医薬品
顧客	Cipla、Dr. Reddy's、Ipca、Lupin、Alkem、Intas、RPG Life Sciences、Strides Arcolab、Novartis 及び Merck 等を含む外資系大手医薬品会社が Elmach 社の顧客である。
業務提携等	- 自動箱詰め機分野においてドイツの Weipack Packaging Group との技術提携 - 高速ブリスターフィーダー分野において米国 Aylward Enterprises と技術提携 - スティックパックの為にドイツの MERZ 社と提携 - モノドーズブリスターの為にイタリアの Valmatic 社
出典：会社ホームページより独自に作成	

会社名	5.1.8. Nichrome India Ltd. 
会社概要	Nichrome は、固体、液体、粘体、食品及び非食品用包装機械の完全特注生産を提供している。Nichrome はまた、固体、液体、粘体製品用の包装関連機械及び選別機能付き充填シール機 (Pick-Fill-Seal) も提供している。機械の他、同社は無菌包装フィルムも取り扱っている。インド酪農産業向けのパウチ包装の先駆けとなった後、Nichrome は酪農工場が抱える問題に対する完全なソリューションを提供する専門分野を確立した。 Nichrome は 2008 年 11 月、「フレキシブロック」の開発においてインド包装機械メーカー研究所 (IPMMI) から優秀賞を授与された。フレキシブロックは、扱いやすい上に陳列棚での見栄えもよい、ブリックタイプのパウチ容器を製造する機械である。
連絡先	Nichrome India Ltd. Safire Park Galleria 4 Pune-Mumbai Road Shivajinagar, Pune (プネ市) 411005 電話: +(91)-(20)-66011001 ファックス: +(91)-(20)-66011010 メール: marketing@nichrome.com URL: www.nichrome.com
その他支店	Nichrome 社はインドでのニューデリー、ムンバイ、カルカッタ、チェンナイ、バンガロール、ハイデラバード及びインドール以外に世界中にオフィスや代理店をもっている。
産業部門	- パウチ包装機械 - 液体包装機械
商品	- 液体：Nichrome 無菌パウチ包装システム、フィルパック 1800、フィルパック 2500、フィルパック 5000、フィルパック CMD、フィルパック・ユニバーサル、フィルパック・プリヴェイレッジ、ヴィスコ・フィルパック 2500、ヴィスコ・フィル

	<p>パック 5000。</p> <p>-固体：オートラップ・オーガー、オートラップ・電子計量充填機、オートラップ・カップ、オートラップ・スタンドパウチ包装、ニクロブリック、ウイング・オーガー、ウイング・カップ、スズ製容器、ジャー（広口容器）、ボトル：Tin - O - Fill</p> <p>-ジャー充填ライン、小袋：マルチトラック、マルチスティック、スティックパック・シングルヘッド、スティックパック・ダブルヘッド</p> <p>-半自動充填機：ソロ電子計量充填機、ソロ・オーガー充填機、ソロ・カップ充填機、ピストン充填機／粘体充填機、システムソリューションズ：計量管理、マテリアルハンドリングシステム・アンド・アクセサリーズ。</p>
サービス内容	<p>- 設置業務</p> <p>- バックアップサービス</p> <p>- レトロフィッティング（装置の改造）</p> <p>- 依頼ベースでの現場サポート</p> <p>- 特別オペレーター研修</p>
対応産業	- 食品
その他詳細	<p>設立: 1975 年</p> <p>年間売上 (2008-09): 約 3 億ルピー</p> <p>輸出売上 (2008-09): 約 1 億 2000 万ルピー</p>
出典：会社ホームページより独自に作成	

会社名	5.1.9. Winner Electronics	
会社概要	<p>Winner Electronics はエンジニアリングや食品産業用の真空包装機械を製造や輸出している主要企業。同社は様々なサイズの真空シール機を設計又製造している。Winner Electronics 社はコピー機の輸入部品の代替部品を生産する会社として 1968 年に設立された。</p>	
連絡先	<p>担当者：Mr. Poonam Raghuvanshi （プーナム ラグワンシ氏）</p> <p>住所：Winner Electronics No. 124, Shrikrishna Industrial Estate, Office Dahisar Toll Plaza, Dahisar (E)、Mumbai (ムンバイ) – 401 107, Maharashtra(マハラシュトラ州)、India (インド)</p> <p>電話: +(91)-(22)-32562411 / 28960074</p> <p>ファックス: +(91)-(22)-28960074</p> <p>携帯: +(91)-9324513961</p> <p>メール: winner.electronics@gmail.com</p> <p>URL: www.winnerelectronics.com</p>	
産業部門	- 真空包装機械	
商品	<p>-真空包装機械</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 床モデル 	

	<ul style="list-style-type: none"> ● 卓上/ミニ真空 ● ノンベジタリアン食品用フラットベッド ● 液体用の縦型真空機械 ● 25キロ以上の商品用ばら真空包装機械 -真空シーラー、連続シーラー <ul style="list-style-type: none"> ● ジャー（瓶）シーラー ● ペダルシーラー
サービス内容	契約製造: 設計サービス バイヤーラベル
対応産業	- 食品 - 医薬品
その他詳細	- 製品寿命: 10~15年 - 主要市場: 北米, 南米, 東南アジア, アフリカ, 中東, 西ヨーロッパ - 年間売上: 5000万ルピー ~ 1億ルピー - 輸出: 年間売上の10%
出典: 会社ホームページより独自に作成	

会社名	5.1.10 Europack Machines (India) Pvt. Ltd.	
会社概要	<p>Europack は、インド有数の包装機械・エンジニアリングマシンのメーカー及び輸出業者である。同社の現在の事業活動は、全ての産業で使用されているシュリンク包装機やスキン包装機製造の他、プラスチック産業向けの熱成形・真空成形機や医薬品産業向けのブリスター包装機の開発・製造となっている。Europack はまた、使い捨てプラスチック容器製造工場も運営している。この製造工場の所在地はインドのムンバイである。同社は、バングラデシュ、サウジアラビア、キプロス、エジプトなどに機械を輸出している。</p>	
連絡先	<p>Europack Machines (India) Pvt. Ltd. 52, Bindal Industrial Estate, Sakinaka, Andheri (East), Mumbai (ムンバイ) - 400 072, India (インド) 電話: +(91)-(22)-28526477, 28502151 ファックス: +(91)-(22)-56942977 メール: europack@vsnl.com URL: www.europackmachines.com</p>	
産業部門	- ブリスター包装機械	
商品	- 回転ブリスター包装機械 - フラットベッドブリスター包装機械 - 真空成形機械 - 熱成形機械	
対応産業	- 食品及び飲料 - 医薬品	

	- 化粧品
顧客	HUL, Cadbury
その他詳細	- 流通システム: 工場⇒エンドユーザー - 製品価格範囲: 30 万ルピー ~ 100 万ルピー - 製品寿命: 15 年以上 - 年間売上: 4000 万ルピー ~ 5000 万ルピー - 主要市場: インド及び東アジア
出典: 会社ホームページより独自に作成	

会社名	5.1.11 Bobst India Private Ltd. 
会社概要	Bobst India は Bobst SA の 100%子会社である。Bobst SA は段ボール製函、段ボール、フレキシブル原料の生産における設備やサービスを提供する世界主要企業である。Bobst India は 1994 年にインドで機械などの改造する工場として開業し、その後 100%輸出専用の工場(EOU)を設け世界各国市場へフレキシブル包装機械の製造輸出をし始めた。
連絡先	Bobst India Private Ltd, Gut No 82, 126, 132, V.K Amboli, Post Ambadvet, Ghotawade Taluka, Mulshi, Pune (プネ市) 412 108. India (インド) 電話: +(91)-(20)-3987 8000 ファックス: +(91)-(20)-3987 8025 URL: www.bobst.in/LocalSite/IND/en
産業部門	- 箱詰め機 - 段ボール箱機械 - フレキシブル包装機械及び原料
商品	- 段ボール製函 <ul style="list-style-type: none"> ● Autoplaten®ダイカッター ● 熱箔押し機械 ● フォルダーグルアー ● リソグラフ印刷・ラミネーター ● Web-fed(ロール紙連続印刷) ソリューション ● 印刷加工機 - 段ボール <ul style="list-style-type: none"> ● Bobst Spo-Flexo ● Bobst フォルダーグルアー ● Martin FFG-DRO ● Asitrade ラミネーター ● Rapidex - 軟包装資材 <ul style="list-style-type: none"> ● フレキソ印刷 ● グラビア印刷 ● 金属化 ● コーティング/ラミネーティング

	<ul style="list-style-type: none"> スリッティング／リワインディング
サービス内容	同社が元の輸入部品である包装機械や印刷機械関係の販売後のサービスなども行っている。
対応産業	<ul style="list-style-type: none"> - 食品 - 化粧品 - 日用消費財
顧客	Bobst 社のインドでの主要顧客は ITC、Colgate、TCPL、Parksons 及び Khemka 等である。
その他詳細	<ul style="list-style-type: none"> - 流通システム: 会社⇒エンドユーザー 会社⇒販売業者⇒エンドユーザー - グループ売上 (2008 年): 1,633.2 CHF
出典：会社ホームページより独自に作成	

会社名	5.1.12 Bosch India Ltd. (The Packaging Technology division in India)	
会社概要	Bosch インドは包装機械や製菓機械を製造する世界最大手の Robert Bosch 包装技術会社のインドにおける子会社である。ドイツを本社とする Bosch 包装技術社は世界 13カ国における医薬品、製菓、化粧品 や食品 /食品以外の産業向けにモジュールやシステムの開発や販売を行っている。Bosch 社はインド市場向けに成形充填シール機械を製造している。	
連絡先	本社: Bosch Ltd. Packaging Technology Division N4, Phase IV, Verna Industrial Estate Verna, Salcete Goa (ゴア) - 403722、India (インド) 電話: +(91) - (832) - 6692000 / 6692003 ファックス: +(91) - (832) - 669 2028 携帯: +(91) - 9158881018/ +(91) - 9158881017 メール: boschpackaging@in.bosch.com URL: www.boschindia.com	
その他支店	Bosch インドはバンガロール, ニューデリー, ムンバイ, チェンナイ, カルカッタ等主要都市に営業所を持っている。	
産業部門	<ul style="list-style-type: none"> - 医薬品包装機械 - 液体包装機械 	
商品	<ul style="list-style-type: none"> - 計量充填システム <ul style="list-style-type: none"> ● 計量カップ(塩、洗剤、砂糖などの製品用) ● オーガー計量装置(小麦粉、香辛料、コーヒー粉などの製品用) ● リニア計量器(紅茶、穀類、パスタなどの製品に最適) ● マルチヘッド計量器(スナック菓子、食品、ドライフルーツ、あめ、キャラメルなどの製品用) 	

	<ul style="list-style-type: none"> - キャンディー包装機 - 医薬品包装機 <ul style="list-style-type: none"> ● 洗浄機 ● 排水管の殺菌消毒 ● アンプル剤用充填シール機 ● 注射・注入製剤、スクリューネックボトル用充填シール機 ● 薬剤充填前注射器・カートリッジ用充填シール機 ● 注射・注入ボトル用シーラー ● アイソレーター技術 ● カラーリングコード作成機 ● ラベリング機 ● 検査機械 ● トレイ引出装置 						
<p>サービス内容</p>	<table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; width: 33%;">現地サービス</th> <th style="text-align: left; width: 33%;">予備部品</th> <th style="text-align: left; width: 33%;">近代化</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 設置及び性能検証 ● 保守 ● ラインの最適化 ● 技術監査 ● 生産支援及び指導 ● 組込エンジニア ● 設備移転 ● エンジニア及びオペレーターの研修 ● コンピューター利用訓練 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 予備部品及びパッケージ ● 予備部品の保守 ● インターネットポータルを利用した予備部品注文 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 性能向上の為に機械のアップグレード ● 実際の安全機能 ● 最新技術を使用し、過去の古い課題の解決策 ● 完全改修プログラム ● 機械の修理 ● ラインの再構成 ● 再性能検証 </td> </tr> </tbody> </table>	現地サービス	予備部品	近代化	<ul style="list-style-type: none"> ● 設置及び性能検証 ● 保守 ● ラインの最適化 ● 技術監査 ● 生産支援及び指導 ● 組込エンジニア ● 設備移転 ● エンジニア及びオペレーターの研修 ● コンピューター利用訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予備部品及びパッケージ ● 予備部品の保守 ● インターネットポータルを利用した予備部品注文 	<ul style="list-style-type: none"> ● 性能向上の為に機械のアップグレード ● 実際の安全機能 ● 最新技術を使用し、過去の古い課題の解決策 ● 完全改修プログラム ● 機械の修理 ● ラインの再構成 ● 再性能検証
現地サービス	予備部品	近代化					
<ul style="list-style-type: none"> ● 設置及び性能検証 ● 保守 ● ラインの最適化 ● 技術監査 ● 生産支援及び指導 ● 組込エンジニア ● 設備移転 ● エンジニア及びオペレーターの研修 ● コンピューター利用訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予備部品及びパッケージ ● 予備部品の保守 ● インターネットポータルを利用した予備部品注文 	<ul style="list-style-type: none"> ● 性能向上の為に機械のアップグレード ● 実際の安全機能 ● 最新技術を使用し、過去の古い課題の解決策 ● 完全改修プログラム ● 機械の修理 ● ラインの再構成 ● 再性能検証 					
<p>対応産業</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 食品 - 化粧品 - 日用消費財 - 化学品 - 菓子類 - 化粧品 						
<p>その他詳細</p>	<ul style="list-style-type: none"> - グループ総売上 (2008): 451 億 2700 万ユーロ - (Bosch India)設置した包装機械台数: 170 (2008) - 主要市場 <ul style="list-style-type: none"> ● アジア ● 北米 ● ヨーロッパ 						

	<ul style="list-style-type: none"> ● 英国 ● アイルランド ● 日本
出典：会社ホームページより独自に作成	

会社名	5.1.13 Multivac Laraon India Private Ltd.	
会社概要	<p>Multivac 社は食品、無菌医薬品や産業品用の包装機械製造における世界的に主要企業であり、1961 年に設立以来全世界で 10 万台の Multivac 機械を設置している。年間 1200 台の熱成形機械を納品しており同部門においてグローバルトップ企業の一つである。同社はインド及びスリランカにおいて LARAON グループ社との合弁会社として運営している。</p>	
連絡先	<p>担当者: Ritesh Dhingra (社長)、(リテーシュ ディングラ氏) 37, Sector 5, IMT Manesar, Gurgaon – 122050, Haryana (ハリヤナ州), India (インド) 電話: +(91)-(124)-4610000 携帯: +(91) 9811087300 ファックス No: +(91)-(124)-2347000 メール: ritesh.dhingra@laraon.com URL: www.laraon.com</p>	
産業部門	<ul style="list-style-type: none"> - 真空包装 - ブリスター包装 	
商品	<p>同社の幅広い製品ラインは以下の通り</p> <ul style="list-style-type: none"> - トレイシーラー - 熱成形機 - 真空チャンバー機 <ul style="list-style-type: none"> ● 卓上用機械 ● 床設置型機械 ● スイング式フタ機械 ● 大型チャンバー機械 ● コンベアベルト機械 - ラベリング機 	
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> - 企画 / コンサル業務 - パッケージ開発 - 確認 - サポート - 予備部品 - 研修 - 機械の設置 	
対応産業	<ul style="list-style-type: none"> - 食品 - 医薬品 	

	- 医療機器 - 産業品/ 消費財
出典：会社ホームページより独自に作成	

会社名	5.1.14 Precision Gears Ltd. 
会社概要	Precision Gears Ltd.は、イタリアの IMA s.p.a の子会社で、ブリスター包装機の世界的大手メーカーの 1 つである。同社は 1978 年、西ドイツの Hassia Verpackung Maschinen GmbH の技術協力を受けて、医薬品産業向けの回転式真空成形機及びブリスター包装機の製造からスタートした。Precision Gears は特に医薬品産業の需要や要望に重点的に応じることで、熱成形の分野で飛躍的に発展した。同社は 1995 年に IMA の子会社となった。
連絡先	本社及び工場 Plot No. R-677, T.T.C Indl. Area, Off Thane Belapur Road, Rabale, Navi Mumbai (ナビ ムンバイ) - 400 701 INDIA (インド) 電話: + (91) - (22) - 67179000/9102 ファックス: +(91) - (22) - 2760 0888 / 2760 0889 メール: anand.kulkarni@precisiongears-ima.com URL: www.precisiongears-ima.com
その他支店	インドール、バンガロール
産業部門	- 真空包装機械 - ブリスター包装機械
商品	Precision Gears Limited は以下を製造、輸出している： - ブリスター包装システム <ul style="list-style-type: none"> ● 真空成形機械 ● 圧縮空気成形機械 ● 深絞り機械（最大 35mm）及び非対称型デザイン製品 - 断続型箱詰め機
対応産業	- 医薬品
出典：会社ホームページより独自に作成	

5.2 その他の包装機械メーカー

1. Khosla Machines Private Limited (モハリ) - 洗剤包装機、石けん包装機、化粧石けん包装機、固形石けん包装機、ホテル用石けん包装機、洗濯洗剤包装機、包装材料包装機のメーカー及び輸出業者。

2. Indian Packaging Machinerics (ファリーダバード) – 包装機械、自動成形シール充填包装機、縦型／横型ピロー包装機、ビスケット包装機、キャンディー包装機、水平流動機械を製造、輸出。
3. Elegant Engineers (ノイダ) – 充填機、シーラー、成形充填シール (FFS) 機、液体包装機、パウチ包装機、顆粒・粉末包装機、巻き戻し機、スティック包装機などの包装機械のメーカー及び輸出業者。
4. All Pack Machinery (ハリヤナ) – パウチ包装機、ジッパー付きスタンドパウチ包装機、液体充填包装機、袋詰め包装機、多重 FFS 包装機、成形充填シール機、包装機械、ホログラム機械のメーカー及び輸出業者。
5. Om Chamunda Enterprises (ムンバイ) – 真空成形機、ブリスターパック打抜き機、ブリスターシーラー、ヒートシーラー、バンドシーラー、真空包装機、窒素充填機、シュリンク包装機、インパルスシーラーのメーカー及び輸出業者。
6. Flexo Pack (ファリーダバード) – 包装機械、パウチ包装機、キャンディー用ピロー包装、自立型パウチ包装機、FFS センターシールシステムのパウチ包装機を製造、輸出、販売。
7. Raksha Packaging (ファリーダバード) – コンベヤー、充填機、シュリンク装置、包装機械などのメーカー
8. Ventura Omnitech Private Limited (コインバートル) – 包装機械、自動包装機械、半自動包装機械、産業用パレット、連結式ひも掛け機、自動カートンシーラー、包装システム、シュリンク包装機を製造、輸出、供給。
9. Associated Pack Tech Engineers (アーメダバード) – 自動パウチ包装機、シール充填包装機、ミネラルウォーター、牛乳、バターミルク、アルコール飲料、果汁飲料などのパックに最適な PT 01 包装機械を輸出及び製造。
10. Wonder Packagings (デリー) – パウチ包装用ノズル式脱気シーラー、卓上真空包装機、卓上小型真空包装機などの包装機械を輸出、製造。

5.3 主要都市別主な輸入業者 / 貿易・卸売業者

5.3.1 包装機械輸入業者		
ムンバイ、マハラシュトラ州		
1. Autopack Machines Pvt. Ltd.	ブリスター包装機械の輸入	担当者： Mr. B Nair (ナイル氏) 101-C, Poonam Chambers., 1 st Fl., Dr. Annie Besant Rd., Worli, Mumbai (ムンバイ) 400018, Maharashtra (マハラシュトラ)

		州) India (インド) . 電話 : +(91)-(22)-24934406 ファックス : 24964926
2. M & C Packaging	医薬品包装機械輸入	315 Powai Plaza, Hiranandani Gardens, Powai, Mumbai (ムンバイ) 、 Maharashtra (マハラシュトラ州) Pin Code: 400076 電話 : +(91)-(22)-25703765 URL : http://www.mcindia.info
Srinagar, J&K (ジャम्म/カシミール)		
3. J. N. Oil & Chemicals (India)	液体充填機械の輸入及び販売	担当者 : Mr. Javid Ahmad Dar (ジャヴィッド氏) H.O:- 3rd Floor Qazi Complex Magarmal Bagh, Srinagar, Jammu & Kashmir (ジャम्म及びカシミール) Pin Code: 190001 電話 : +(91)-(194)-2458780 ファックス : +(91)-(194)-2450245 メール : javid@hatricproducts.com URL : www.hatricproducts.in
Pune (プネ), Maharashtra (マハラシュトラ州)		
4. Saurabh Flexipack System Pvt. Ltd.	様々な包装機械の輸入	Plot No. 6 & 17, Gat No. 1556 / 1559, Dehu - Alandi Road, Shelarwasti, Chikhali, Tal. Haveli, Pune (プネ市) 412 114、マハラシュトラ州 電話 : +(91)-(20)-27492722, 27491347, 32312233 ファックス : +(91)-(20)-27491347 メール : e-mktg@saurabhflexipack.com URL : www.saurabhflexipack.com
Vasai (ワサイ) , Maharashtra (マハラシュトラ州)		
5. Rachana Packagings	液体包装機械、ボトル充填機械・洗浄・充填・キャッピングの3工程をコンパクトにまとめた全自動充填機械の輸入	6, Golani, Azad Nagar, Vasai (E), Vasai (E), Mumbai (ムンバイ)、 Maharashtra (マハラシュトラ州) Pin Code: 401208 携帯 : +(91)- 9969843476

New Delhi (ニューデリー)		
6. Karumuri Machinery Traders	様々な包装機械の輸入	担当者： Ms. Vagdevi Karumuri (マネージャー) 、 (カルムリ氏) 住所: A-332, 4th Floor, Back To Masjid Moth, South Extension, Part-2 New Delhi(ニューデリー) - 110 049、 INDIA(インド) 電話： +(91)-(11)-41640891 ファックス： +(91)-(11)-41640892
7. Packwell Industries	包装機械の輸入	New Delhi (ニューデリー) 110095, 電話： +(91) - 11 - 22133488 ファックス： +(91) - 11 - 22596836
チェンナイ、タミル・ナード州		
8. JSB Trading Corp	包装機械、伸びる性質のあるフィルム、ペットストラップ、BOPPテープ、コードストラップ用ひもの輸入。	担当者： Sathish Kumar サティッシュ クマール氏 チェンナイ、Tamil Nadu (タミル・ナード州)
9. Lalith Corrugating (P) Ltd.	クラフト紙、2層段ボール、包装機械等の輸入	担当者: Mr. R Prakash Jain(ジェーン氏) 住所： 4, Subba Naidu St. Chennai (チェンナイ) - 600112, Tamil Nadu (タミルナード州) India(インド) 電話： +(91)-(44)-26693982 ファックス： +(91)-(44)-26692536
Faridabad (ファリダバード)、Haryana (ハリヤナ州)		
10. Pouch Packing Industries	パウチ包装機械及び予備部品の輸入	Faridabad, Haryana(ハリヤナ州)
Ahmedabad (アーメダバード)、Gujarat (グジャラート州)		
11. Labh Group	包装機械や包装原料の輸入	住所： 403-405, Times Square, Near Parisima Complex, C.G. Road, Ahmedabad - 380 006. アーメダバード、INDIA (インド) 電話： +(91) - (79) - 26569261, 26442897, 30070400, 30070500 ファックス： +(91) - (79) -26467821, 26403582
12. Creed Engineers (P) Ltd.	印刷機械やその予備部	Thaltej, Gujarat (グジャラート)

	品、印刷仕上げ機械及び包装機械の輸入	州)
13. Makevale	自動段ボール箱成形機械の輸入。	Nizampura, Gujarat(グジャラート州)
Hyderabad(ハイデラバード)、 Andhra Pradesh(アンドラプラデシュ)		
14. Sai Baba Exports	包装機械や包装原料の輸入	Hyderabad (ハイデラバード)、 Andhra Pradesh (アンドラプラデシュ州)
15. Mahendra sales Corporation	シール、ラベリング、包装機械やその原料の輸入	住所：#4-1889/15 Tilak Road Abids Hyderabad (ハイデラバード) - 500001
Uttarkashi, Uttarakhand (ウッタラカンド)		
16. Seed	Frooti 製品用のテトラ包装機械の輸入	担当者： Arun (アルン氏) Vijay Nagar, Gyansu, Uttarkashi, Uttarakhand (ウッタラカンド)、 India(インド)
Ernakulam, Kerala		
17. Pentagon Marketing	包装機械や包装原料の輸入	住所： Chittoor Road Ernakulam - 682 0018, Kerala (ケララ州)、 India(インド) 電話： +(91)-(484)-2367221 ファックス： +(91)-(484)-44022979 携帯: +(91)-9846023296 メール: pentagonchn@airtelmail.in info@pentagonchn.com

5.3.2 包装機械貿易卸売業者

Mumbai / Thane(ムンバイ/ターネ)、 Maharashtra (マハラシュトラ州)		
1. Amar Packaging	包装機械、シーラー、袋とじ機、シュリンク包装機、ポップコーン製造機、パウチシーラー、熱シュリンク包装機、シュリンクトンネル、空気式シーラー、自動シーラー、縦型/横型パウチ充填シーラーの卸売業者。	住所： Rm 10, Kadar Khan Chawl Ram Nagar, Lal Bhatti, Ghatkopar (West), Mumbai (ムンバイ)、 Maharashtra (マハラシュトラ州) 400086 電話： +(91)-(22)-25182316 携帯: +(91)- 9920384519 ファックス： +(91)-22-28501681
2. M. M. M. Buxabhoy & Co.	ボトル充填機、キャッピング、液体包装機、充填機、液体充填機、体積充填機械の貿易や販売。	住所： 140, Sarang Street, 1 st Floor, Near Crawford Market, Mumbai (ムンバイ)、 Maharashtra (マハラシュトラ州) .

		Postal Code: 400003
3. Ecoplast Limited	あらゆる包装機械の貿易。	住所：Shop Number 4, 215, Magan Mahal, Sir M. V. Road, Andheri (E) Andheri East, Mumbai, ムンバイ (郊外)、Maharashtra (マハ ラシュトラ州) Pin Code: 400069 電話：+(91)－(22)－26833452
4. ABAJ International	包装機械、化粧品包装機 械、香水包装機械、医薬品 包装機械、飲料包装機械食 品包装機械の輸出や貿易。	住所：A- 602, Kamla Vihar, Mahavir Nagar, Dahanukarwadi, Mumbai (ムンバイ) 400 067、 India(インド) 電話：+(91)-(22)-28060326
5. P P Packaging	包装機械の貿易。	住所：11 Kesar Sellar Building 3rd Floor, Mandvi, Mumbai, Maharashtra (マハラシュトラ 州) 400003 電話：+(91)－(22)－66946517
6. Sai-Adi Engineers & Consultants	液体包装機械やその部品、 液剤包装機械やその予備部 品等の製造及び卸売り。	R H U-89, sector-4, Airoli, Navi Mumbai (ムンバイ)400708, Maharashtra (マハラシュトラ 州) 電話：+(91)－(22)－27603048
7. APC Marketing Mumbai	包装機械、医薬品機械、チ ューブ充填機械、軟膏充填 機械、箱詰め機、段ボール 成形機、コレーティング機 械、軟膏充填機械、成形充 填シール機械、包装機械、 ドライ及びウェット製品用 の自動充填ライン等高品質 機械の卸売り。	住所：9/504,Tulsidham Bhairavi Chsl. S.v.road Majiwada, Thane, (タネ)、Maharashtra (マハ ラシュトラ州) India (インド)
8. Accin Packaging Pvt. Ltd.	ブリスター包装機械の卸売 り。	住所：R-523, MIDC, TTC Industrial Area, Navi Mumbai, Maharashtra (マハ ラシュトラ州), India (インド) 電話：+(91)－(22)－67102424 ファックス：+(91)－(22)－67987215 URL： www.accupack.in
9. M & C Packaging	包装機械の卸売り	24 Panch vati, Panch Srusti Towers, Chandivali,, Mumbai (ム ンバイ)、 Maharashtra (マハラシュトラ 州)

		携帯 : +(91) - 9769690059
Pune (プネ)、Maharashtra (マハラシュトラ州)		
10. Atharva Sales Corp.	産業包装機械の卸売り	住所 : Gawde Niwas, Keshav Nagar, Kasarwadi, Pune (プネ市)411034, Maharashtra (マハラシュトラ州), India(インド) 電話 : +(91)-(20)-27147572 携帯 : +(91) 9822255023 メール : deepak@atharvasales.com
11. Saurabh Flexipack India Pvt. Ltd.	包装機械の卸売り	担当者 : Mr. Pradeep Katariya (プラディーブ カタリヤ氏) 住所 : Block No:4, Mane Complex, Opp Padwal Hospital, Akurdi Chikali, Tal Haveli, Pune (プネ市)- 411 501, Maharashtra (マハラシュトラ州), India(インド) 電話 : +(91)-(20)-27492722
12. Carewell Industries	様々な印刷機械や包装機械の卸売り	担当者 : P.K.Puri, Sudhir Puri (プリ氏) 住所 : 597, Narayan Peth, Near Appa Balwant Chowk, Pune Pin Code: 411030 電話 : +(91)-(20)-24452040 携帯 : +(91)-9325512040, +(91)-9890136460 ファックス : +(91)-(20)-24452040 メール : info@carewellindustries.com carewellindustries@hotmail.com URL : www.carewellindustries.com
Hyderabad (ハイデラバード)、Andhra Pradesh(アンドラプラデシュ)		
13. Delta Ion Exchange Private Limited	パウチ包装機械、ボトル包装機械及びその他包装機械の貿易業者。	住所 : 101, Ranjeet Towers, Dilsukhnagar, Hyderabad (ハイデラバード) - 500060, India(インド) 電話 : +(91) - (40) - 66468278 +(91) - (40) - 40177505 ファックス : +(91) - (40) - 66468378 メール : deltaionexchange@yahoo.com deltaionexchange@hotmail.com

		URL : www.deltaionexchange.in
14. Sanghi Packaging Pvt. Ltd.	包装品、包装機械や包装原料の卸売業者	住所 : 3-6-63/2, Skyline Apartments, Basheerbagh, Hyderabad (ハイデラバード) 、 ANDHRA PRADESH (アンドラプラデシュ州) 、 India(インド) PinCode : 500029
Yashoda Nagar / Noida(ノイダ)、 Uttar Pradesh (ウツタルプラデシュ州)		
15. R. D. Engineering Works	パンマサラ機械などパウチ包装機械の卸売業者。	住所 : A-185,Koli Pooja Chauraha Yashoda Nagar, Kanpur(カンプール市)、 ウツタルプラデシュ州 PinCode : 208011, India(インド) 電話 : +(91)-(512)-2633760
16. Ishan International Pvt. Ltd.	錠剤作成機械、ボトル充填機等の輸出や貿易。	住所 : B-68 Sector-14, Noida 382 44, Uttar Pradesh (ウツタルプラデシュ州) 、 India(インド) 電話 : +(91)-(120)-2512557 ファックス : +(91)-(120)-2512435
Faridabad / Ambala, Haryana(ハリヤナ州)		
17. N.P. Industries	FFS パウチ包装機、カラータイプ FFS 機、横型ピロー包装機、FFS 機用スペアパーツ全種を扱う卸売業者。	住所 : Plot No.6, Industrial Area, Faridabad, Haryana (ハリヤナ州) 、 India (インド)
18. Galaxy Packaging Machines	自動パウチ包装機、窒素充填機、真空包装機械、自動充填機械、連続シール機械の卸売業者。	住所 : Circular Road, Near Novelty Cinema Ambala City – PinCode : 134002, Ambala(アンバラ市) 、 Haryana (ハリヤナ州)
19. Albasit India Packaging	ライナーカートン充填シール機、マルチトラック FFS 機械、自動カラータイプ FFS 機械、横型ピロー包装機、断続型空気式 FFS 機、縦型 FFS 機及びパウチ包装機械の卸売業者。	住所 : Plot No. 1 B, Near Airforce Station Main Gate, N. I. T. Faridabad (ファリダバード)、 Haryana (ハリヤナ州) PinCode: 121005 電話 : +(91) - (129) - 2471007
Rajkot(ラジコト)、 Gujarat(グジャラート州)		
20. Rajarana Impex	包装機械、シール機械、パウチ包装機械、産業包装機械の輸出及び卸売業者。	住所 : 2/A-2, Panchshil Society, Near Malaviyanagar, Rajkot (ラジコト市) - PinCode : 360004, Gujarat(グジ)

		ャラート州)、 India(インド) 電話 : +(91)-(281)-2386572 ファックス : +(91)-(281)-2386572
Goa (ゴア)		
21. Mechatronics Automation	自動カプセル充填機、カプセル・錠剤検査機、カプセル研磨機、ブリスター包装機械、バッチ計量器、全自動回転式錠剤機械、トップラベラー、ラップ回転式ラベラー、回転盤付きラップアラウンドラベラー、吸引圧着ラベラー、両面ラベラー等医薬品関係の機械の卸売業者。	住所 : Savoi Verem, Ponda, Goa. PinCode: 403401 電話 : +(91)-(832)-6413263 携帯 : +(91)- 9823910150 メール: automation@mechatronics.net.in mechatronics.goa@gmail.com URL: www.mechatronics.net.in
Rourkela, Orissa(オリッサ州)		
22. Uvas Associates	帯鋼、プラスチックストラップ、ひも類機、包装機械の卸売業者	住所 : Rourkela (ラウルケラ市), Orissa (オリッサ州) 電話 : + (91)-(661)-2470613 携帯 : +(91)-9338016129
Coimbatore, Tamilnadu(タミルナード州)		
23. Facile Machines	包装機械の卸売業者	住所 : 34, Sidco Industrial Estate, Sidco Post, Coimbatore (コインバテウール) PinCode : 641021 Tamil Nadu (タミルナード州)、 India(インド) ファックス : 2671655 携帯 : +(91) - 9443378322 メール: facilemachines@yahoo.co.in info@facilemachines.com
Rajat Path, Rajasthan(ラジャスタン州)		
24. A.B. Diagnostics	パウチ包装及びシール機械の卸売業者。	住所 : 61/178, Rajat Path, Rajasthan (ラジャスタン州) India(インド)

6. 問題点及び課題、国際戦略、販売促進アプローチ

包装機械は現在、インドにおいて成長過程にある部門だ。同部門は、加工食品、ソフトドリンク、果物、海産物、医療・医薬品、石けん、洗面用品、化粧品、パーソナルケア用品など、目に見えて拡大しているほとんど全てのユーザー部門から高い需要が見込まれている。フレキシブル消費者包装の利用増加を受けて、成形充填シール（FFS）機、シーラー、真空包装、絵柄入り包装紙、ブリスター包装、オーガー充填機などの機械の需要がかなり高まってきている。

しかし、包装機械産業は問題点や課題が無いわけではない。同産業は、他産業とは異なる一連の問題点と課題に直面している。型やデザインのモードチェンジ、低コスト生産、米食品医薬品局（FDA）などが定めるガイドラインの履行などが、今日のインド包装機械メーカーにとって新たな課題となっている。加えて、現在小売市場で高まっている多品種製品取扱いの需要、これに付随した包装機械の需要、投入原価の上昇、時間／日付指定配達、物価圧力、絶えず変化する顧客の要求に適応する必要性など、様々な業務上の課題が山積している。

インドの包装機械メーカーが直面している主な問題点と課題の一部を以下に記載した。

6.1 問題点及び課題

6.1.1 革新的パッケージングを可能にする最新機種的设计

革新的なパッケージングの概念は、先進国の間では以前から消費者市場で非常に重要な役割を果たしてきているが、インドではごく最近導入されたばかりである。インドの医薬品産業は、効果的なマーケティングプランとして、また、特に輸出市場における様々な規制制度を順守する手段として、革新的パッケージングの重要性を認識している。ユーザー産業が求める革新的パッケージングに見合う機械がないことから、ユーザー産業は輸出梱包用の包装機械の輸入を余儀なくされることもある。現在の品質と競争価格シナリオを維持するために、包装機械メーカーは新技術の強固な基盤、現代的アプローチ、最新のデザインを導入しなくてはならない。ハイエンドな日用消費財を購入する消費者を顧客に持つ機械メーカーは通常、各社の製造工場内に十分に設備が整った設計センターを設けている。しかし、メーカーは顧客のニーズが満たされるまで、製品開発のプレッシャーとそれに対応する機械の変化に耐える必要がある。概して、大手メーカーは常にインプロ（即興的）テクノロジーに投資を行っているが、一般的なメーカーにとって変化に対応することは、未だに大きな課題となっている。

6.1.2 海外／国内ユーザーの要求の実現

多くの多国籍企業、特に医薬品、食品、日用消費財部門の企業は、アジア市場の生産拠点とする目的で、インドに各社の製造基盤を設立している。国内及び輸出市場を相手とするメーカーは、全く異なった要求を受けている。国内市場向けの包装機械は低価格、低維持費、高出力の機械であることが求められている。最も重要な

点は、操作が簡単であることだ。なぜなら、国内メーカーは税制優遇を利用するために、バディ、ジャム、シッキム、ルールキーなどの遠隔地域に拠点を移しているからだ。これらの地域には、必ずしも訓練を受けている人材が常駐しているとは限らないため、機械は操作しやすいものである必要がある。

6.1.3 輸出指向型企业向け信頼性のある高水準オートメーション機械の供給

輸出市場、特に規制市場に輸出を行っている企業を対象とするメーカーは、高水準で信頼性があり、経時変化に迅速に対応できる機械を模索している。このような機械は、短期または長期運転のどちらにも適応し、また各国それぞれの要求に応えられるよう、様々なパッケージングデザインに対応可能であるものが望ましい。国内の包装機械産業は数社を除けば、まだ完全には準備ができていない状態のため、同産業にとって輸出指向型企业の要求に応えることは大きな課題である。

6.1.4 研究・開発 (R&D) への低投資

インドは、包装機械総数のうち 20~25%を輸入している。これらの輸入機械のほとんどは、インドでは製造されていない最新技術を搭載した機械である。研究・開発 (R&D) への関心の欠如が、こうした状況を生み出す理由の1つになっている。メーカーは継続的に市場調査を実施し、顧客の需要やニーズに見合う新製品を設計しなくてはならない。価値創成の点から考えれば、斬新で新生面を切り開くような、より新しい技術に注目が集まるのは当然と言える。

6.2 国際戦略

インドの包装機械メーカーは多くの国々に輸出を行っており、その数も堅調に増大してきている。国際市場に製品の投入を試みる中で、ほとんどの企業は一般的な戦略を採用している。市場において、知名度は最も重要な要素だ。全ての企業はこのことを理解しており、それ故に多方面の B2B ポータルサイトに各々の企業名を記載しておく努力を怠らない。また、海外取引を可能にするなど、企業製品に関する情報を提供する点から考えて、全ての大手企業は各社のホームページをかなりインパクトのあるものにしていく。ほとんど全ての大手企業はインドで開催される展示会に参加している。展示会には海外の消費者が訪れ、各ブースを見学するのだが、これは海外企業と取引を行う絶好の機会である。インドのメーカーは展示会を、あらゆる付加価値を提示しながら各社の新製品を展示し、技術的特徴を公開できる有効な場所と認識している。

機械メーカーはまた、買い手が要求を掲示し、それに応じてビジネスに新たな機会を生み出し、ビジネスを促進させる様々な B2B ポータルサイトを 24 時間注視している。多くの大手メーカーは、すでに顧客がいる海外諸国に営業所を設けているが、これらの営業所は顧客へサービスを提供するだけでなく、各メーカーが新たなビジネスチャンスを構築するのにも役立つ。広告は海外の顧客を取り込むもう 1 つの手段だが、この方法は費用がかかるため、広告を出す余裕のあるメーカーはほとんどいないのが現状だ。

大手機械メーカーが採用するその他の主な戦略は、重要な国際展示会に参加し、各社の機械を展示することである。しかし、この戦略を取るのは通常、超有名企業に限られている。慣例として、次々に国際企業と商談を持ち、ビジネスチャンスを生み出す海外企業と交渉するために、インドの企業は概して交渉専門の人材をパイプ役として投入する。

6.3 販売促進アプローチ

製品の販売促進は、ビジネス上の重要な取り組みだ。インドの包装機械メーカーの場合、製品数や売上高を伸ばすために販売促進アプローチを採用することもある。販売促進に関して採用される一般的な戦略には、①有名 B2B ポータルサイトに参加する、②包装業界関連の雑誌に広告を載せる、③セミナー／会議に出席し、商談会を開く、④既存の顧客を訪問し、最新機種に関する情報を常に提供する、⑤リピート客には特別割引価格を提供する、などが挙げられる。さらに、会議／展示会に出資することも製品販促の一般的な手法である。

7. 政府支援—規制及び外国直接投資（FDI）規定

7.1 包装機械産業に適用される規制及び規定

包装機械は資本財に該当する。資本財の輸入は EPCG スキーム（輸出促進のための資本財輸入スキーム）に基づいて免税が認められており、EPCG スキームによって輸入された農業用資本財は、農産物輸出ゾーン（AEZ）のどこへでも設置が許可されている。

インドの関税は、以下の(1)基本関税、(2)追加（相殺）関税、(3)特別追加関税から成り立っている。2009年7月時点での包装機械の輸入関税は以下のとおりである。

表 7.1: 充填機、封かん機、ボトルシーラー／ラベラー、缶、箱、袋、その他容器向け機械、ボトル、広口ビン、チューブ、その他類似容器向け充填機、炭酸飲料用機械にかかる関税 (HS Code: 842230)	
効力発効日	関税 (%)
2009年7月7日	関税基本税: 5 追加関税(CVD (相殺関税)): 8 特別追加関税 (Spl. CVD (特別相殺関税)): 4
出典: InfodriveIndia	

表 7.2: ヒートシュリンク包装機を含むその他の梱包／包装機械 (HS Code: 842240)	
効力発効日	関税 (%)
2009年7月7日	関税基本税: 5 追加関税(CVD (相殺関税)): 8 特別追加関税 (Spl. CVD (特別相殺関税)): 4
出典: InfodriveIndia	

表 7.3: その他機械の部品 (HS Code: 84229090)	
効力発効日	関税 (%)
2009年7月7日	関税基本税: 5 追加関税(CVD (相殺関税)): 8 特別追加関税 (Spl. CVD (特別相殺関税)): 4
# HS Code 8422 には、トレイ洗浄機、充填機、封かん機、シーラー、カプセル機械、箱・袋／その他容器用ラベラーなどの包装関連機械が含まれている。 出典: InfodriveIndia	

7.2 FDI 規定

食品工業団地やコールドチェーンなどの食品及び関連インフラには、自動認可制度で外資出資比率 100%までの FDI が適用される。同部門には投資分野が数多く存在しているが、代表的な分野として巨大食品工業団地、農業インフラ、サプライチェーン団体、物流及びコールドチェーンのインフラ、果物・野菜類、動物性食品、精肉、乳製品、鮮魚・海産物、穀物、既製・インスタント食品、ワイン、ビール、機械／包装などが挙げられている。このため、このような工業団地に外資出資比率 100%で包装機械製造工場を設立することが可能である。

8. 海外企業による新規参入時の障壁に関する市場評価

各種輸入業者の調査によると、現在ほとんどの包装機械は中国や台湾から輸入されている。欧州の機械メーカーにとっては高すぎる価格が一番のネックとなり、非常に価格を重視するインド市場での販売を難しくしている。現在、インド企業と直接取引を行っている海外メーカーは存在していない。海外メーカーは代理業者にインドでの各社機械の販売を任せている。このような代理業者（輸入業者）は全て、南インドを拠点とするいわゆる地域ベースの代理業者で、主にインド南部で商売を行っている。これに対して、インド北部の代理業者は北部市場を活動の拠点にしている。輸入機械の大部分は、ひも掛け機、段ボール封かん機、インダクションシーラー、自動梱包機、真空包装機、シュリンクトンネル、シュリンク包装機などの機械となっている。しかし、これらの機械は代理業者を通して販売されるのみで、海外メーカーによるアフターサービスは提供されていない。代理店が販売した機械の修理などを行う技術者を常駐させているため、アフターサービスは代理店のみで提供している。スペアパーツでさえも、代理店が顧客に供給する。海外でのビジネスではいかなる問題にも直面しないことが第一だが、様々な要因があるインド市場に参入する場合は、問題が起り得ることを考慮する必要がある。代理業者はメーカーに注文を発注するが、言い換えれば、注文した製品は生産国から輸出されていることになる。代理業者は独自でマーケティングを行うため、全ての海外メーカーは海外でのマーケティングにあまり資金も時間も費やしていないと言われている。中には、見込み客になりそうな人々が普段閲覧している B2B ポータルサイトに広告を掲載する海外メーカーもいるという。

包装業界専門家による特別コメント

- ▶ 軟包装は急成長している分野であるため、軟包装用機械の需要は大幅に増加している
- ▶ インドの機械メーカーは、最終ユーザー産業の FFS 機械に対する需要に大いに応えられる生産能力がある
- ▶ Nichrome India はパウチ包装機の最大手サプライヤーである
- ▶ Bosch は市場に機械を投入しているが、そのテクノロジーに定評がある
- ▶ 医薬品部門は極めて細分化されているため、ブリスター包装機の需要は非常に大きく、多くのメーカーがこの需要に対応している
- ▶ シーラー、充填機、スリット機、穴あけ機などの補助機械は主に、低価格で耐久性のある中国、台湾、韓国製の機械が輸入されている
- ▶ 軟包装用機械／材料市場は、HLL、P&G、Colgate、ITC などの大手日用消費財企業が後押ししている。これらの企業は信用あるサプライヤーと提携しており、顧客に好都合なパッケージングを目指し、多くの革新的なパッケージングを開発している
- ▶ 包装機械の需給シナリオー同市場は現在、供給過剰な状態ではない。小売活動の急発展により、長期にわたってパウチ包装の需要は増加しているが、ほとんどの大手メーカーは生産量を増やして需要の対応に追われている。同様に、液体充填包装機の需要も従来の食品加工（飲料商品）から、これまで医

薬品、ペンキ、化学薬品に限られていたパッケージング方式（ボトリング、テトラ型包装）に大きく移行してきている

- ▶ 化粧品部門の場合、近年大手メーカーは広範囲にわたってラミネートチューブ容器を使用しており、このことが硬質プラスチック容器の需要を減少させるとの見方が強まっている。同様に、地方においてあらゆる小袋製品の需要を開拓する方針で、パウチ包装部門に大きな弾みをつけると見られている
- ▶ 一次包装部門の場合、紙ベースのパッケージング（段ボール）は減少傾向にあるのに対して、プラスチック軟包装がこれに取って代わっている
- ▶ 産業全体としては年 12～15%の割合で拡大すると予測されているが、包装機械産業においては加工食品部門に大きく左右される。耐久消費財部門は現在、1桁成長に甘んじているが、2桁台の成長率で拡大する可能性を秘めている
- ▶ 専門家の見解によると、大手機械メーカーはメーカー総数の 20%以下だと言われているが、今後は最終ユーザーからさらに進化したパッケージングの需要が見込まれるため、大手機械メーカーは同部門の拡大に大きく貢献する可能性があるという
- ▶ 専門家はまた、最終ユーザー向けの化粧品は、ラミネートチューブ容器や軟包装のさらなる拡大を後押しするとの見解を示している。消費者市場は、魅力的なパッケージングにこれまで以上に注力すると見られており、このためラミネート加工の需要は今後急速に拡大することが予想される
- ▶ 包装機械市場では今後、革新的な包装技術に関する競争力、生産速度の速さ、より優れたアフターサービスが重要な差別化要因となってくる

添付資料 1: スーパー・大型小売店で販売される包装品目







添付資料 2: インドでの展示会・コンファレンス一覧（今後行われる又は最近行われたイベント）

イベント(主催者)	日付(期間)	場所	備考
PackPlus 2010 (Print Packaging.Com Pvt. Ltd.)	2010年12月 3日～6日	プラガティマ イダン、ニュー デリー (Pragati Maidan, New Delhi)	PackPlus は、パッケージング、プロセッシング、サプライチェーンに関連した様々な部門を対象とする高度に分化した展示会の1つとして有名である。この展示会は、食品、医薬品、包装産業部門から参加する様々な国内及び海外のメーカー、卸売業者、販売業者、機械・資材・サービスの供給業者が一堂に会する極めて重要なイベントの1つと認識されている。
India Corrugated Show (Print Packaging.Com Pvt. Ltd.)	2010年12月 3日～6日	プラガティマ イダン、ニュー デリー (Pragati Maidan, New Delhi)	India Corrugated Show は、インド及び近隣諸国から参加するインド段ボール産業や包装部門バイヤー向けの機械、資材、サービスを提供する、世界的メーカー及び供給業者を一堂に集めたイベントである。
India Converting Show 2010 (Print Packaging.Com Pvt. Ltd.)	2010年12月 3日～6日	プラガティマ イダン、ニュー デリー (Pragati Maidan, New Delhi)	India Converting Show は、包装及び印刷産業向けの機械、技術、資材、機材、供給品の国際展示会である。 India converting Show は、包装製品デザイン、製版、印刷、コンバーティング、仕上げ・装飾、パッケージデザイナー、プリプレ

			ス、コンバーター、紙・板紙コンバーティング、段ボール箱、プラスチックコンバージョン、軟包装、最終加工、ラベル及びタグ、資材及び供給品など、全てのバリューチェーンを網羅した機械、資材、サービスを展示している。
India Packaging Show (Print Packaging.Com Pvt. Ltd.)	2010年12月 3日～6日	プラガティマイダン、ニューデリー (Pragati Maidan, New Delhi)	The India Packaging Show は、1カ所で世界中の情報を入手できる理想的な場所を提供する展示会で、世界の主要な専門家を引き付けるのに有用である。展示会には、シーラー、ブリスター包装機、プラスチックフィルム及びアルミホイル、ラベル、装飾材料などの製品が展示される。
India Packaging Show 2010 (Print Packaging.Com Pvt. Ltd.)	2010年4月9 日～12日	HITEX 展示センター、ハイデラバード (HITEX Exhibition Center, Hyderabad)	The India Packaging Show は、1カ所で世界中の情報を入手できる理想的な場所を提供する展示会で、世界の主要な専門家を引き付けるのに有用である。展示会には、シーラー、ブリスター包装機、プラスチックフィルム及びアルミホイル、ラベル、装飾材料などの製品が展示される。
PackPlus 2009 (Print Packaging.Com Pvt. Ltd.)	2009年7月8 日～11日	プラガティマイダン、ニューデリー (Pragati Maidan, New Delhi)	PackPlus は、パッケージング、プロセッシング、サプライチェーンに関連した様々な部門を対象とする高度に分化した展示会の1つとして有名である。この

			<p>展示会は、食品、医薬品、包装産業部門から参加する様々な国内及び海外のメーカー、卸売業者、販売業者、機械・資材・サービスの供給業者が一堂に会する極めて重要なイベントの1つと認識されている。</p>
PackAge 2009	2009年7月9日～10日	<p>インディ・アハビタート・センター、ニューデリー (India Habitat Centre, New Delhi)</p>	<p>PackAge 2009 コンファレンスのテーマは、‘変化する市場に対応するパッケージング’だった。この会議は、国内最大の包装、プロセッシング、サプライチェーンイベント、PackPlus と同時開催される毎年恒例のイベントである。</p>
Automation4Packaging Workshop (Print Packaging.Com Pvt. Ltd.)	2009年7月8日	<p>インディ・アハビタート・センター、ニューデリー (India Habitat Centre, New Delhi)</p>	<p>Automation4Packaging は、包装ユーザーと機械メーカー、コンバーター、オートメーションソリューションプロバイダーが交流できる機会を提供するフォーラムである。Automation4Packaging では‘包装の効率性、柔軟性、信頼性を向上させるオートメーション技術’というワークショップが開催された。このワークショップは、サステナビリティから景気後退まであらゆる局面において、コストを削減しながらもいかに自動機械が包装産業でイニシアチブを取っていけるかに焦点が当てられた。ま</p>

			た、出席者には最新のオートメーション技術の利用法や世界水準の効率性・信頼性に達する方法についての見識が伝授された。
Tekno Pak - 2009 (CANNDID & CODISSIA)	2009年11月 12日～14日	CODISSIA 見本市会場、コエンバテウル(CODISSIA Trade Fair Complex, Coimbatore)	Tekno Pak - 2009 は包装及び関連産業におけるインド最大の展示会で、最新の機械、機材、資材、製品、サービスが展示される。このイベントの目的は、インドや近隣諸国から参加する食品、医薬品、包装産業向けの機械・資材メーカーやサービスプロバイダーを一堂に集めることである。
Labeltech 2010 (Intel Trade Fairs & Expositions Pvt. Ltd.)	2010年3月 10日～13日	ボンベイ展示センター - NSE 展示会場、ムンバイ (Bombay Exhibition Centre - NSE Exhibition Complex, Mumbai)	Labeltech 2010 は、ラベル、デコレーション製品、ナローウェブ印刷、コンバーティング関連の国際展示会／会議である。今回で3回目を迎えるこの専門的な展示会は、インドや近隣諸国から参加する多数のバイヤー、ディジションメーカー、責任者と交流できる費用対効果の高いマーケティング機会を提供する。
Intelpack (Intel Trade Fairs & Expositions Pvt. Ltd.)	2010年3月 10日～13日	ボンベイ展示センター - NSE 展示会場、ムンバイ (Bombay Exhibition Centre - NSE Exhibition Complex, Mumbai)	Intelpack 2010 は一番長い歴史を誇る最も成功している、インド最大の包装展示会である。今回で11回目を迎えるこの国際見本市は、出展者とビジターが一堂に会する理想的な場所となることは間違いな

			い。
Pharmaceuticals Pack Asia (Kesari Media & Events Pvt. Ltd.)	2009年10月 3日～5日	ボンベイ展示 センター、ム ンバイ (Bombay Exhibition Centre, Mumbai)	Pharmaceuticals Pack Asia は、医薬品及び医薬品包装産業に重点を置いた展示会である。この展示会は PET + DRINK TECH ASIA 2009 と同時開催のイベントである。
Ayurvedic & Herbal Pack Asia (Kesari Media & Events Pvt. Ltd.)	2009年10月 3日～5日	ボンベイ展示 センター、ム ンバイ (Bombay Exhibition Centre, Mumbai)	Ayurvedic & Herbal Pack Asia 2009 は、アーユルヴェーダ及びハーブ専門の包装産業、メーカー、輸出業者、輸入業者、卸売業者、販売業者が一堂に会する理想的な交流場所である。
Pet + Drink Tech Asia 2009 (Kesari Media & Events Pvt. Ltd.)	2009年10月 3日～5日	ボンベイ展示 センター、ム ンバイ (Bombay Exhibition Centre, Mumbai)	PET + DRINK TECH ASIA 2009 は、ペット飲料及び飲料産業関連のユニークな国際展示会である。この展示会では、将来有望なアジア市場の企業マインドに見合う革新的な製品開発を紹介する。また、ペット飲料を含む飲料機械に関連した技術分野における、最新の開発に関する情報の普及・促進も行う。
Pharmapack Expo (Intel Trade Fairs & Expositions Pvt. Ltd.)	2010年3月 10日～13日	ボンベイ展示 センター - NSE 展示会 場、ムンバイ (Bombay Exhibition Centre - NSE Exhibition Complex, Mumbai)	Pharmapack Expo は最も費用対効果の高いマーケティング機会であり、またあらゆるユーザー産業から参加するシニアバイヤーやディビジョンメーカーと交流する絶好のチャンスでもある。この博覧会は同時に同じ場所で、ビジネス界の最重要人物と交流できる機会を提供する。

<p>Edible Oils Pack Asia (Kesari Media & Events Pvt. Ltd.)</p>	<p>2009年10月 3日～5日</p>	<p>ボンベイ展示 センター、ム ンバイ (Bombay Exhibition Centre, Mumbai)</p>	<p>Edible Oils Pack Asia 2009 は、インド食用油産業の主要な見本市の1つである。このイベントは、食用油及び食用油パックメーカー、輸出業者、輸入業者、販売代理業者、卸売業者が一堂に会する絶好の機会を提供する。</p>
<p>Ipex South Asia 2009 (Informa Events India)</p>	<p>2009年10月 24日～27日</p>	<p>ボンベイ展示 センター、ム ンバイ (Bombay Exhibition Centre, Mumbai)</p>	<p>Ipex South Asia は競合他社がない販売網を構築する機会を提供する。展示会には、インドでのビジネスチャンスを探している強力な国内印刷業界団体や国際団体、また流通経路の構築を望んでいる世界的サプライヤーが参加する。</p>
<p>Engineering Expo 2009 – Pune (Infomedia India Ltd.)</p>	<p>2009年11月 19日～22日</p>	<p>Auto Cluster 展 示センター、 プネ (Auto Cluster Exhibition Centre, Pune)</p>	<p>プネで開催される Engineering Expo 2009 は、電動工具、水圧機器、器具類及び制御機器、電気・電子機器、マテリアルハンドリング、プラスチック、ゴム製品、パッケージング、化学物質、CAD/CAM、自動車部品、工業技術全般に関する製品及びテクノロジーの産業見本市である。</p>
<p>Engineering Expo 2009 – Ahmedabad (Infomedia India Ltd.)</p>	<p>2009年12月 17日～20日</p>	<p>Aes グラウン ド、アーメダ バード (Aes Ground, Ahmedabad)</p>	<p>アーメダバードで開催される Engineering Expo 2009 は、電動工具、水圧機器、器具類及び制御機器、電気・電子機器、マテリアルハンドリング、プラスチック、ゴム製品、パッケージング、化学物質、</p>

			CAD/CAM、自動車部品、工業技術全般に関する製品及びテクノロジーの産業見本市である。
International Packtech India 2010 (Messe Düsseldorf India Pvt. Ltd.)	2010年11月18日～20日	ボンベイ展示センター、ムンバイ (Bombay Exhibition Centre, Mumbai)	International PackTech India 2010は、パッケージング及びプロセッシング産業の国際展示会／会議である。この展示会には、包装材料、包装手段、包装補助材、包装機械及び装置、環境技術／容器包装リサイクルに関連した製品が展示される予定。
India Flexo Show 2010 (Print-packaging.com Pvt. Ltd.)	2010年12月3日～6日	プラガティマイダン、ニューデリー (Pragati Maidan, New Delhi)	India Flexo Showは、包装及び印刷産業向けの機械、テクノロジー、資材、機材、供給品の展示に焦点を合わせた国際展示会である。

添付資料 3: 第一次調査時にコンタクトした会社一覧

連絡先一覧表		
原料製造会社		
製造業者	住所	製品
1. J. J. Enterprise	23/24, Ansari Road, Darya Ganj, New Delhi (ニューデリー)- 110002, India(インド) 電話: +(91)-(11)-23263767 / 23270668 / 23250735 / 23260948 携帯: +(91)-9212400651 ファックス: +(91)-(11)-23260948 / 23263767 URL: www.jjenterprise.co.in メール: info@jenterprise.co.in	コーヒー缶、包装缶の製造
2. Rexor India Ltd. 対象産業 医薬品 食品 化粧品	担当者: Mr. Sunil Somani (MD) スニル ソマニ 氏(社長) Mr. Manoj Kalra (Sr. Mkt Mgr) マノージ カルラ 氏(営業) 携帯: +(91)-9911900004 住所: Plot No. 99, Sector 24, N. I. T. Faridabad, Faridabad(ファリダバード)-121 005, Haryana(ハリヤナ州), India(インド) 電話: +(91)-(129)-4022205/06 ファックス: +(91)-(129)-4022207 メール: info@rexorindia.com sunil.somani@rexorindia.com manoj.kalra@rexorindia.com	<ul style="list-style-type: none"> フレキシブルラミネート ラミネートされた包装フィルム 押出ラミネーションホログラフィックフィルム 蒸着フィルム
Packaging 機械		
3. Indvac (Saurabh Engineers) 対象産業 食品	1, Hans Residency, Opp. Anand Nagar Flats, Prahladnagar, Sattelite, Ahmedabad (アーメダバード)- 380 051、Gujarat (グジャラート州) 電話・ファックス: +(91)-(79) 22911288 / 26930870 携帯: +(91)-9824040137 メール: dipak@indvacindia.com saurabh@indvacindia.com URL: www.indvacindia.com	真空包装機械 <ul style="list-style-type: none"> 卓上型真空包装機 キャスター付きシングルチャンバー真空包装機 ダブルチャンバー真空包装機 縦型真空包装機 ノズル式充填シール機
4. Global K	Mr. Sanjiv Kansal (M.D.)	<ul style="list-style-type: none"> 窒素充填式真空包装機

<p>Associates</p> <p><u>対象産業</u></p> <p>食品</p>	<p>サンジーブ コンサル(社長) Plot #A - 100/2, D.P.S. Society, Flat #B - 503, Sector - 51, Noida(ノイダ) - 201301 (U.P.) (ウッタールプラデーシュ州) India (インド) 電話: +(91) - (120) - 4338154 ファックス: +(91) - (120) - 2481632 携帯: +(91) - 9810126071 メール: info@gkapackagingmachines.com kansal@satyam.net.in URL: www.gkapackagingmachines.com</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動成形充填シール機 ● 自動成形充填シール機 (カラータイプ) ● カップ充填システム ● 電子式振動ロードセル計量システム ● 小型バンドシーラー ● 半自動粉末・顆粒包装機械 ● 自動断続式3方向シーラー及びスタンドパウチ製造機 ● 真空包装機 (収納袋: 長方形タイプ) ● 自動ピロー包装充填シール機 ● 自動シュリンク包装機
<p>5. Shubham Flexible Packaging Machines Pvt. Ltd.</p> <p><u>対象産業</u></p> <p>食品 化粧品</p>	<p>Mr. Virender Sharma (Managing Director) ヴィレンドラ シヤルマ氏 (社長) Shubham Flexible Packaging M/c Private Limited Plot No. 61, Sector 6, Faridabad(ファリダバード)-121 001, Haryana(ハリヤナ州) (India)インド 電話: +(91)-(129)-4296123, 4296100,2216503 ファックス: +(91)-(129)-2301801 メール: marketing@shubhampack.com, sales@shubhampack.com URL: www.shubhampack.com</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● マルチトラック SPM 1000 P/L マルチトラック SPM 800 P/L マルチトラック SPM 600 L P/L ● 個別オーガー付きマルチトラック ● マルチトラック ジッパーパウチ機械 ● 段ボール製函 Spm 80 段ボール製函 Spm 12 段ボール製函 Spm 4 ● フローラップ機械 ● カラー型機械 ● 蛇口型機械 ● シングルトラック機械
<p>6. E. C. Packaging Pvt. Ltd.</p> <p><u>対象産業</u></p> <p>食品 化粧品</p>	<p>本社: 14/7, Mile Stone, Mathura Road, Faridabad (ファリダバード)- 121003, Haryana ハリヤナ州、インド(India) 電話 +(91)-(129) - 2277796,2277407, 2277698 ファックス: +(91)-(129)-2255602 メール: ecppl@del3.vsnl.net.in, ecppl@airtelmail.in URL: www.ecpackaging.com</p>	<p><u>自走パウチ包装機械</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 液体及びドライ製品用機械 ● ドライ製品用機械 ● 液体及びドライ製品用マルチトラック機械 ● ミネラルウォーター食用油包装用機械 ● ビスケット、チョコレート、石けん包装用機械

		<ul style="list-style-type: none"> ● 個々キャンディー包装用の機械
<p>7. Shiv Shakti Packaging Industries</p> <p><u>対象産業</u></p> <p>医薬品</p>	<p>A/1, Punit Estate, opp. Vallabhanagr, Nr. Vallabhanagar Bus Stand, Odhav, Ahmedabad(アーメダバード) – 382415、Gujarat(グジャラート州)</p> <p>電話： +(91)-(79)-22891967, 22974993, +(91)-(79)-32505327, 32984369</p> <p>携帯： +(91)-9825032117, 9998022117, +(91)-9427801038</p> <p>メール： shivshaktipkgind@yahoo.com</p> <p>URL： www.shivshaktipkgind.com</p>	<p><u>医薬品包装機械</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ブリスター部門 ● 液体部門 ● カプセル部門 ● 軟膏部門 ● 錠剤部門 ● その他部門
<p>8. Akash Pack Tech (P) Ltd.</p> <p><u>対象産業</u></p> <p>食品 医薬品 化粧品</p>	<p>担当者： Mr. Pratap Singh (Proprietor) プラタップ シン 氏 (社長)</p> <p>住所: 89, HSIDC Indl. Estate, Sector-59 Faridabad, Haryana - 121 004, (India)</p> <p>電話： +(91)-(129)-4155000 / 4155001 / 4155002/4155003</p> <p>ファックス： +(91)-(129)-2307610</p> <p>メール： mktgapl@akashpack.com, s.pratap@akashpack.com, akashpack@gmail.com</p> <p>URL： www.akashpack.com</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 成形充填シール機械 ● ビスケット包装機械 ● パウチ包装機械 ● 液体包装機械 ● ラップ機械
<p>9. ACME Machinery Company</p>	<p>担当者： Mr. Jitendra Shah (Promoter) ジテンドラ シャハ 氏 (創業者)</p> <p>1, Vaibhav Indl. Estate, Near Telecom Factory, Sion - Trombay Road, Deonar, Mumbai(ムンバイ)-400 088 India (インド)</p> <p>電話： +(91)-(22) 25518978, 2550 0333</p> <p>ファックス： + (91)-(22) 2550 0333</p> <p>メール： info@acmemachinery.net</p> <p>URL： www.acmemachinery.net</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 3層及び5層段ボール原紙製造工場 ● 段ボール箱製造機 ● 学習ノート製造機 ● 印刷機の付属機器
<p>10. Europack Machines (India) Pvt. Ltd.</p>	<p>担当者： Rajesh Potdar (Director) ラジェーシュ ポッダール (ディレクター)</p> <p>52, Bindal Industrial Estate, Sakinaka, Andheri (East), Mumbai(ムンバイ) 400 072, India(インド)</p> <p>電話: +(91)-(22)-2852 6477, 2850 2151</p> <p>ファックス： +(91)-(22)-5694 2977</p> <p>メール: europack@vsnl.com</p>	<p><u>ブリスター包装</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 回転式機械 ● フラットベッドブリスター包装機械 <p><u>真空成形</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自動真空成形機械 ● 特別目的用真空成形機械 ● 真空成形機械

	URL : www.europackmachines.com	<ul style="list-style-type: none"> • ブリスターシール機械 • ブリスター打抜き機
11. BI-Group	<p>担当者 : Sreekrishna Padki シリーカンタ パドキ 氏 Plot no. A/143, MIDC, Phase – I, Dombivali (E), Dist. – Thane(タネ), India(インド) 電話: +(91)-(22)-2470193 / 693 ファックス : +(91)-(22)-2470674 メール : enquiry@bi-group.in, shreekrishnapadki@bi-group.in URL : www.bi-group.in</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 機械 • ブリスター包装 • 回転式ブリスター包装機械 • フラットベッドブリスター包装機械 • 真空成形 • 自動真空成形機械 • 特別目的用真空成形機械 • 真空成形機械 • ブリスターシーリング機械 • ブリスター切抜き
12. Blenzor (India)	<p>担当者 : Santosh Sawant (Business Head) サントシュ サワント(部門長) 住所 : 1- A, First Floor, Above Baywatch 188/H, 1Sharda Mansion, Near Chitra Cinema, Dr. Babasaheb Ambedkar Road, Dadar (East), Mumbai(ムンバイ), Maharashtra (マハラシュトラ州) , India(インド)、400 014. 電話 : +(91)-(22)-24171515 携帯 : +(91)-9821972254 メール : info@blenzor.com, blenzor@yahoo.co.in URL : www.blenzor.com</p>	<p>ブリスター包装機械、自動ブリスター包装機械、Alu ブリスター包装機械、PVC ブリスター包装機械、ストリップ包装、半自動カプセル充填機械、回転式錠剤機の製造及び輸出。</p>
13. All Pack Machinery	<p>担当者 : Anil Jain (Director) アニル ジェン 氏(ディレクター) S. No. 96, Opp. Hotel Savoy, Off. Sakivihar Road, Sakinaka, Andheri (E), Mumbai(ムンバイ) – 400 072, Maharashtra (マハラシュトラ州) , India(インド) 電話 : +(91)-(22)-2847 2345 携帯 : +(91)-9869044686 メール: saleskint@gmail.com, sallesswp@gmail.com URL : www.allpackmachines.com</p>	<ul style="list-style-type: none"> • シュリンク包装機械

<p>14. Wonder Pack Industries Pvt. Ltd.</p>	<p>担当者： Sheeba Jain (Sales Head) (シーバ ジェン (営業部門長)) P.O. Box - 1037, 25/2/2, Road C, MIDC, Satpur Nashik(ナシック)-422 007、 Maharashtra(マハラシュトラ州) India(インド) 電話： +(91)- (253)-2353443 / 2351080 / 2351058 ファックス： +91-(253)-2350949 メール： info@wonderpackindustries.com, wonderpack_nsk@sancharnet.in</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 連続型真空成形 ● 自動真空成形機械 ● ブリスター成形 / スキン包装、シーリング及び切り抜き
<p>15. Winner Electronics</p>	<p>担当者： Ravinder (ラヴィンデ) 124, Krishna Industrial Estate, Near Dahisar Toll Naka, Dahisar, (East) Mumbai (ムンバイ) 400 068、India(インド) 携帯: +(91)-93245 13961 /+(91) 93230 03315 電話: (+91-22) 3256 2411 ファックス： (+91-22) 2896 0074 メール: winner.electronics@gmail.com URL： www.winnerelectronics.com</p>	<p><u>真空包装機械</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 機械フロア見本 ● 卓上型機械 / 業務用卓上型機械 ● 空気式フロア見本 ● 25kg / 50 ポンドばら包装 ● ダブルチャンバー ● 缶入り印刷用インク ● フロア見本 ● 連続式バンドシーラー

参考書目

1. Trends in Pharma Packaging(医薬品包装傾向) – 記事著者 Arun Arya, Yogesh Murti, Vijay Sharma, Kamla Pathak 及び Devender Pathak
2. www.ghallabhansali.com/admin/file/FMCG.pdf
3. www.infodriveindia.com
4. www.indiamart.com
5. www.indianindustry.com
6. IPAMA Bulletin(IPAMA 報告)
7. www.profitthroughinnovation.com
8. www.dqindia.ciol.com/content/industry/focus/2009/109082401.asp
9. www.fillingmachine.in
10. www.indianyellowpages.com
11. www.timesinfomedia.com/news_processing_packaging_hospitality_machinery
12. www.indiapackagingshow.com/Cpapers/Dr%20Reddy's.pdf
13. www.packplus.in
14. www.tpcindia.org
15. The Packaging Industry in India - An Industry Presentation from Madras Consultancy Group, Chennai
(インドにおける包装業界) – マドラスコンサルタンシーグループ、チェンナイからの産業関係プレゼン
16. Report on Indian Packaging Industry – IBEF
(インド包装業界報告) – IBEF (India Brand Equity Foundation)
17. 様々な包装機械や原料の製造会社のウェブサイト

略語

1. SUP – Stand Up Pouches (スタンドアップポーチ)
2. PET – Polyethylene Terephthalate(ポリエチレンテレフタレート)
3. PE – Polyethylene(ポリエチレン)
4. PVC – Poly Vinyl Chloride(ポリ塩化ビニール)
5. LDPE – Low Density Polyethylene(低密度ポリエチレン)
6. HDPE - High Density Polyethylene(高密度ポリエチレン)
7. BOPP – Biaxially Oriented Polypropylene(二軸延伸ポリプロピレン)
8. BOPET - Biaxially Oriented Polypropylene Terephthalate(二軸延伸ポリプロピレンテレフタレート)
9. CAGR – Compounded Annual Growth Rate(年平均成長率)
10. ASEAN - The Association of Southeast Asian Nations
アセアン - 東南アジア諸国連合
11. JV – Joint Venture(合弁)
12. TPC – Tinplate Promotion Council
13. GDP – Gross Domestic Product(国内総生産)

以上